



福島県立美術館
年報
平成 17 年度
2 0 0 5



福島県立美術館 年報

平成17年度

2005

目次

設置の目的と立地	2
沿 革	3
2005 年度主要記事	4
展示事業	5
・ 常設展	5
・ 特集展示	15
・ 移動美術館	20
・ 企画展	22
・ 熊谷守一展	22
・ New Spirits 福島展	27
・ ジェームズ・アンソール展	30
・ 柳宗悦の民藝と巨匠たち展	35
・ 岡本太郎展	40
・ 名取洋之助と日本工房展	44
普及事業	55
広報・出版	61
調査研究	62
収 集	64
保 存	71
管 理	74
運営・組織	75
・ 観覧者数一覧	75
・ 2005 年度予算内訳	76
・ 関係法規	77
・ 施設／設備	81
・ 福島県立美術館友の会活動報告	83
・ 福島県立美術館協力会活動報告	85
・ 委員会等、組織図	86
・ 利用案内	88

設置の目的と立地



福島県立美術館は、すぐれた美術作品にふれることで人々の感受性が高まり、情操が養われ、憩いと喜びのなかに創造の手がかりが得られる場として、1984(昭和59)年7月に、隣接する福島県立図書館とともに設けられました。

この目的のために、収蔵作品の充実をはかり、貴重な文化財である美術品の保存につとめ、継続的な調査研究にもとづく展示・普及事業を積極的に展開するとともに、美術に関するさまざまな情報を提供します。

美術館は、福島市のシンボルであり、憩いの場として親しまれている信夫山のふもとにあります。福島駅からも近く、交通の便もよい場所にありながら、野鳥の声もきこえる静かで落ち着いた環境にあります。60,000m²もの広大な敷地には、樹木や花々、広い芝生や日本庭園があり、散策や休息の場として親しまれています。

美術館と図書館は、多面的な機能と豊富な情報にもとづく、さまざまなサービスを提供することによって、見る・聴く・語る・作る・考える空間として活用していただくことをめざしています。

沿革

1977 年	5 月	文化を考える県民会議を設置
	6-8 月	文化に関する県民意識調査を実施
1978 年	1 月	文化を考える県民会議より「県の文化振興について」を県知事に報告
	7 月	文化振興会議を設置
1979 年	2 月	文化振興会議より「文化振興策の具体策について」を県知事に報告
	3 月	文化施設等整備基金条例制定
	4 月	県教育庁文化課内に文化施設班を置く
	6 月	福島県立美術館基本構想検討委員会を設置（委員 10 人を委嘱）
	12 月	美術品等取得基金条例制定
1980 年	1 月	「福島県立美術館建設基本構想について」を同委員会より知事に報告
	2 月	美術館・図書館の建設地を福島市に決定 版画家斎藤清氏より県に自作 227 点が寄贈される
	4 月	福島県立美術館収集評価委員会を設置（委員 7 人を委嘱） 美術館・図書館の建設地を福島大学経済学部跡地に決定
	5 月	第 1 回収集評価委員会開催、ワイエス「松ぼっくり男爵」他の購入を決定
	12 月	美術館基本設計を委託（大高建築設計事務所）
1981 年	7 月	美術館実施設計を委託（大高建築設計事務所）
1982 年	7 月	美術館設計工事着工
1984 年	3 月	美術館本体工事完了 福島県立美術館条例を議決
	4 月	福島県立美術館設置
	6 月	福島県立美術館博物館所管の県有美術品 365 点を移管
	7 月	開館（22 日） 初代館長に原田實が就任（-1989 年 3 月） 開館記念展第 1 部「戦後の名作に見る人間像」展開催 所蔵品図録抄を発行
	10 月	第 1 回運営協議会開催
1986 年	3 月	研究紀要第 1 号発行
1989 年	4 月	第二代館長に佐藤昌志が就任（-1990 年 3 月）
1990 年	3 月	収蔵作品図録発行
	4 月	館長事務代行を教育長兼務とする（-1992 年 3 月）
1992 年	4 月	第三代館長に長谷部満彦が就任（-2000 年 3 月）
1994 年	7 月	開館 10 周年記念展「ルネサンスの絵画」「日本画の風景」開催
1995 年	6 月	入館者通算 100 万人を記録する 「アンドリュウ・ワイエス展」開催、会期中に観覧者通算 100 万人を記録する
1998 年	4 月	「ピカソ回顧展」開催、67,125 人の観覧者を記録する
1999 年	3 月	屋根改修工事着工
	8 月	屋根改修工事のため 23 日以降常設展を休止（-2000 年 7 月）
	9 月	通算 100 本目の企画展「生誕 100 年関根正二展」を開催
	10 月	18 日以降臨時休館となる（-2000 年 7 月 19 日） 空調機械改修工事（第一期）着工 「移動美術館」開始（第 1 回は喜多方市美術館）
2000 年	4 月	第四代館長に酒井哲朗が就任
	7 月	空調機械工事（第一期）竣工、再開館
2001 年	11 月	19 日以降臨時休館となる（-2002 年 4 月 26 日）空調機械工事（第二期）等着工
2002 年	3 月	空調機械工事（第二期）、展示室改修工事竣工（県立図書館空調工事も竣工）
	4 月	27 日再開館 レストラン新装開店
	10 月	「美術館友の会（仮称）設立に向けて県民の意見を聴く会」を設置
2003 年	4 月	「福島県立美術館友の会設立発起人会」を開催、友の会発足
2004 年	6 月	「特定非営利活動法人 福島県立美術館協力会」発足
	7 月	「アート オブ スター・ウォーズ展」開催、77,601 人の観覧者を記録する
	10 月	開館 20 周年記念展「田園の夢」開催
2005 年	3 月	収蔵作品図録 1990-2005 発行

2005 年度主要記事（2005.4-2006.3）

2005（平成 17）年

- 4 月 1 日 臨時休館（-7 日）
川田明副館長、渡辺憲雄主査着任
- 4 月 8 日 平成 17 年度第 1 期常設展開幕（-7 月 3 日）
- 4 月 23 日 「熊谷守一展」開幕（-6 月 5 日）
- 5 月 5 日 常設展無料観覧日
- 6 月 16-17 日 全国美術館会議総会出席（金沢）
- 6 月 18 日 「New Spirits 福島展」開会式 同展開幕（-7 月 18 日）
「特集展示 野地正記展」開幕（-7 月 18 日）
- 7 月 1 日 「岡本太郎展実行委員会」発足
- 7 月 5 日 第 2 期常設展開幕（-10 月 2 日）
- 7 月 16 日 博物館実習（-7 月 22 日）
- 7 月 30 日 「ジェームズ・アンソール展」開幕（-9 月 4 日）
- 8 月 9 日 夜間開館により 19 時まで開館延長（-8 月 14 日）
- 8 月 21 日 常設展無料観覧日（県民の日）
- 9 月 12 日 「柳宗悦と民藝の巨匠たち展」開会式
- 9 月 13 日 「柳宗悦と民藝の巨匠たち展」開幕（-10 月 23 日）
- 9 月 19 日 常設展無料観覧日
- 9 月 25 日 「柳宗悦と民藝の巨匠たち展」講演会（講師：松井健氏 於講堂）
- 10 月 4 日 第 3 期常設展開幕（-12 月 25 日）
- 10 月 8 日 「移動美術館 近代日本画の名作展」白河市歴史民俗資料館で開幕（-11 月 6 日）
- 10 月 16 日 友の会研修旅行（茨城県近代美術館、茨城県天心記念五浦美術館）
- 10 月 31 日 「岡本太郎展」開会式
- 11 月 1 日 「岡本太郎展」開幕（-12 月 11 日）
- 11 月 3 日 常設展無料観覧日
「岡本太郎展」講演会（講師：瀬木慎一氏 於講堂）
- 11 月 11 日 「岡本太郎展」観覧者 5 千人達成、記念品贈呈
- 11 月 19 日 「岡本太郎展」観覧者 1 万人達成、記念品贈呈
- 12 月 1 日 ミュージアム・クリスマス（-12 月 25 日）
美術館・図書館合同消防訓練
- 12 月 8 日 「岡本太郎展」観覧者 2 万人達成、記念品贈呈
- 12 月 10 日 クリスマスコンサート（出演：県庁混声合唱団きびたき 於エントランスホール）
- 12 月 24 日 クリスマスコンサート（出演：県立橘高等学校合唱団 於エントランスホール）
- 12 月 27 日 第 4 期常設展開幕（-3 月 26 日）
- 12 月 28 日 年末年始休館（-1 月 4 日）

2006（平成 18）年

- 1 月 12 日 「美術館への年賀状展」開幕（-1 月 31 日）
- 2 月 1 日 平成 17 年度収集評価委員会
- 2 月 11 日 「名取洋之助と日本工房展」開会式 同展開幕（-3 月 26 日）
- 2 月 23 日 平成 17 年度運営協議会
- 3 月 12 日 友の会主催ミュージアム・コンサート（出演：貝山幸子、白土庸介 於エントランスホール）
- 3 月 27 日 臨時休館（-4 月 7 日）
- 3 月 31 日 川田明副館長、早川博明学芸課長退任

常設展

当館所蔵の美術作品を常時公開するもので、年4回（版画は8回）の展示換えを行っている。

2005年度は以下の4期により開催した。

	会期	主なテーマ
第1期	4月 8日～ 7月 3日	酒井三良と近代の日本画
第2期	7月 5日～ 10月 2日	印象派と20世紀アメリカ美術
第3期	10月 4日～ 12月 25日	吉井忠と戦後60年の美術
第4期	12月 27日～ 3月 26日	鈴木治と現代日本の陶芸

□サンデートーク

毎週日曜日午後1時～30分程度、当館学芸員による展示解説を行っている。

2005年度は通常のトークのほかに、外部講師を招いた＜サンデートーク特別版＞を計4回開催した。

開催日	テーマ	担当	参加人数
4/10	シャガール「少年時代の思い出」	荒木	5名
4/17	湯田玉水「春日遅々」	増渕	5名
4/24	古賀春江「赤い風景」	堀	5名
5/1	ベン・シャーン「恐怖の夜の町」	伊藤	7名
5/8	ルオー「ミセレーレ」	久慈	7名
5/15	酒井三良の日本画	佐治	5名
5/22	ワイエス「松ぼっくり男爵」	吉村	6名
5/29	関根正二「神の祈り」	宮武	5名
6/5	吉井忠「百姓祭文」	早川	4名
6/12	山口華楊「畑」	増渕	3名
6/19	「炭坑町」と常磐炭坑	杉浦友治氏（いわき市立美術館学芸員）	4名
6/26	ワイエス「農場にて」	橋本	5名
7/3	鈴木新夫「働く人(A)」	堀	5名
7/10	小川芋銭「細道絵日記」	増渕	5名
7/17	ワイエス「そよ風」	早川	7名
7/24	斎藤義重「作品13」	宮武	5名
7/31	須田珙中「篝火」	堀	9名
8/7	高橋由一「栗山昔時景」	伊藤	15名
8/14	モネ「ジヴェルニーの草原」	荒木	8名
8/21	福王寺法林「バドガオンの月」	花田美穂氏（米沢市上杉博物館主任学芸員）	15名
8/28	ベントンの版画	吉村	4名
9/4	佐藤潤四郎の工芸	佐治	3名
9/11	山口長男「坦」	久慈	4名
9/18	ベン・シャーン「ラッキードラゴン」	荒木	6名
9/25	斎藤清「秋の只見川」	佐治	8名
10/2	大山忠作「O先生」	伊藤	10名
10/9	清宮質文の版画	吉村	7名
10/16	糸園和三郎「夜」	宮武	3名
10/23	麻生三郎「家族」	荒木	5名
10/30	斎藤清「野仏 田代」	増渕	3名
11/6	父・吉井忠のこと	吉井爽子氏（画家）	19名
11/13	酒井三良「文展の図」	佐治	20名
11/20	岸田劉生と劉生額	堀	9名
11/27	師・上野泰郎のこと	橋本卓也氏（画家）	25名
12/4	長谷川潔の版画	久慈	8名
12/11	渡辺学「遺された人」	宮武	26名
12/18	松本竣介「赤い建物」	橋本	1名
12/25	吉井忠「毛馬内風景」	伊藤	4名
1/8	第4期展示の見所紹介	宮武	2名
1/15	ピカソ「二人の裸婦」	荒木	5名
1/22	ベン・シャーン「ドレフェス事件」	伊藤	3名

1/29	菅井汲「二つの箱」	早川	4名
2/5	近代陶芸の意味	佐治	7名
2/12	ルオー「流れる星のサーカス」	久慈	4名
2/19	田中敦子「WORK 1968」	橋本	4名
2/26	横山操の日本画	堀	15名
3/5	斎藤清「港 小樽」	増渕	8名
3/12	斎藤清「霊峰」	吉村	7名
3/19	川崎プッペの人形	宮武	5名
3/26	脇田和「窓」	早川	12名
			計 50 回
			371 名



6月19日（杉浦友治氏）



11月6日（橋本卓也氏）



11月27日（吉井爽子氏）

□出品リスト

□ 第1期 2005年4月8日～7月3日

展示室 A

作家名	作品名	制作年	材質技法	備考
＜酒井三良と近代の日本画＞				
下村観山	寒空	1923	絹本着色	
横山大観	山間旅行之図	1901	紙本墨画	寄託作品
今村紫紅	漁村	1911	絹本着色	
	瀬田風景	1913	絹本着色	
小杉放庵	水荘訪客	大正末	絹本着色	
湯田玉水	春日遅々	1922	紙本墨画淡彩	
平福百穂	ふき	不詳	紙本墨画淡彩	
山口華楊	畑	1925	絹本着色	
小川芋銭	於那羅合戦	1921	紙本墨画淡彩	
酒井三良	春興図	1937	紙本墨画淡彩	寄託作品
	雨後	1947	紙本墨画淡彩	寄託作品
	沖縄風俗	1955	紙本墨画淡彩	
	松籟	1964	紙本墨画淡彩	
	渡頭新雪	1950	紙本墨画淡彩	寄託作品
	水郷の一日	1939	紙本墨画淡彩	
橋本関雪	倪雲林	1917	絹本着色	
荻生天泉	霊夢	1941	絹本着色	
速水御舟	女二題 其一	1931	絹本着色	
	女二題 其二	1931	絹本着色	
安田靉彦	茶室	1962	紙本着色	
中島清之	胡瓜	1923	絹本着色	
会津勝巳	罌粟	1934	紙本着色	
勝田蕉琴	煙る小雨	1922	絹本着色	
＜工芸＞				
佐藤潤四郎	馬	1971	ガラス	
佐藤潤四郎	玻璃花器	1968	ガラス	

作家名	作品名	制作年	材質技法	備考
展示室 B				
<関根正二と近代の洋画>				
岸田劉生	自画像	1914	カンヴァス・油彩	
	静物（白き花瓶と台皿と林檎四個）	1918	カンヴァス・油彩	
恩地孝四郎	静物（レモン）	1920	カンヴァス・油彩	
長谷川利行	浅草の女	1935	カンヴァス・油彩	
石井柏亭	水車場	1927	カンヴァス・油彩	
斎藤与里	裏磐梯	1953	カンヴァス・油彩	
川口軌外	柘榴	1932	カンヴァス・油彩	
前田寛治	裸婦	1925	カンヴァス・油彩	
三岸好太郎	婦人像	1931 頃	紙・グアッシュ	寄託作品
古賀春江	赤い風景	1926	紙・水彩	
関根正二	菊川橋辺り	1918	紙・インク	寄託作品
	砂村石渡牧場	1915	カンヴァス・油彩	寄託作品
	真田吉之助夫妻像	1918	カンヴァス・油彩	
	自画像	1918	カンヴァス・油彩	
	神の祈り	1918 頃	カンヴァス・油彩	
	風景素描	1916	紙・鉛筆	寄託作品
	風景図案	1917 頃	紙・水彩	寄託作品
	風景図案	1917 頃	紙・水彩	寄託作品
吉井 忠	雲・鳩	1954	カンヴァス・油彩	
	百姓祭文	1969	カンヴァス・油彩	
麻生三郎	家族	1948	カンヴァス・油彩	
寺田政明	夜の花	1956	カンヴァス・油彩	
中谷 泰	炭坑町	1963	カンヴァス・油彩	
糸園和三郎	夜	1973	カンヴァス・油彩	
脇田 和	窓	1966	カンヴァス・油彩	
桂 ゆき	親亀の背中に子亀をのせて	1970	板・油彩、コラージュ	
鈴木新夫	働く人 (A)	1969	カンヴァス・油彩	
斑目秀雄	港 運河（横浜）	1959	カンヴァス・油彩	
久野修男	南仏風景 (2)	1980	カンヴァス・油彩	

展示室 C

クロード・モネ	ジヴェルニーの草原	1890	カンヴァス・油彩	
カミーユ・ピサロ	エラニーの菜園	1899	カンヴァス・油彩	
ジャコモ・マンズー	車に乗った子供	1982	ブロンズ	
マルク・シャガール	少年時代の思い出	1958	紙・銅版	全 10 点のうち 4 点展示
フェルナン・レジェ	サーカス	1950	紙・リトグラフ	全 63 点のうち 6 点展示
アンドリュウ・ワイエス	ガニングロック	1966	紙・水彩	
	そよ風	1978	紙・水彩	
	松ぼっくり男爵	1976	ボード・テンペラ	
	ドイツ人の住むところ	1973	紙・水彩	
	農場にて	1988	紙・水彩	
	W.P.A. サンデー	1939	紙・グアッシュ	
ベン・シャーン	スイミングプール	1945	ボード・テンペラ	
	恐怖の夜の町	1951	ボード・グアッシュ、テンペラ	
	創造のアルファベット	1963	ボード・グアッシュ	

展示室 D

ジョルジュ・ルオー	ミセレーレ	紙・銅版	
1. 神よ、我を憐れみたまえ、御身のたいなる慈悲によりて	1923		展示期間：4/8 ～ 5/19
2. 辱められるキリスト…	1922		
5. 罌と悪意のこの世にただ独り	1922		
10. 長き苦悩の古き場末にて	1923		
11. 明日は晴れるだろう、難破した者は、そう言った	1922		
18. 罪を宣告された者は立ち去った…	1922		
19. 弁護士は空ぞらしい言葉で彼に悪意なしと主張する…	1922		
24. <冬、大地の癪>	1922		
27. 物に涙あり…	1926		
28. <我を信ずる者は死すとも生きん>	1923		
29. 朝の祈りを歌えよ、日は甦える	1922		
30. 我ら…彼の死において、洗礼を受けたり	不詳		

作家名	作品名	制作年	材質技法	備考
	31. <汝ら、互いに愛し合うべし>	1923		展示期間：4/8～5/19
	32. 主よ、御身なり、われは御身を認む	1927		展示期間：5/20～7/3
	36. これでお終いだよ、おやじさん！	1927		
	38. シナ人が火薬を発明し、私たちに贈ってくれたと人は言う	1926		
	40. 顔つき合わせ	1926		
	43. <我らは死すべきもの、我らも彼らの仲間すべても>	1922		
	45. 死は彼らを奪いぬ、いら草の床より出でしとき	1922		
	49. 心気高ければ、首筋強張らず>	1926		
	50. <爪と嘴にて>	1926		
	53. 七剣の悲しみを負う聖母	1926		
	54. <死者よ起て！>	1927		
	55. 盲人も、時に目明きを慰めた	1926		
	57. <死に至るまで、そして十字架上の死に至るまで従順なる>	1926		
	58. <我らが癒されたるは、彼の打傷によりてなり>	1922		

斎藤 清	椿	1948	紙・木版	展示期間：4/8～5/19
	白い夢	1949	紙・木版	
	瞳（白椿）	1950	紙・木版	
	マンジュシャゲ・プロフィール	1959	紙・木版	
	アネモネ	1963	紙・コラグラフ	
	桂 京都'70(C)	1970	紙・木版	
	六月、鎌倉(B)	1972	紙・木版	
	六月	1972	紙・木版	
	凝視（猫）	1948	紙・木版	
	凝視	1971	紙・木版	
	競艶	1973	紙・木版	
	猫(1)	1963	紙・コラグラフ	
	猫(4)	1963	紙・コラグラフ	
	猫(5)	1963	紙・コラグラフ	
	赤い花	1948	紙・木版	展示期間：5/20～7/3
	孤独	1948	紙・木版	
	アネモネ	1963	紙・木版	
	凝視（花）	1950	紙・木版	
	パンジー	1963	紙・コラグラフ	
	パンジー	1964	紙・木版	
	夢(B)	1971	紙・木版	
	六月、鎌倉(G)	1976	紙・木版	
	愛撫(A)	1953	紙・木版	
	凝視（二匹の猫）	1952	紙・木版	
	猜疑	1973	紙・木版	
	猫(2)	1963	紙・コラグラフ	
	猫(3)	1963	紙・コラグラフ	
	猫(6)	1963	紙・コラグラフ	

◇彫刻作品（ホール及び野外） ＊年間を通じて展示換えなし

井上武吉	MY SKY HOLE 89-2	1989	ステンレス鏡面磨き	
フェルナン・レジェ	歩く花	1952-53 原型作成	ブロンズ・エナメル塗装	寄託作品
マリノ・マリーニ	騎手	1956-57	ブロンズ	
ヘンリー・ムーア	母と子：腕	1980	ブロンズ	
佐藤忠良	若い女・シャツ	1982	ブロンズ	
エミリオ・グレコ	スケートをする女	1951	ブロンズ	

□ 第2期 2005年7月5日～10月2日

展示室 A

小川芋銭	細道絵日記	1911	紙本着色	
須田珙中	溪の葉月	1936	紙本着色	寄託作品
	篝火	1959	紙本着色	
今井珠泉	夕照	1967	紙本着色	
池田遙邨	大漁	1932	紙本着色	
大山忠作	O 先生	1946	紙本着色	
中野蒼穹	爽晨	1969	紙本着色	

作家名	作品名	制作年	材質技法	備考
永山十志夫	雨の窓	1974	紙本着色	
池田幹雄	夏の記憶	1987	紙本着色	
福王寺法林	バドガオンの月	1982	紙本着色	
	ヒマラヤの花	1983	紙本着色	
斎藤 清	ハニワ	1953	紙・木版	展示期間：7/5～8/24
	土偶	1959	紙・木版	
	さくらんぼ	1959	紙・木版	
	サボテン、メキシコ (A)	1963	紙・コラグラフ	
	メキシコ (B)	1963	紙・コラグラフ	
	タヒチ (A)	1964	紙・木版	
	夏	1967	紙・木版	
	夏 (A)	1972	紙・木版	
	夏 '73	1973	紙・木版	
	月下美人 (B)	1975	紙・木版	
	炎 (A)	1978	紙・木版	
	庭、秋の会津	1972	紙・木版	展示期間：8/25～10/2
	初秋、会津	1973	紙・木版	
	稔りの会津 (3)	1975	紙・木版	
	只見川、会津柳津 (1)	1979	紙・木版	
	只見川、会津柳津 (2)	1979	紙・木版	
	只見川、会津柳津 (3)	1980	紙・木版	
	秋の只見川、会津柳津	1980	紙・木版	
	秋の只見	1980	紙・木版	
佐藤潤四郎	金紅被硝子大皿	1979	ガラス	

展示室 B

高橋由一	栗子山昔時景	1881	カンヴァス・油彩	
	鐸木西美像	1881	カンヴァス・油彩	
岸田劉生	静物（白き花瓶と台皿と林檎四個）	1918	カンヴァス・油彩	
恩地孝四郎	自画像 D（白和服）	1919	カンヴァス・油彩	
須田国太郎	ダロカ古城（城外）	1922	カンヴァス・油彩	寄託作品
木村荘八	樹の下に遊んでいる子供	1915	カンヴァス・油彩	
石井柏亨	果樹園の午後	1928	カンヴァス・油彩	
寺田政明	谷中風景	1929	ボール紙・油彩	
猪熊弦一郎	風景	1935	カンヴァス・油彩	寄託作品
松本竣介	駅	1942	カンヴァス・油彩	

<関根正二と村山槐多の作品>

村山槐多	庭園の少女	1914	紙・水彩	
	樹木（けやき）	1917	紙・木炭	
関根正二	牛舎	1915 頃	カンヴァス・油彩	
	風景	1915 頃	カンヴァス・油彩	寄託作品
	風景	1916 頃	板・油彩	
	井上郁像	1917	カンヴァス・油彩	寄託作品
	自画像	1918	カンヴァス・油彩	
	姉弟	1918	カンヴァス・油彩	

菅井 汲	YARI	1958	カンヴァス・油彩	
杉全 直	眼 No. 6	1960	カンヴァス・油彩	
斎藤義重	作品	1961	合板・油彩、ドリル	
山口長男	垣	1962	カンヴァス・油彩	
元永定正	作品 (1)	1959 頃	板・油彩	
村井正誠	風の人	1968	カンヴァス・油彩	
針生鎮郎	王と妃・面－ M	1988	カンヴァス・油彩	
田淵安一	豊饒の樹－未完の季節 No.1	1978	カンヴァス・油彩	

<渡部菊二の水彩画>

渡部菊二	裏町	1932	紙・水彩	
	夏の女	1938	紙・水彩	
	勤労の娘たち	1940	紙・水彩	
	夏の子	1943	紙・水彩	
	耕す家族	不詳	紙・水彩	

展示室 C

作家名	作品名	制作年	材質技法	備考
< 20 世紀アメリカ絵画 >				
ジョン・スローン	サンタ・フェからの二人の女	1921	カンヴァス・油彩	
レジナルド・マーシュ	回転ブランコ	1931	板・テンペラ	
国吉康雄	婦人と子供	1920	カンヴァス・油彩	
ベン・シャーン	トム・ムーニーの母親に挨拶するジミー・ウォーカー	1932-33	紙・グアッシュ	
	これがナチの残虐だ	1942	紙・オフセット	
	農民にたずねよ	1941	ボード・グアッシュ	
	スイミングプール	1945	ボード・テンペラ	
	ラッキードラゴン	1960	綿布・テンペラ	
アンドリュー・ワイエス	ガニングロック	1966	紙・水彩	
	ドイツ人の住むところ	1973	紙・水彩	
	そよ風	1978	紙・水彩	
	冬の水車小屋	1978	紙・水彩	
< 印象派の絵画 >				
クロード・モネ	ジヴェルニーの草原	1890	カンヴァス・油彩	
カミーユ・ピサロ	エラニーの菜園	1899	カンヴァス・油彩	
ポール・ゴーギャン	ブルターニュの子供	1889	紙・水彩、パステル	

展示室 D

＜ベン・シャーンの版画＞				
ベン・シャーン	リルケ「マルテの手記より」	1968	紙・リトグラフ	
1. 扉Ⅰ				展示期間：7/5 ～ 8/24
2. 扉Ⅱ				
3. 多くの都市を				
4. 多くの人々を				
5. 多くの事物を				
6. 禽獣を知らねばならぬ				
7. 飛ぶ鳥の姿				
8. 小さな草花のたたずまい				
9. まだ知らぬ国々の道を				
10. 思いがけぬ邂逅				
11. 遠くから近づいて来るのが見える別離				展示期間：8/25 ～ 10/2
12. 少年の日の思い出を				
13. 心を悲しませてしまった両親を				
14. 少年時代の病気を				
15. 静かなしんとした部屋で				
16. 海辺の朝				
17. 海そのものの姿				
18. 星くずとともに消え去った旅寝の夜々				
19. 愛にみちた多くの夜の回想				
20. 産婦の叫び				
21. 白衣の中に眠りおちて恢復をまつ産後の女				
22. 死んでゆく人の枕もと				
23. 死者の傍で				
24. 一篇の詩の最初の言葉				
＜新収蔵 トーマス・ハート・ベントンの版画＞				
トーマス・ハート・ベントン	サワーウッド・マウンテンで彼女ができたよ	1938	紙・リトグラフ	
	川下り	1939	紙・リトグラフ	
	日曜日の朝	1939	紙・リトグラフ	
	麦を収穫する	1939	紙・リトグラフ	
ジャコモ・マンズー	車に乗った子供	1982	ブロンズ	

□ 第3期 2005年10月4日～12月25日

展示室 A

< 秋の情景 >				
坂内青嵐	運動会之図	1915	紙本着色	寄託作品
酒井三良	文展の図	1917-18	紙本着色	
	村芝居	1921-24	絹本着色	

作家名	作品名	制作年	材質技法	備考
酒井三良	残秋	1933	紙本着色	
伊東深水	釣	不詳	紙本着色	寄託作品
荻生天泉	花卉虫鳥類写生図巻 第二巻	1921	紙本着色	
＜上野泰郎と創画会の画家たち＞				
上野泰郎	人間讃美	1977	紙本着色	
山本丘人	月夜の噴煙	1962	絹本着色	
鈴木芳子	ある家族の肖像	1975	紙本着色	
渡辺 学	遺された人	1981	紙本着色	
仲山計介	エオンタ No.6201-6203	1987	紙本着色	
＜斎藤清の墨画と版画＞				
斎藤 清	野仏、田代 (3)	1977	紙本墨画	
	野仏、田代 (5)	1977	紙本墨画	
	会津の冬 (1) 西会津・上安座	1982	紙本墨画	展示期間：10/4～11/17
	会津の冬、高田・戦場	1983	紙本墨画	
	会津の冬、坂下町南裏通り (1)	1984	紙本墨画	
	会津の冬 (11)	1970	紙・木版	
	会津の冬 (26)	1977	紙・木版	
	会津の冬 (45)	1981	紙・木版	
	会津の冬 (55)	1982	紙・木版	
	会津の冬 (61) 高田町・戦場	1986	紙・木版	
	会津の冬 (69) 坂下町南裏通り	1987	紙・木版	
	会津の冬 (5) 西会津・牧	1982	紙本墨画	展示期間：11/18～12/25
	会津の冬、三島・大石田	1984	紙本墨画	
	会津の冬、喜多方・菅原町	1985	紙本墨画	
	会津の冬 (13)	1970	紙・木版	
	会津の冬 (43)	1981	紙・木版	
	会津の冬 (53)	1982	紙・木版	
	会津の冬 (62) 三島町 大石田	1986	紙・木版	
	会津の冬 (74) 喜多方	1987	紙・木版	
	会津の冬 (77) 西会津 牧	1988	紙・木版	
坂本朝夫	トロピカル・ブリーズ	1990	プラスチック	

展示室 B

＜大正・昭和期の洋画＞				
岸田劉生	自画像	1914	カンヴァス・油彩	
	静物（白き花瓶と台皿と林檎四個）	1918	カンヴァス・油彩	
万鉄五郎	庫	1918	カンヴァス・油彩	
木村荘八	樹の下に遊んでいる子供	1915	カンヴァス・油彩	
	浅草元旦	1945	カンヴァス・油彩	
長谷川昇	裸婦	1928	カンヴァス・油彩	
前田寛治	裸婦	1925	カンヴァス・油彩	
長谷川利行	浅草の女	1935	カンヴァス・油彩	
松本竣介	赤い建物	1936	紙・油彩	
川口軌外	柘榴	1932	カンヴァス・油彩	
＜関根正二の作品＞				
関根正二	死を思う日	1915	カンヴァス・油彩	寄託作品
	一本杉の風景	1918	カンヴァス・油彩	
	真田吉之助夫妻像	1918	カンヴァス・油彩	
	姉弟	1918	カンヴァス・油彩	
	神の祈り	1918 頃	カンヴァス・油彩	
	銚子海岸	1916	紙・インク	
	男の顔	1917	紙・インク	
	チューリップ	1918	紙・インク	
	祈り	1919	紙・鉛筆	
＜吉井忠の作品＞				
吉井 忠	像（自画像）	1940	カンヴァス・油彩	寄託作品
	毛馬内風景	1943	カンヴァス・油彩	寄託作品
	盲目	1948	カンヴァス・油彩	寄託作品
	静物（卵と巣）	1955	カンヴァス・油彩	寄託作品
	彫刻する女	1956	カンヴァス・油彩	寄託作品

作家名	作品名	制作年	材質技法	備考
吉井 忠	青の女	1957	カンヴァス・油彩	寄託作品
	辺土	1961	カンヴァス・油彩	寄託作品
	津軽にて	1967	カンヴァス・油彩	寄託作品
	あぶくまの少女	1969	カンヴァス・油彩	寄託作品
	夕やけの中の風景	1970	カンヴァス・油彩	寄託作品
	晴れた日（平泉）	1975	カンヴァス・油彩	寄託作品

<吉井忠の友人たち>

麻生三郎	家族	1959	カンヴァス・油彩	
中谷 泰	常滑	1964	カンヴァス・油彩	
糸園和三郎	夜	1973	カンヴァス・油彩	
菅井 汲	二つの箱	1965	合板・アクリル、キャスト	
	二つの箱	1966	合板・アクリル、キャスト	

展示室 C

<20世紀アメリカの絵画>

ジョン・スローン	ジェファーソン・マーケット、ナイト	1911	カンヴァス・油彩	
レジナルド・マーシュ	回転ブランコ	1931	板・テンペラ	
清水登之	十四番街の地下鉄駅	1918	カンヴァス・油彩	
ベン・シャーン	W.P.A. サンデー	1939	紙・グアッシュ	
	警告！インフレーションは不況を意味する	1946	紙・オフセット	
	反動の魔手を打ち砕け	1946	紙・オフセット	
	恐怖の夜の町	1951	ボード・グアッシュ、テンペラ	
	創造のアルファベット	1963	ボード・グアッシュ	
	ガニングロック	1966	紙・水彩	
アンドリュー・ワイエス	そよ風	1978	紙・水彩	
	冬の車庫小屋	1978	紙・水彩	
	農場にて	1989	紙・水彩	

<印象派の絵画>

クロード・モネ	ジヴェルニーの草原	1890	カンヴァス・油彩	
カミーユ・ピサロ	エラニーの菜園	1899	カンヴァス・油彩	

ジャコモ・マンズー	車に乗った子供	1982	ブロンズ	
-----------	---------	------	------	--

展示室 D

<清宮質文の版画>

清宮質文	ある空間（蝶）	1962	紙・木版	展示期間：10/4～11/17
	火屋の中	1966	紙・木版	
	歳月	1970	紙・木版	
	九月の海辺	1970	紙・木版	
	窓のカンテラ	1972	紙・木版	
	入日	1972	紙・木版	
	夕日の静物	1972	紙・木版	
	虜囚の窓	1972	紙・木版	
	葬送の花火	1973	紙・木版	
	深夜の蠟燭	1974	紙・木版	
	早春の静物	1977	紙・木版	

<長谷川潔と駒井哲郎の版画>

長谷川潔	アレキサンドルⅢ世橋とフランス飛行船	1930	紙・銅版	展示期間：11/18～12/25
	コップのダリア	1935	紙・銅版	
	サン＝ポール＝ド＝ヴァンスの風景	1936	紙・銅版	
	玻璃球のある静物	1959	紙・銅版	
	セードルの実のある静物画	1960	紙・銅版	
	狐と葡萄（ラ・フォンテーヌ寓話）	1963	紙・銅版	
	メキシコの鳩	1966	紙・銅版	
	メキシコの種子草	1967	紙・銅版	
駒井哲郎	思い出	1948	紙・銅版	
	束の間の幻影	1950	紙・銅版	
	海底の祭	1951	紙・銅版	
	墓（マルドロオルの歌）	1956	紙・銅版	
	調理場	1958	紙・銅版	

作家名	作品名	制作年	材質技法	備考
駒井哲郎	鳥と果実	1959	紙・銅版	展示期間：11/18～12/25
	調理場	1960	紙・銅版	

□ 第4期 2005年12月27日～2006年3月26日

展示室 A

<工芸／日本画>

伊砂利彦	松一月待ち―	1965	紙・型絵染	
	松―集約―	1968	紙・型絵染	
	沖縄戦で逝きし人々にささげる鎮魂歌	1991	紙・型絵染	
	海で逝きし人々にささげる鎮魂歌	1992	紙・型絵染	
鈴木 治	数の土面	1963	陶器	
	泥象	1965	陶器	
	鷹	1990	陶器	
	連歌	1991	陶器	
山田 光	作品	1966	陶器	
	白の間隙	1971	陶器	
	黒陶と金彩の窓	1981	陶器	
	黒陶 数字と窓	1984	陶器	
	銀泥 楕円のパイプ	1995	陶器	
福田豊四郎	ふるさとへ帰る	1964	紙本着色	
山本丘人	月夜の噴煙	1962	絹本着色	
太田正弘	野の冬	1975	紙本着色	
上野泰郎	人間讃美	1977	紙本着色	
横山 操	建設	1960	紙本着色	
	黒い工場	1961	紙本着色	

展示室 B

<国内洋画／海外版画>

安井曾太郎	ターブルの上	1912	カンヴァス・油彩	
岸田劉生	自画像	1914	カンヴァス・油彩	
万鉄五郎	庫	1918	カンヴァス・油彩	
恩地孝四郎	静物（レモン）	1920	カンヴァス・油彩	
木村莊八	浅草元旦	1945	カンヴァス・油彩	
関根正二	死を思う日	1915	カンヴァス・油彩	寄託作品
	神の祈り	1918 頃	カンヴァス・油彩	
	自画像	1916 頃	紙・インク	
	裏の娘	1917	紙・水彩、パステル、鉛筆	
小出櫓重	けしの花	1926	紙・グアッシュ	
古賀春江	赤い風景	1926	紙・水彩	
三岸好太郎	婦人像	1931 頃	紙・グアッシュ	寄託作品
北川民次	二十年目の悲しみの夜	1965	カンヴァス・油彩	
脇田 和	窓	1966	カンヴァス・油彩	
田淵安一	春 No.1	1997	カンヴァス・油彩	
針生鎮郎	王と妃・面―M	1988	カンヴァス・油彩	
菅井 汲	二つの箱	1965	合板・アクリル、キャスト	
	二つの箱	1966	合板・アクリル、キャスト	
田中敦子	WORK 1968	1968	カンヴァス・エナメル、鉄、モーター	
パブロ・ピカソ	二人の裸婦	1945-46	紙・リトグラフ	18点組のうち9点展示
ジョルジュ・ルオー	流れる星のサーカス	1934-38	紙・エッチング、アクアチント	17点組のうち8点展示
マルク・シャガール	夜	1958	紙・エッチング、アクアチント	10点組のうち5点展示

展示室 C

<海外作品>

ジョン・スローン	ジェファーソン・マーケット、ナイト	1909	カンヴァス・油彩	
	サンタフェからの二人の女	1921	カンヴァス・油彩	
清水登之	十四番街の地下鉄駅	1918	カンヴァス・油彩	
野田英夫	牛乳ワゴン	1936	カンヴァス・油彩	
レジナルド・マーシュ	回転ブランコ	1931	板・テンペラ	

作家名	作品名	制作年	材質技法	備考
アンドリュー・ワイエス	ドイツ人の住むところ	1973	紙・水彩	
	冬の水車小屋	1978	紙・水彩	
	農場にて	1989	紙・水彩	
ベン・シャーン	トム・ムーニーの母親に挨拶するジミー・ウォーカー	1932-33	紙・グアッシュ	
	農民にたずねよ	1946	紙・オフセット	
	ラッキードラゴン	1960	紙・テンペラ	
	恐怖の夜の町	1951	ボード・グアッシュ、テンペラ	
	ドレフュス事件	1930/ 1984 刊行	紙・ポショワール	8点組

展示室 D

＜生誕百年・川崎プッペの人形＞

川崎プッペ	飛騨の荷そりを引く童	1970	石膏・布張り	
	スキーをする少年	不詳	石膏・布張り	個人蔵
	竹馬A	不詳	石膏・布張り	白河市歴史民俗資料館蔵
	弦	1973	石膏・布張り	
	雪の夜ばなし	不詳	石膏・布張り	白河市教育委員会蔵
	誕生	1966	石膏・金彩	寄託作品

＜斎藤清の版画＞

斎藤 清	霊峰 (1)	1980	紙・木版	展示期間：12/27～2/23
	霊峰 (3)	1980	紙・木版	
	霊峰 (7)	1980	紙・木版	
	霊峰 (13)	1980	紙・木版	
	霊峰 (15)	1980	紙・木版	
	会津の冬 (坂下)	1940	紙・木版	
	港 小樽	1948	紙・木版	
	雪のボストン	1963	紙・コラグラフ	
	冬のパリ (C)	1966	紙・木版	
	冬の寂光院、京都	1964	紙・木版	
	雪の八瀬、京都	1974	紙・木版	展示期間：2/24～3/26
	会津の冬 (1)	1970	紙・木版	
	霊峰 (2)	1980	紙・木版	
	霊峰 (5)	1980	紙・木版	
	霊峰 (11)	1980	紙・木版	
	霊峰 (16)	1980	紙・木版	
	霊峰 (19)	1980	紙・木版	
	北海の魚市	1940	紙・木版	
	港 小樽	1948	紙・木版	
	冬の祇王寺、京都	1964	紙・木版	
	冬の地藏院、衣笠山	1968	紙・木版	
	雪の八幡宮、鎌倉	1974	紙・木版	
	会津の冬 (21)	1974	紙・木版	
	会津の春	1974	紙・木版	

野地正記展—迷宮という秩序—

二本松ゆかりの洋画家、野地正記（のぢまさき、1914-1997）の特異な画業を回顧する初の展覧会。神奈川県登戸村に生まれた野地は、関東大震災後両親の郷里・福島県二本松に移り、福島県立安達中学をへて、1933（昭和8）年東京美術学校図画師範科に入学、本格的に油絵を学ぶ。卒業後は、釧路、長岡、銚子で中学校の美術教師を務めながら、朔日会に出品するようになる。43年に応召、マライで終戦を迎える。戦後は過酷な抑留生活を送り、47年に復員、翌48年には足立区の中学校で美術教師に復帰。同年、第17回朔日会展に記念碑的大作《スダマテイ》をはじめとする、マライ俘虜時代の記録画200点を特別陳列し、大きな反響を呼ぶ。その後は、シュルレアリスムに傾倒し、読売アンデパンダン展で瀧口修造に認められると、56年には初個展をタケミヤ画廊で開催。その後は個展を中心に活動し、1997年11月12日、呼吸不全のため81年の生涯を閉じた。

野地の作風は、マライ俘虜の記録画を頂点とする具象的傾向と、1950年代以降の有機抽象傾向のものに大別される。本展では初期から晩年までの代表作236点により、知られざる画業の全容を明らかにするとともに、瀧口からの書簡や周辺資料により二人の交遊についても紹介した。

会期：2005年6月18日(土)～7月18日(月・祝)

休館日：毎週月曜日

会場：企画展示室B

担当学芸員：堀宜雄

展覧会図録（24.5 × 18.5cm 蛇腹折り 32頁）

図版：カラー 83点、白黒 10点

本文：「野地正記 未完の誘惑」堀宜雄（当館学芸員）

資料紹介「野地正記 抑留手記」

関連事業：ギャラリートーク

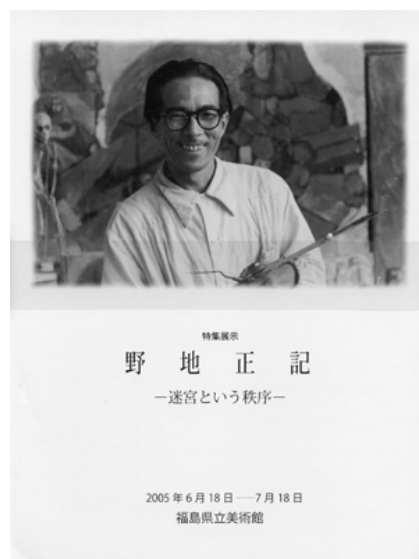
6月18日(土) 堀宜雄 20名

7月1日(金) 堀宜雄 30名

関連記事：田中三蔵「野地正記展」『朝日新聞』6月28日



展示風景



カタログ表紙

出品リスト

No.	作品名（〔 〕 は仮題）	制作年	材質技法	寸法 (mm)
1	[自画像]	1933-36	ボード・油彩	312 × 226
2	[自画像 (あごに手をあてる)]	1933-36	板・油彩	236 × 162
3	[自画像]	1933-43	板・油彩	330 × 237
4	[自画像] (裏面に風景)	1933-36	板・油彩	227 × 156
5	[椅子に座る裸婦]	1933-43	カンヴァス・油彩	645 × 522
6	[裸婦立像]	1933-43	カンヴァス・油彩	644 × 524
7	[静物]	1933-43	カンヴァス・油彩	717 × 904
8	[樹間風景]	1933-43	カンヴァス・油彩	450 × 597
9	[木立]	1933-43	カンヴァス・油彩	453 × 377
10	[男]	1933-43	カンヴァス・油彩	604 × 506
11	風景 (長岡風景)	1942	カンヴァス・油彩	414 × 534
12	少年	1949-50 年代	カンヴァス・油彩	270 × 220
13	スダマティ (死んでしまった)	1948	紙・水彩, インク	2650 × 5635
14	生きている	1948.8	紙・水彩	1195 × 3376
15	[群像習作 1]	1948.8	紙・パステル, 木炭	511 × 658
16	[群像習作 2]	1948.8	紙・パステル, 木炭, 墨	689 × 1015
17	[群像習作 3]	1947-48	紙・水彩, インク	464 × 624
18	[群像習作 4]	1947-48	紙・水彩, インク	525 × 772
19	マライスケッチ [立像 1]	1948 以前	紙・パステル, インク	230 × 278
20	マライスケッチ [立像 2]	1947 以前	紙・水彩, インク	202 × 220
21	マライスケッチ [立像 3]	1947 以前	紙・水彩, インク	204 × 227
22	マライスケッチ [立像 4]	1947 以前	紙・水彩, インク	204 × 278
23	マライスケッチ [立像 5]	1947 以前	紙・鉛筆	262 × 195
24	マライスケッチ [立像 6]	1947 以前	紙・鉛筆, 水彩	262 × 197
25	マライスケッチ [立像 7]	1947 以前	紙・水彩, インク	277 × 375
26	マライスケッチ [立像 8]	1947 以前	紙・パステル, 水彩	199 × 197
27	マライスケッチ [立像 9]	1947 以前	紙・水彩, インク	247 × 353
28	マライスケッチ [立像 10]	1947 以前	紙・水彩, インク	193 × 518
29	マライスケッチ [立像 11]	1948 以前	紙・水彩, インク	235 × 295
30	マライスケッチ [立像 12]	1947 以前	紙・水彩, 木炭	238 × 175
31	マライスケッチ [立像 13]	1947 以前	紙・水彩, 木炭	310 × 249
32	マライスケッチ [立像 14]	1947 以前	紙・水彩	241 × 320
33	マライスケッチ [立像 15]	1947 以前	紙・水彩	247 × 310
34	マライスケッチ [座像 1]	1948 以前	紙・コンテ	260 × 195
35	マライスケッチ [座像 2]	1947 以前	紙・水彩, インク	196 × 292
36	マライスケッチ [座像 3]	1947 以前	紙・水彩, インク	154 × 223
37	マライスケッチ [座像 4]	1947 以前	紙・水彩, インク	177 × 250
38	マライスケッチ [座像 5]	1947 以前	紙・水彩, インク	183 × 250
39	マライスケッチ [座像 6]	1947 以前	紙・水彩, インク	194 × 208
40	マライスケッチ [座像 7]	1947 以前	紙・水彩, インク	248 × 354
41	マライスケッチ [座像 8]	1947	紙・水彩, インク	24 × 353
42	マライスケッチ 印度女水浴	1945.11	紙・水彩, インク	179 × 250
43	マライスケッチ 印度女水浴 2	1947 以前	紙・水彩, インク	163 × 211
44	マライスケッチ [女性座像 1]	1948 以前	紙・水彩, インク	188 × 279
45	マライスケッチ [女性座像 2]	1947 以前	紙・水彩, インク	229 × 281
46	マライスケッチ [風景 (広場のある)]	1948 以前	紙・インク	137 × 157
47	マライスケッチ [風景 (尖塔のある)]	1948 以前	紙・インク	245 × 120
48	マライスケッチ [風景 (ヤシの木のある)]	1948 以前	紙・インク	121 × 245
49	マライスケッチ [風景 (広場のある)]	1948 以前	紙・インク	120 × 245
50	マライスケッチ [風景 (倉庫のある)]	1947	紙・インク	120 × 245
51	マライスケッチ [港風景]	1947	紙・インク	120 × 245
52	マライスケッチ [風景 (広場のある)]	1947	紙・インク	120 × 245
53	マライスケッチ [風景 (山並み)]	1947.7.23	紙・インク	120 × 245
54	マライスケッチ [市街地風景]	1947	紙・パステル, インク	119 × 246
55	マライスケッチ [風景 (山並み)]	1948 以前	紙・パステル, 木炭	195 × 259
56	マライスケッチ [風景 (山並み)]	1947.11.3	紙・パステル, 木炭	293 × 441
57	マライスケッチ [風景 (山並み)]	1954	紙・パステル, インク	293 × 440
58	マライスケッチ [風景 (河口)]	1947 以前	紙・水彩, インク	197 × 262
59	マライスケッチ 第3号兵舎	1946.6	紙・水彩, インク	113 × 196
60	マライスケッチ [収容所]	1947 以前	紙・水彩, インク	173 × 216
61	マライスケッチ 椰子の一種	1948 以前	紙・鉛筆	262 × 378
62	マライスケッチ帖	1948 以前	紙・水彩, 木炭, パステルなど	245 × 185
62-01	マライスケッチ帖 01 ー男三人	1948 以前	紙・水彩	
62-02	マライスケッチ帖 02 ー宇宙が粉になっても	1948 以前	紙・チョーク	
62-03	マライスケッチ帖 03 ー人物	1948 以前	紙・水彩	
62-04	マライスケッチ帖 04 ー風景	1948 以前	紙・インク	
62-05	マライスケッチ帖 05 ー人物三人	1948 以前	紙・水彩	
62-06	マライスケッチ帖 06 ー女	1948 以前	紙・水彩	

No.	作品名 ([] は仮題)	制作年	材質技法	寸法 (mm)
62-07	マライスケッチ帖 07 ー群像スケッチ	1948 以前	紙・鉛筆	
62-08	マライスケッチ帖 08 ー	1948 以前	紙・鉛筆	
62-09	マライスケッチ帖 09 ージョロンキャンプ	1948 以前	紙・鉛筆	
62-10	マライスケッチ帖 10 ージョロンキャンプ	1948 以前	紙・鉛筆	
62-11	マライスケッチ帖 11 ー市街風景	1948 以前	紙・水彩	
62-12	マライスケッチ帖 12 ーキャンプ	1948 以前	紙・水彩	
62-13	マライスケッチ帖 13 ーキャンプ	1948 以前	紙・水彩	
62-14	マライスケッチ帖 14 ー	1948 以前	紙・水彩	
62-15	マライスケッチ帖 15 ー	1948 以前	紙・水彩	
62-16	マライスケッチ帖 16 ー	1948 以前	紙・木炭	
62-17	マライスケッチ帖 17 ー	1948 以前	紙・パステル	
63	マライスケッチ [婦人像 (鉛筆)]	1947 以前	紙・鉛筆	258 × 195
64	マライスケッチ [婦人像 (水彩)]	1948 以前	紙・水彩, 墨	275 × 187
65	マライスケッチ [牛をつれた女]	1947	紙・パステル	231 × 103
66	マライスケッチ [後ろ姿の女]	1947 以前	紙・パステル, インク	300 × 135
67	マライスケッチ [ペールの女 1]	1947 以前	紙・パステル, インク	248 × 166
68	マライスケッチ [ペールの女 2]	1947.7	紙・水彩, インク	248 × 194
69	マライスケッチ [ペールの女 3]	1947 以前	紙・水彩, インク	249 × 175
70	マライスケッチ [ペールの女 4]	1947 以前	紙・パステル, インク	292 × 175
71	マライスケッチ [ペールの女 5]	1947 以前	紙・パステル, インク	293 × 173
72	マライスケッチ [ふりむいた女]	1947 以前	紙・水彩, インク	246 × 179
73	マライスケッチ [帽子をかぶった女]	1947 以前	紙・パステル, 木炭	213 × 153
74	マライスケッチ [女の頭部]	1948.8.24	紙・水彩, インク	255 × 205
75	マライスケッチ [日本兵 1]	1947 以前	紙・インク	214 × 105
76	マライスケッチ [日本兵 2]	1947 以前	紙・インク	214 × 105
77	マライスケッチ [マレーの男]	1947 以前	紙・インク	245 × 120
78	マライスケッチ [鶏をもつ男 1]	1947 以前	紙・パステル, インク	245 × 120
79	マライスケッチ [鶏をもつ男 2]	1948 以前	紙・パステル, インク	248 × 117
80	マライスケッチ [ターバンを巻いた男]	1947 以前	紙・パステル, インク	244 × 119
81	マライスケッチ [おんぶする女]	1948 以前	紙・パステル, インク	247 × 117
82	マライスケッチ [水を運ぶ女]	1947 以前	紙・パステル, インク	247 × 117
83	マライスケッチ [すわった男]	1948 以前	紙・パステル, インク	245 × 120
84	マライスケッチ [立てる男]	1947 以前	紙・パステル, インク	330 × 115
85	マライスケッチ [手をあげる男]	1947 以前	紙・パステル, インク	350 × 116
86	マライスケッチ [警官]	1947 以前	紙・パステル, インク	348 × 118
87	マライスケッチ [男立像]	1947 以前	紙・パステル, インク	314 × 115
88	マライスケッチ [男の頭部 1]	1947 以前	紙・パステル, インク	203 × 165
89	マライスケッチ [男の頭部 2]	1947 以前	紙・パステル, インク	238 × 143
90	マライスケッチ [ひげの男]	1947 以前	紙・パステル	204 × 141
91	マライスケッチ [にらむ男]	1947 以前	紙・パステル, インク	230 × 142
92	マライスケッチ [しゃがんだ男]	1947 以前	紙・パステル, インク	216 × 170
93	マライスケッチ [インドの女]	1947 以前	紙・パステル, インク	200 × 132
94	マライスケッチ [女の頭部]	1947 以前	紙・パステル, 水彩	239 × 141
95	マライスケッチ [椅子にすわった男]	1947 以前	紙・水彩, インク	153 × 142
96	マライスケッチ [老婆]	1947 以前	紙・パステル, 鉛筆	293 × 170
97	マライスケッチ [老婆デッサン]	1947 以前	紙・鉛筆	258 × 195
98	マライスケッチ [杖をつく老婆]	1947 以前	紙・鉛筆, 水彩	262 × 196
99	マライスケッチ [しばられた女]	1947 以前	紙・鉛筆	272 × 157
100	マライスケッチ [絞首]	1948 以前	紙・鉛筆	263 × 195
101	マライスケッチ [苦役]	1947 以前	紙・インク	398 × 182
102	マライスケッチ [天秤棒をかつぐ人]	1947 以前	紙・パステル	190 × 185
103	マライスケッチ [兵隊の頭部]	1947 以前	紙・パステル	273 × 199
104	マライスケッチ [ひげの男 2]	1947 以前	紙・パステル, 水彩	226 × 280
105	マライスケッチ [男の頭部 3]	1947 以前	紙・水彩	251 × 203
106	マライスケッチ [パイプをくわえた男]	1947 以前	紙・パステル	212 × 210
107	マライスケッチ [パイプの男デッサン]	1947 以前	紙・鉛筆	538 × 377
108	マライスケッチ [パイプをくわえた女]	1947 以前	紙・パステル, 水彩	538 × 377
109	マライスケッチ [男の頭部習作]	1948 以前	紙・パステル	293 × 220
110	マライスケッチ [男の頭部 4]	1947 以前	紙・パステル	258 × 195
111	[群像習作]	1950.12	紙・木炭, 鉛筆	511 × 731
112	[荒川土手]	1948-50 年代初期	カンヴァス・油彩	415 × 527
113	[煙突のある風景]	1948-52	板・油彩	153 × 223
114	[千住界隈]	1948-52	カンヴァス・油彩	143 × 224
115	[家族]	1948-52	ボード・油彩	403 × 319
116	[友子]	1952 頃	カンヴァス・油彩	730 × 610
117	[女性群像]	1952	紙・鉛筆, 水彩, インク	781 × 1088
118	群像	1952 頃	紙・パステル	1035 × 2150
119	[家族]	1952.5.21	紙・水彩, インク	378 × 268
120	[家族]	1953	紙・水彩	267 × 376
121	[家族]	1950 年代	紙・水彩	378 × 268
122	[習作 (顔三つ)]	1953 頃	紙・水彩, インク	267 × 377

No.	作品名（〔 〕は仮題）	制作年	材質技法	寸法 (mm)
123	[抱擁]	1950 年代	紙・コンテ	296 × 205
124	[頭部]	1950 年代	紙・インク	206 × 142
125	[習作 (さかさまの顔)]	1954.12.7	紙・インク	270 × 188
126	[習作 (苦しむ女・子供)]	1950 年代	紙・鉛筆	377 × 538
127	[習作]	1950 年代	紙・インク	267 × 377
128	[女]	1954-53	紙・水彩	190 × 132
129	母と子	1954	紙・インク, パステル	374 × 267
130	[墨絵]	1950 年代	紙・インク	378 × 271
131	[習作]	1955	紙・鉛筆	271 × 188
132	[習作]	1955.5.27	紙・インク, 墨	379 × 538
133	生命の顔	1955.6.17	紙・パステル	380 × 270
134	たぬき	1955.8-53	紙・水彩, インク	373 × 269
135	[習作集から]	1955 年頃	紙・インク	187 × 131
136	[習作集から]	1955 年頃	紙・インク	190 × 135
137	[習作集から]	1955 年頃	紙・インク	191 × 136
138	[習作集から]	1955 年頃	紙・インク	190 × 135
139	試作 4	1956	紙・パステル, 木炭, インク	540 × 379
140	[習作]	1956.3.1	紙・木炭	540 × 377
141	[習作]	1957.6.1	紙・インク	189 × 134
142	[無題]	1950 年代	紙・パステル, 木炭	965 × 640
143	[習作]	1950 年代	紙・インク	220 × 156
144	[習作]	1950 年代	紙・インク	274 × 195
145	[習作]	1950 年代	紙・鉛筆	219 × 155
146	[かお]	1950 年代	紙・インク	381 × 272
147	[三つのかたち]	1950 年代	紙・インク	130 × 300
148	[習作]	1950 年代	紙・インク	135 × 190
149	[習作]	1950 年代	紙・インク	135 × 190
150	[習作]	1962.2.15	紙・水彩	190 × 135
151	[習作]	1962.10.11	紙・水彩	190 × 134
152	めでありくちびるであり女体である崖	1963.5.25-62	紙・水彩, インク	135 × 189
153	[不詳 (魚のいる)]	1963.6	紙・水彩, インク	135 × 193
154	[無題]	1963.9.4	紙・水彩, インク	177 × 124
155	[習作]	1963	紙・水彩, インク	132 × 132
156	[習作]	1950 年代	紙・水彩	534 × 381
157	[習作]	1964.7.22	紙・水彩, インク	134 × 189
158	天使達の砦	1965.8.11-62	紙・水彩	376 × 270
159	母と子達	1956-64	紙・水彩	542 × 377
160	みどり・天使	1965.6.11-63	紙・水彩, インク	545 × 386
161	[習作]	1965.11.25	紙・水彩	195 × 136
162	[習作 (目のある)1]	1965	紙・墨	538 × 377
163	[習作 (目のある)2]	1965	紙・墨	538 × 377
164	[習作 (目のある)3]	1965 年頃	紙・墨	538 × 377
165	[スケッチブック]	1965 頃	紙・水彩, インクほか	380 × 267
165-00	[スケッチブック扉]	1965 頃	紙・マジックインキ	
165-00+	[スケッチブック] 挿入された版画	1965 頃	紙・マジックインキ	
165-01	[スケッチブック] 1	1965 頃	紙・マジックインキ	
165-02	[スケッチブック] 2	1965 頃	紙・マジックインキ	
165-03	[スケッチブック] 3	1965 頃	紙・マジックインキ	
165-04	[スケッチブック] 4	1965 頃	紙・マジックインキ	
165-05	[スケッチブック] 5	1965 頃	紙・マジックインキ	
165-06	[スケッチブック] 6	1965 頃	紙・マジックインキ	
165-07	[スケッチブック] 7	1965 頃	紙・マジックインキ	
165-08	[スケッチブック] 8	1965 頃	紙・マジックインキ	
165-09	[スケッチブック] 9	1965 頃	紙・マジックインキ	
165-10	[スケッチブック] 10	1965 頃	紙・マジックインキ	
165-11	[スケッチブック] 11	1965 頃	紙・マジックインキ	
165-12	[スケッチブック] 12	1965 頃	紙・マジックインキ	
165-13	[スケッチブック] 13	1965 頃	紙・マジックインキ	
165-14	[スケッチブック] 14	1965 頃	紙・マジックインキ	
165-15	[スケッチブック] 15	1965 頃	紙・マジックインキ	
165-16	[スケッチブック] 16	1965 頃	紙・マジックインキ	
165-17	[スケッチブック] 17	1965 頃	紙・マジックインキ	
165-18	[スケッチブック] 18	1965 頃	紙・マジックインキ	
165-19	[スケッチブック] 19	1965 頃	紙・マジックインキ	
165-20	[スケッチブック] 20	1965 頃	紙・マジックインキ	
165-21	[スケッチブック] 21	1965 頃	紙・マジックインキ	
165-22	[スケッチブック] 22	1965 頃	紙・マジックインキ	
165-23	[スケッチブック扉]	1965 頃	紙・マジックインキ	
166	[習作]	1966	紙・水彩, インク	194 × 135
167	[習作]	1966-63	紙・水彩, インク	190 × 134
168	[習作]	1966-63	紙・水彩, インク	135 × 190

No.	作品名 ([] は仮題)	制作年	材質技法	寸法 (mm)
169	[習作]	1966-65	紙・水彩, インク	537 × 379
170	[習作]	1960 年代	紙・水彩	193 × 135
171	女・砦	1966.8.24	紙・水彩, インク, 鉛筆	187 × 136
172	[習作]	1960 年代	紙・水彩, インク, 鉛筆	182 × 131
173	[習作]	1960 年代	紙・水彩, インク, 鉛筆	188 × 135
174	[習作]	1967.5.10-65	紙・水彩, インク, 鉛筆	193 × 135
175	[習作]	1960 年代	紙・水彩	197 × 137
176	[習作]	1966.4.21-64	紙・水彩, インク	199 × 138
177	[習作]	1966.6.2	紙・水彩	386 × 545
178	[ひと]	1966.6.3	紙・水彩	538 × 378
179	[愛の中の愛たち]	1960 年代	紙・水彩	390 × 550
180	六月の青の愛達	1967.6.1-66	紙・水彩	378 × 540
181	[習作]	1967-63	紙・水彩	379 × 541
182	宇宙の二重	1967-65	紙・水彩	379 × 357
183	悪魔と天使	1967-66	紙・水彩	379 × 539
184	愛神	1966-67	紙・水彩, インク	180 × 133
185	[習作]	1967-65	紙・水彩	540 × 379
186	みどりの中の愛たち (乳房のある)	1969-65	紙・水彩	545 × 386
187	[習作]	1967-66	紙・水彩, インク	545 × 386
188	葉の記憶	1967	紙・インク	180 × 130
189	核	1967-64	紙・水彩	188 × 133
190	[習作]	1967-66	紙・水彩	189 × 135
191	塔 (生命の)	1967-75.5.12	紙・水彩, インク	196 × 135
192	生む・誕生・はけ口	1975-66	紙・水彩, インク	192 × 135
193	樹 (紫のハートのある)	1967-63	紙・水彩, インク, 色鉛筆	190 × 136
194	雨	1970	紙・水彩	133 × 189
195	[習作]	1970.9-66	紙・水彩	548 × 388
196	人	1967-75.5.26	紙・水彩, インク	192 × 136
197	ひと	1970 年代 -65	紙・水彩	535 × 380
198	草原のあけぼの	1970-64	紙・インク	188 × 135
199	やすらぎ	1970-68	紙・水彩	190 × 135
200	[習作]	1960 年代	紙・水彩	189 × 135
201	力湧く	1975.12.7-65	紙・水彩, インク	196 × 135
202	人類のふるさと	1975.3.26-65	紙・水彩, インク	190 × 135
203	誕生 (苦悩)	1975.5.21-64	紙・水彩	191 × 134
204	一眼、不言	1976.9.22-66	紙・水彩	190 × 135
205	砦	1964-75.5.12	紙・水彩, インク	195 × 136
206	衝動	1965-70.11.23	紙・水彩, インク	189 × 135
207	予感	1965-72.1.21	紙・水彩, インク	195 × 130
208	記憶	1965-75.5.12	紙・水彩, インク	193 × 134
209	太陽神	1965-75.5.27	紙・水彩, インク	195 × 135
210	[習作]	1960 年代 -70 年代初期	紙・水彩, インク	195 × 135
211	被爆	1977.9.16-65	紙・水彩, インク	192 × 137
212	女の砦	1977.9.16-65	紙・水彩, インク	198 × 135
213	二人	1970-64	紙・水彩, インク	190 × 130
214	宇宙の神・神	1968-70	紙・水彩, インク	136 × 190
215	陽気な家族	1975-68	紙・水彩	189 × 135
216	[習作]	1973	紙・インク	377 × 270
217	仏像	1973	紙・インク	191 × 135
218	崩壊	1975-71	紙・インク	186 × 140
219	成田代執行	1971	紙・インク, 水彩	189 × 140
220	女たち	1977	紙・水彩	370 × 270
221	[習作]	1970 年代	紙・パステル、水彩	595 × 450
222	散歩	1978-60 年代	紙・水彩	376 × 535
223	魔よけ	1978-60 年代	紙・水彩	890 × 201
224	飾り帽子の女	1978-63	紙・水彩	535 × 378
225	宇宙神	1978-63	紙・水彩	393 × 543
226	宇宙華	1978-66	紙・水彩	269 × 353
227	あらそい (宇宙人のあらそい)	1980 年代 -60 年代	板・油彩	911 × 914
228	鳥	1978-60 年代	紙・水彩	192 × 267
229	ひと	1978-60 年代	カンヴァス・ミクストメディア	222 × 273
230	[鳥]	1980 年代 -70 年代	カンヴァス・油彩	410 × 315
231	鳥・女・くさび	1988	カンヴァス・油彩、コラージュ	273 × 222
232	被爆	1988	紙・水彩	535 × 379
233	道化	1988-60 年代	紙・水彩	534 × 377
234	[パイプの男]	1988-60s	紙・水彩	227 × 153
235	少年	1988-60 年代	板・油彩	226 × 153
236	[ひと]	1996-94	紙・クレパス	540 × 470

移動美術館

近代日本画の名作展

当館は継続的に美術品を収集し、ヨーロッパとアメリカの美術、近・現代の日本の美術などを中心に約 2,000 点の美術品を収蔵している。これらの美術品は、常設展示室で展示し、県内外から多くの観覧者を集めている。しかしながら、福島県内には美術館のコレクションに接することが難しい地域も少なくない。そのため、1999 年から、コレクションの一部を市町村の文化施設で公開する「移動美術館」を開催している。

今回は、白河市歴史民俗資料館との共催により、「近代の日本画」をテーマとして企画した。平福百穂、今村紫紅、速水御舟、小茂田青樹ら、明治から大正の日本画を代表する画家たちの作品、勝田蕉琴、酒井三良、大山忠作ら、福島県出身の日本画家、さらには版画家として知られる斎藤清が、水墨によって描いた〈野仏〉や〈会津の冬〉のシリーズなど、合わせて 19 作家の作品 30 点を展示した。

会期：2005 年 10 月 8 日(土)～11 月 6 日(日)

休館日：10 月 11 日(火)、17 日(月)、24 日(月)、31 日(月)、11 月 4 日(金)

主催：白河市歴史民俗資料館、福島県立美術館

会場：白河市歴史民俗資料館

(白河市字中田 7-1 電話 0248-27-2310)

開館時間：9:00～16:00

観覧料：無料

開催日数：26 日

観覧者数：1,848 人

担当：伊藤匡

ギャラリートーク

10 月 8 日(土) 13:30-

「アートキューブを使った作品解説」

伊藤匡(当館学芸員) 30 名

11 月 3 日(木) 13:30-

「作品解説」

増渕鏡子(当館学芸員) 30 名

展覧会リーフレット

規格／A4 版 4 ページ カラー 24 点

内容／あいさつ、作家作品解説、技法解説、展示作品リスト



展示風景



鑑賞のてびき 表紙

出品リスト

No.	作家名	作品名	制作年	材質技法	寸法 (cm)
明治・大正の日本画					
1	勝田蕉琴	出城釈迦	1907	絹・着色	98.4 × 66.8
2	平福百穂	赤茄子と芋	1911	絹・着色	134.3 × 53.4
3	今村紫紅	瀬田風景	1913	絹・着色	116.8 × 40.8
4	小茂田青樹	農婦	1914 頃	絹・着色	85.5 × 57.0
5	長野草風	麦踏	大正期	絹・着色	140.3 × 50.4
6	酒井三良	田園秋色図	1921-23	紙・着色	142.1 × 50.6
7	伊東深水	春光	1922 頃	絹・着色	140.8 × 47.6
8	中嶋清之	胡瓜	1923	絹・着色	117.3 × 102.7
9	尾竹竹坡	蔬菜図	大正末～昭和初期	絹・墨画	54.0 × 71.7
10	小杉放庵	水菰訪客	大正末	絹・着色	145.2 × 51.4
11	湯田玉水	山斎訪客図	不詳	紙・墨画淡彩	130.1 × 41.6
昭和の日本画					
12	速水御舟	晩冬の桜	1928	絹・着色	57.0 × 93.3
13	勝田蕉琴	花鳥屏風	不詳	絹・着色	169.0 × 175.0
14	酒井三良	江南春色	1940	紙・着色	81.8 × 104.5
15	猪巻清明	さかだち	1942	紙・着色	178.2 × 193.3
16	角田磐谷	岩上双鳩の図	不詳	紙・着色	147.7 × 147.7
戦後の日本画					
17	須田口中	牡丹	不詳	絹・着色	54.7 × 69.8
18	太田正弘	北壁	1963	紙・着色	202.9 × 144.6
19	大山忠作	母子像	1969	紙・着色	212.5 × 151.6
20	結城天童	阿武隈川源流	1984	紙・着色	162.0 × 130.4
斎藤清の墨画					
21	斎藤清	野仏、田代 (2)	1977	紙・墨画	97.0 × 66.8
22	斎藤清	野仏、田代 (4)	1977	紙・墨画	97.0 × 66.7
23	斎藤清	会津の冬 (8) 川井	1981	紙・墨画	51.3 × 97.0
24	斎藤清	会津の冬 (4) 西会津・下安座	1982	紙・墨画	52.0 × 97.0
25	斎藤清	会津の冬 三島町・滝谷	1982	紙・墨画	49.8 × 94.7
26	斎藤清	会津の冬、高田・落合	1983	紙・墨画	52.3 × 97.1
27	斎藤清	会津の冬、柳津・大野 (4)	1983	紙・墨画	51.8 × 96.7
28	斎藤清	会津の冬、坂下町・気多ノ宮 (1)	1984	紙・墨画	65.0 × 94.9
29	斎藤清	会津の冬、喜多方南町	1985	紙・墨画	64.9 × 94.7
30	斎藤清	会津の冬、柳津駅	1985	紙・墨画	64.8 × 94.8

企画展

1. 仙人と呼ばれた画家 熊谷守一展

愛知県美術館所蔵・木村定三コレクションから

熊谷守一は天性の自由人であり、独自のスタイルを創りあげた画家である。1880（明治13）年岐阜県に生まれた熊谷は、東京美術学校（現・東京芸大）西洋画科で黒田清輝らの教えを受ける。同級生には青木繁、山下新太郎らがいた。東京の小さな家に住み続け、三十年間ほとんど外出せず自宅の小さな庭に住む生き物たちを、徹底的に単純化して描いた。文化勲章も断って自由と自分の時間を大切にし、97歳の天寿を全うする。仙人と呼ばれたほど無欲で清貧な暮らしぶり、余分なものが無い純粋な絵や書は、多くの人々をひきつけた。

この展覧会では、画家を四十年間にわたって支援した名古屋の美術収集家木村定三が収集し、その後愛知県美術館に寄贈された木村コレクションから、油彩画、日本画、書などを展示した。画壇から離れて全く独自の画境を切り開いた熊谷守一の画業と、超俗の人として知られたその人間像を紹介した。

今回の展覧会の作品は、画家と親しく交わった一人のコレクターが収集した質の高い作品群であり、熊谷守一の芸術の精髓を紹介する展覧会として質、量ともに不足はないと考えられる。

展覧会開催にあたっては、とくに二つの点を重視した。

第一は、東北地方では熊谷守一の知名度が高くないため、まず広報、誘客に力を注いだ。

具体的には、福島市の＜花見山観光キャンペーン＞に参加するかたちで、絵葉書形式の割引券を印刷して配布し、利用を促した。配布地域は福島市を中心におおむね半径50キロ圏内（福島県は郡山市以北と相双地域、宮城県は仙台市以南、山形県は南陽市以南）、配布方法は公的施設（博物館、資料館、公民館、図書館）に依頼し、希望者に配布してもらうという方法をとった。結果は、総観覧者数に占める割引券利用者の比率が4.5～9.0%（割引券1枚で2名有効としたため）であった。他館の例では割引券の使用率は3%程度とされているので、一定の誘客効果はあったと考えられる。

第二は、展示の工夫である。熊谷守一の作品は小品が多く、美術館の巨大な展示室ではあまり向かないので、仮設の和室を作って展示したりケースを多用するなどして、見やすく効果的な展示を心がけた。観覧者が比較的年配に偏ると想定されたので、作品名等の文字も大きくした。また熊谷は、印象的な文章を多数遺している名文家でもあるので、彼の思想を端的に表している文章を掲示した。この文章に関心をもった観覧者が多数あったことがアンケート等からも窺える。

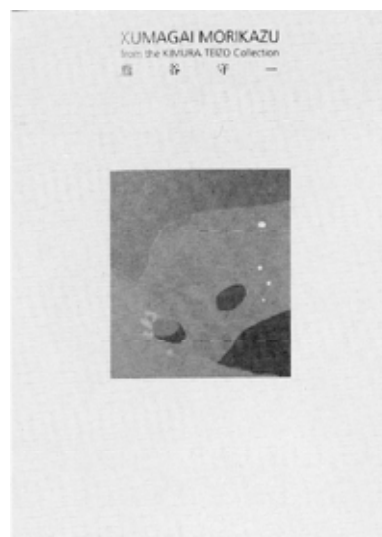
社会的反響は予想以上にあり、『別冊太陽』（平凡社）で熊谷守一を特集したのを始め、雑誌『サライ』も本展の特集を掲載した。その他新聞、テレビ各局でも紹介された。



B2 ポスター



B3 ポスター



カタログ表紙

会期：2005 年 4 月 23 日(土)～ 6 月 5 日(日)

休館日：毎週月曜日

会場：企画展示室 A-1・2・3、B

主催：福島県立美術館、日本経済新聞社

特別協力：愛知県美術館

協力：熊谷守一美術館

観覧料：一般・大学生 800(640) 円 高校生 500(400) 円

小・中学生 300(240) 円 * () 内は 20 名以上の団体料金

担当：伊藤匡、宮武弘

印刷物：ポスター (B2・B3)、チラシ (A4)、案内ハガキ

展覧会図録『熊谷守一 木村定三コレクション』

(2004 年 愛知県美術館発行)

□関連事業

・ギャラリートーク *各回とも 14:00-

① 4 月 23 日(土) 熊谷樞氏 (画家、熊谷守一美術館館主) 90 人

② 5 月 6 日(金) 伊藤匡 (当館学芸員) 30 人

③ 5 月 22 日(日) 村田真宏氏 (愛知県美術館美術課長) 40 人

④ 5 月 29 日(日) 池田良平氏 (天童市美術館学芸員) 50 人

⑤ 6 月 5 日(日) 伊藤匡 (当館学芸員) 50 人

・先生のための美術館入門

5 月 14 日(土) 6 人

講師：真柴毅氏 (福島県立本宮高校教諭)、杉原聡氏 (郡山市教育委員会)

□関連記事

・「仙人と呼ばれた画家 熊谷守一展」『河北新報』4 月 30 日 伊藤匡

・「熊谷守一展きょう開幕」『福島民報』4 月 23 日

・「熊谷守一展が開幕」『福島民友新聞』4 月 24 日

・「熊谷守一の行方不明の油絵 知事公舎で発見」『朝日新聞』5 月 12 日



展示風景



池田良平氏ギャラリートーク (5/29)

出品リスト

No.	作品名	制作年	サイズ (cm)	材質技法	備考
1	線裸	1927	23.2 × 32.8	油彩・板	
2	裸	1937	33.0 × 23.4	油彩・板	
3	裸	1937	41.0 × 32.1	油彩・画布	
4	麥畑	1939	31.4 × 40.9	油彩・板	
5	高原	1940	23.8 × 33.1	油彩・板	
6	高原ノ道	1940	23.9 × 33.1	油彩・板	
7	湯檜曾の朝	1940	33.0 × 24.0	油彩・板	
8	船津	1940/41	24.0 × 33.2	油彩・板	
9	谷合ノ朝	1942	33.0 × 23.7	油彩・板	
10	熊の湯	1943	24.0 × 33.0	油彩・板	
11	あぶくま川	1948	23.9 × 33.2	油彩・板	
12	伸餅	1949	37.9 × 45.5	油彩・画布	
13	蓼科牧	1951	23.9 × 33.5	油彩・板	*
14	小牛	1951	23.8 × 33.3	油彩・板	◇
15	引潮	1951	23.5 × 33.1	油彩・板	
16	小牛	1952	23.8 × 33.4	油彩・板	
17	上ヶ潮	1952	23.9 × 33.0	油彩・板	
18	日蔭澤	1952	33.4 × 23.9	油彩・板	
19	裸婦	1954	33.3 × 24.3	油彩・板	
20	ハルシャ菊	1954	31.3 × 41.0	油彩・板	
21	漁村	1954	33.2 × 23.9	油彩・板	
22	土饅頭	1954	37.9 × 45.5	油彩・画布	
23	朝の日輪	1955	44.3 × 53.5	油彩・板	
24	西日	1954	24.0 × 33.2	油彩・板	*
25	水仙	1956	33.3 × 24.0	油彩・板	
26	水仙	1956	33.4 × 24.0	油彩・板	
27	氏家桃林	1956	31.5 × 40.9	油彩・板	
28	梅	1956	31.2 × 40.2	油彩・画布	
29	焚火	1956	31.5 × 40.7	油彩・板	
30	石亀	1957	40.9 × 53.0	油彩・画布	
31	海の図	1957	31.3 × 40.5	油彩・板	
32	白仔猫	1958	41.0 × 31.8	油彩・画布	
33	百日草	1958	31.8 × 41.0	油彩・画布	
34	三毛猫	1959	33.2 × 23.9	油彩・板	
35	蒲公英に母子草	1959	24.2 × 33.2	油彩・板	
36	百日草	1959	24.0 × 33.0	油彩・画布	◇
37	たまご	1959	31.8 × 41.0	油彩・板	
38	雨水	1959	24.0 × 33.3	油彩・板	
39	雨水	1959	24.1 × 33.4	油彩・板	
40	池水	1961	24.0 × 33.2	油彩・板	
41	雨滴	1961	24.3 × 33.4	油彩・板	
42	野火	1961	31.6 × 40.7	油彩・板	
43	白猫	1962	24.1 × 33.2	油彩・板	
44	少女	1963	33.4 × 24.3	油彩・板	
45	猫	1963	41.0 × 32.0	油彩・画布	
46	猫	1963	41.0 × 32.0	油彩・画布	
47	笹百合	1964	16.4 × 12.2	油彩・ガラス	
48	猫	1965	24.1 × 33.3	油彩・板	*
49	瓜	1965	31.8 × 41.0	油彩・板	
50	蒲公英に蝦蟇	1938	42.2 × 58.1	紙本墨画淡彩	
51	蝦蟇に蟻	1938	44.3 × 59.4	紙本墨画淡彩	
52	鯨に虻	1939	122.8 × 34.5	紙本墨画淡彩	
53	仔猫	1940	40.6 × 56.9	紙本墨画淡彩	
54	烏	1940	35.2 × 45.7	紙本墨画淡彩	
55	蛙子	1940	38.8 × 47.6	紙本墨画淡彩	
56	不動明王	1940	128.4 × 34.9	紙本墨画淡彩	
57	觀世音菩薩	1940	135.4 × 34.6	紙本墨画	
58	双鶏	1940	125.0 × 33.1	紙本墨画淡彩	
59	丁班魚	1941	23.9 × 33.2	紙本墨画淡彩	◇
60	[葺 + 戈 (ドクダミ)] に虻	1941	32.9 × 23.9	紙本墨画淡彩	

No.	作品名	制作年	サイズ (cm)	材質技法	備考
61	富士山に鳥	1943	35.5 × 49.0	紙本淡彩、鉛筆	
62	地蔵尊	1944	120.3 × 33.2	紙本墨画	
63	虎	1944	27.1 × 23.9	紙本墨画淡彩	
64	鳶	1944	27.0 × 24.5	紙本墨画	
65	からす	1944	131.1 × 39.0	紙本墨画	
66	機織虫	1944	34.7 × 38.7	紙本墨画淡彩	
67	鈴虫に胡瓜	1944	36.3 × 44.5	紙本墨画淡彩	
68	牛	1949	42.1 × 51.2	紙本墨画淡彩	
69	枯木に鶴	1949	129.9 × 33.2	紙本墨画淡彩	
70	柿に鳥	1949	126.1 × 33.2	紙本墨画淡彩	
71	赤蟻	1949	36.3 × 44.6	紙本墨画淡彩	
72	縁側	1949	30.4 × 42.7	紙本墨画淡彩	◇
73	雨滴	1950	35.2 × 46.8	紙本墨画	
74	雨だれ	1950	26.9 × 24.0	紙本墨画淡彩	*
75	白兎	1951	27.1 × 24.0	紙本墨画淡彩	
76	百舌鳥の雛	1951	27.3 × 24.2	紙本墨画淡彩	
77	葱	1951	39.3 × 47.5	紙本墨画淡彩	
78	籠の虫	1952	23.8 × 34.2	紙本墨画淡彩	
79	龍蝨	1952	23.6 × 32.9	紙本墨画淡彩	*
80	銀杏	1952	40.6 × 48.7	紙本墨画淡彩	
81	種蒔	1953	50.1 × 43.9	紙本墨画淡彩	
82	眠猫	1953	44.3 × 53.5	紙本墨画淡彩	
83	河童	1954	94.5 × 35.6	紙本墨画淡彩	
84	二匹蝦蟆	1954	37.1 × 45.9	紙本墨画淡彩	
85	蝦蟆	1954	27.3 × 24.1	紙本銀泥	*
86	拾得	1958	69.3 × 33.5	紙本墨画淡彩	
87	犬	1958	42.6 × 54.5	紙本墨画淡彩	
88	鷗 [區 + 鳥]	1958	42.7 × 54.2	紙本墨画淡彩	
89	[魚 + 昆]	1958	45.5 × 59.8	紙本墨画淡彩	
90	紙雛	1958	50.6 × 40.2	紙本墨画淡彩	
91	唯我獨尊 [八 + 酉 + 寸 (尊)]	1959	130.5 × 34.4	紙本墨画	
92	迎火	1960	93.9 × 51.3	紙本墨画淡彩	
93	桃花	1960	50.2 × 40.5	紙本墨画淡彩	*
94	野良猫	1962	40.6 × 58.6	紙本墨画淡彩	
95	猫	1964	42.4 × 55.6	紙本墨画	
96	金太郎	1964	40.6 × 48.3	紙本墨画淡彩	
97	かけすに紅葉	1965	41.0 × 51.0	紙本墨画淡彩	
98	椿に黒鶴	1966	43.8 × 55.1	紙本墨画淡彩	
99	磯撫子にイチモズ蝶	1966	43.6 × 55.2	紙本墨画淡彩	
100	[葺 + 戈] 草に蜆蝶	1960年代	45.6 × 57.2	紙本墨画淡彩	*
101	干大根	1972	43.8 × 51.0	紙本墨画	
102	栗	1975	40.6 × 31.2	紙本墨画淡彩	
103	猫	不詳	45.1 × 37.4	紙本墨画淡彩	◇
104	黒つぐみ	不詳	70.4 × 35.5	紙本墨画淡彩	
105	鳥骨鶏	不詳	43.7 × 55.7	紙本墨画淡彩	
106	鰻鯉	不詳	123.2 × 34.0	紙本墨画	
107	つゝぎに揚葉蝶	不詳	37.6 × 49.6	紙本墨画淡彩	◇
108	赤とんぼ	不詳	39.2 × 48.0	紙本墨画淡彩	
109	山吹に蜂	不詳	30.2 × 42.5	紙本墨画淡彩	*
110	蟻	不詳	23.8 × 33.2	紙本淡彩、ガラスペン	
111	扇面風炉先屏風	不詳	51.0 × 169.4	紙本墨画淡彩	
112	蝸牛	不詳	36.0 × 45.9	紙本墨画淡彩	
113	白梅	不詳	45.6 × 57.4	紙本墨画淡彩	
114	紅梅	不詳	27.2 × 24.0	紙本墨画淡彩	*
115	虞美人草	不詳	33.0 × 24.1	紙本淡彩、ペン	◇
116	菜の花	不詳	42.0 × 53.9	紙本墨画淡彩	*
117	鴨 [竹 + 路] 草	不詳	137.0 × 34.5	紙本墨画淡彩	◇
118	柿	不詳	41.0 × 49.2	紙本墨画淡彩	◇
119	山ぶどう	不詳	41.2 × 50.7	紙本墨画淡彩	
120	蜜柑	不詳	40.6 × 49.8	紙本墨画淡彩	
121	芋の図	不詳	130.1 × 32.4	紙本墨画淡彩	◇
122	茸	不詳	34.2 × 40.3	紙本墨画淡彩	

No.	作品名	制作年	サイズ (cm)	材質技法	備考
123	薪	不詳	41.1 × 51.1	紙本墨画淡彩	
124	秋冬図貼交屏風	不詳	169.6 × 174.4	紙本墨画淡彩	
125	地藏菩薩	1959	38.0 × 28.3	クレヨン・紙	
126	裸	不詳	36.9 × 27.9	クレヨン・紙	
127	心月輪	1940	32.3 × 63.3	紙本墨書	
128	無	1950	113.7 × 31.3	紙本墨書	
129	流水不爭先	1940	122.2 × 31.7	紙本墨書	
130	清風明月	1940	130.5 × 31.3	紙本墨書	
131	蒼蠅	1941	29.8 × 63.2	紙本墨書	
132	無名蟲	1949	49.0 × 33.7	紙本墨書・墨画淡彩	
133	ほとけさま	1950	63.0 × 31.6	紙本墨書	
134	からす	1950	31.1 × 58.5	紙本墨書	
135	すゝめ	1950	31.3 × 58.1	紙本墨書	
136	天下太平	1951	63.0 × 30.0	紙本墨書	
137	天上大風	1951	63.1 × 30.2	紙本墨書	
138	一ふじ二たか三なすび	1951	61.1 × 32.3	紙本墨書	
139	かみさま	1953	31.6 × 60.2	紙本墨書	
140	鶴は千年亀は万年	1953	69.0 × 31.3	紙本墨書	
141	桃栗三年	1953	69.1 × 31.5	紙本墨書	
142	壺中有天地	1958	30.1 × 66.5	紙本墨書	
143	五風十雨	1958	61.2 × 31.6	紙本墨書	
144	うぐひす	1967	68.5 × 32.8	紙本墨書	
145	吾唯知足	1969	33.9 × 62.0	紙本墨書	
146	いろは哥	1971	130.7 × 66.4	紙本墨書	
147	傍若有人 傍若在佛	1972	65.1 × 30.2	紙本墨書	
148	お前百までわしやいつまでも	1973	58.5 × 47.2	紙本墨書	
149	緑陰喫茶聞鶉声	1975	134.8 × 33.4	紙本墨書	
150	廻し歌 むめがかを云々	1976	65.3 × 33.1	紙本墨書	
151	波のり舟の廻し歌	1976	66.8 × 25.3	紙本墨書	
152	明月	制作年不詳	33.2 × 57.9	紙本墨書	
153	壽野菜	制作年不詳	27.1 × 24.2	紙本墨書・墨画淡彩	◇
154	蝸牛 (早川春泰作志野茶碗銘五月雨)	1940	高さ 7.3	絵付け、陶磁器	
155	萱花 (村瀬善九作花瓶)	1944	高さ 24.5	絵付け、陶磁器	
156	熊蜂 (加藤青山作壺)	1947	高さ 34.7	絵付け、陶磁器	
157	かたつむり (作者不詳額皿)	不詳	幅 27.5	絵付け、陶磁器	
158	熊谷守一作盃	不詳	高さ 3.0	陶磁器	
159	裸	1952	9.1 × 18.7 × 10.4	ブロンズ	
160	はだか	1952	30.0 × 26.7 × 23.3	ブロンズ	
161	熊谷守一八十一歳の写真	1961	58.5 × 45	写真	
162	熊谷守一遺影	1977	56.0 × 38.8	写真	
163	種蒔	1953	40.9 × 31.8	油彩・板	福島県蔵

*は前期 (4月23日～5月22日) のみ展示
◇は後期 (5月24日～6月 5日) のみ展示

2. New Spirits 福島

鴻崎正武・高橋克之・小林浩

物語をめぐる

当館では、企画展「福島の新世代」などさまざまな形で福島県出身または在住の注目すべき若手作家を紹介してきた。本展では、その一連の活動に連なるものとして、県内外で活躍する鴻崎正武（1972 年、福島市生まれ）、高橋克之（1967 年、福島市生まれ）、小林浩（1967 年、郡山市生まれ）の 3 人を紹介した。特に今回は、以前の展覧会を考慮に入れながら、よりタイムリーに新しい創作活動を取り上げるために、出品者を少人数に限定し展覧会の規模を抑え、逆に「物語」という視点を設定することで、それぞれの制作のあり方を明確にしようと試みるものであった。

会期中、各作家によるワークショップを開催した。鴻崎は、展示室内でのテンペラ画の公開制作、自作のスライドショーによって技法や制作の背景について解説をした。高橋はデジタルカメラとパソコンを用いたコラージュのワークショップを行い、自分自身をモチーフにした多様なイメージの創作を試みた。小林は、子供も含めた参加者とともに、青のグラデーションに色彩分解された巨大な「モナリザ」の塗り絵をし、色の不思議と面白さを示した。それぞれの参加者は、作家と直接触れる機会を持ち、作家の考え方や制作技法などに対する理解を深めることができたのではないと思う。

また「アート・キューブ」を使った、子供対象の鑑賞ワークショップでは、現代美術をゲーム感覚で楽しんでもらった。

会期：2005 年 6 月 18 日(土)～7 月 18 日(月・祝)

休館日：毎週月曜日（7 月 18 日は開館）

主催：福島県立美術館

会場：企画展示室 A-1・2・3

観覧料：一般・大学生 500(400) 円 高校生 400(320) 円

小・中学生 300(240) 円 * () 内は 20 名以上の団体料金

担当学芸員：荒木康子、吉村有子

印刷物：ポスター（B2・B3）、チラシ（A4）、案内ハガキ

図録（規格／25.7 × 18.2cm 52 頁）

図版：カラー 45 点

本文：「ニュー・スピリッツ福島 物語をめぐる」

酒井哲朗（当館館長）

「私たちの物語」 荒木康子（当館学芸員）

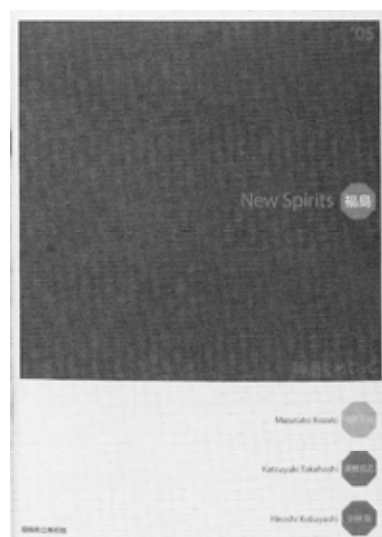
作家略歴／展覧会歴／関連文献



B2 ポスター



B3 ポスター



カタログ表紙

□関連事業

- ・作家によるギャラリートーク 場所：企画展示室

- ① 6月19日(日) 15:30- 鴻崎正武氏 30名
- ② 6月26日(日) 11:00- 小林浩氏 30名
- ③ 7月3日(日) 10:00- 高橋克之氏 30名

- ・作家によるワークショップ

- ① 鴻崎正武「テンペラ画の公開制作」

6月19日(日) 13:30-16:30

場所：企画展示室内（鴻崎正武展示コーナー）

参加者：一般 50名

内容：テンペラ画の技法を実際に制作しながら紹介した。

- ② 小林浩「でっかいモナ・リザを描こう」

6月26日(日) 13:30-16:30

場所：美術館エントランスホール

参加者：小学生から一般 35名

内容：約5m四方の大きな紙にみんなで塗り絵をし、モナ・リザを制作した。

- ③ 高橋克之「パソコンでコラージュ」

7月3日(日) 10:00-16:30

場所：美術館講義室

参加者：中学生から一般 13名

内容：デジカメとパソコンを使いながら簡単にコラージュ作品を制作した。

- ・ゲームで楽しむ展覧会 for Kids

日時：7月16日(土) 13:30-15:30

講師：真柴毅氏（福島県立本宮高校美術教諭）

場所：美術館講義室、企画展示室

参加者：小学生 13名

内容：教材「アート・キューブ」を使って、作品をゲーム形式で鑑賞した。

□関連記事

- ・「三つの個性 連載『New Spirits 福島』展」『福島民報』 荒木康子

- ① 「共有される物語」 6月11日
- ② 「現代に問う理想郷 鴻崎正武」 6月18日
- ③ 「仕掛けられた謎 小林浩」 6月25日
- ④ 「『交わり』の物語 高橋克之」 7月2日

- ・「『New Spirits 福島』展 紡ぎ出す物語」『福島民友』 吉村有子

- ㊤ 「異形の生き物の理想郷 鴻崎正武」 7月1日
- ㊦ 「不安呼ぶ不可解な画面 高橋克之」 7月8日
- ㊧ 「ユーモアと不安感同居 小林浩」 7月15日

- ・「福島県立美術館企画展 New Spirits 福島」『河北新報』

7月2日 荒木康子



鴻崎正武氏ワークショップ (6/19)



小林浩氏ワークショップ (6/26)



高橋克之氏ギャラリートーク (7/3)



ゲームで楽しむ展覧会 for Kids (7/16)

出品リスト

No.	作品名	制作年	材質技法	サイズ (cm)	所蔵	備考
鴻崎正武						
1	現代鳥獣戯画	1999	パネル、油彩・テンペラ・水金箔	162.2 × 130.5	個人蔵	
2	動物曼荼羅	1999	パネル、油彩・テンペラ・金箔	227.0 × 181.0	東京藝術大学大学美術館蔵	
3	現代鳥獣戯画	2000	パネル、油彩・テンペラ・金箔	162.0 × 130.3	個人蔵	
4	現代鳥獣戯画	2001	パネル、油彩・テンペラ・金箔	227.5 × 181.8	作家蔵	
5	現代鳥獣戯画	2001	パネル、油彩・テンペラ・金箔	227.5 × 181.8	帝京大学蔵	
6	現代鳥獣戯画	2001	パネル、油彩・テンペラ・水金箔	162.3 × 130.6	個人蔵	
7	現代南蛮画 壺	2001	パネル、油彩・テンペラ・金箔	162.0 × 130.3	佐藤美術館蔵	
8	TOUGEN	2001	パネル、油彩・テンペラ・金箔	90.7 × 116.5	ギャラリーさわ田蔵	
9	TOUGEN	2001	パネル、油彩・テンペラ・金箔	60.3 × 72.4	作家蔵	
10	TOUGEN	2002	パネル、油彩・テンペラ・箔	97.2 × 130.3	双葉町蔵	
11	TOUGEN	2002	パネル、油彩・テンペラ・箔	72.7 × 90.9	作家蔵	
12	TOUGEN	2003	パネル、油彩・テンペラ・箔	162.1 × 130.3	作家蔵	
13	TOUGEN	2003	パネル、油彩・テンペラ・箔	27.3 × 45.5	作家蔵	
14	TOUGEN	2004	パネル、油彩・テンペラ・箔	65.2 × 65.2	作家蔵	
15	TOUGEN	2005	パネル、油彩・テンペラ・箔	182.0 × 266.7	作家蔵	屏風四曲一隻
16	TOUGEN	2005	パネル、油彩・テンペラ・箔	各 162.0 × 162.0	作家蔵	2点組
高橋克之						
タウン 1. カシホテルの周辺						
17	①午後7時 第一区域	2003	パネル、油性ペンキ・水性ペンキ・アクリル	233.3 × 363.8	作家蔵	
18	②午後9時 第二区域	2005	パネル、油性ペンキ・水性ペンキ・アクリル	233.2 × 363.7	作家蔵	
19	③午後11時 第二区域	2005	パネル、油性ペンキ・水性ペンキ・アクリル	233.2 × 363.9	作家蔵	
20	④午前1時 ハタホテルの門	2003	パネル、油性ペンキ・水性ペンキ・アクリル	233.2 × 363.2	作家蔵	
2. ハタホテルの周辺						
21	⑤午前7時 カシホテルの門	2005	パネル、油性ペンキ・水性ペンキ・アクリル	233.2 × 364.0	作家蔵	
22	⑥午前9時 第二区域	2003	パネル、油性ペンキ・水性ペンキ・アクリル	233.1 × 363.6	作家蔵	
23	⑦午前11時 第二区域	2004	パネル、油性ペンキ・水性ペンキ・アクリル	233.2 × 363.5	作家蔵	
24	⑧午後1時 第一区域	2003	パネル、油性ペンキ・水性ペンキ・アクリル	233.3 × 363.5	作家蔵	
小林 浩						
25	青い鳥	2004	カンヴァス・パネル、アクリル	182.0 × 292.0	作家蔵	
26	ある晴れた日に	2004	カンヴァス、アクリル	91.0 × 91.0	作家蔵	
27	賢者	2004	カンヴァス、アクリル	130.5 × 130.5	作家蔵	
28	二足歩行	2004	カンヴァス、アクリル	91.0 × 60.6	作家蔵	
29	にらめっこ	2004	カンヴァス・パネル、アクリル	46.0 × 53.8	作家蔵	
30	ピンポン・ダッシュ	2004	カンヴァス・パネル、アクリル	68.8 × 107.0	作家蔵	
31	本当?	2004	カンヴァス、アクリル	72.8 × 91.0	作家蔵	
32	無意味な無垢	2004	カンヴァス、アクリル	130.5 × 97.0	作家蔵	
33	予言	2004	カンヴァス、アクリル	145.5 × 145.5	作家蔵	
34	曲芸師	2005	セラミック、ひも	H20.5 × W21.3 × D15.5 (セラミック本体)	作家蔵	
35	クロール	2005	セラミック	H14.2 × W12.8 × D32.4	作家蔵	
36	最期	2005	セラミック、コード	H71.0 × W73.0 × D86.1	作家蔵	
37	最期のキャンドル (R.D. へ)	2005	セラミック、蠟燭	H48.5 × W38.5 × D48.0	作家蔵	
38	使用中	2005	セラミック	H1.5 × W5.0 × D6.0	作家蔵	
39	新天地	2005	セラミック	H18.0 × W23.0 × D120.0	作家蔵	
40	すべり台	2005	セラミック、テーブル、レンガ	H16.0 × W38.0 × D16.0 (セラミック本体)	作家蔵	
41	ブレイク・スルー	2005	セラミック	H48.5 × W26.0 × D40.3	作家蔵	
42	傍観者	2005	セラミック、レンガ	H31.5 × W38.0 × D25.0	作家蔵	
43	連鎖反応 No.1	2005	紙、アクリル	各 57.2 × 77.2	作家蔵	5点組
44	連鎖反応 No.2	2005	紙、アクリル	各 57.2 × 77.2	作家蔵	3点組
45	連鎖反応 No.3	2005	紙、アクリル	各 57.2 × 77.2	作家蔵	9点組

3. ベルギーが生んだ仮面と幻想の画家

ジェームズ・アンソール展

ジェームズ・アンソール（1860-1949）は、ベルギーの近代美術を代表する画家の一人で、「仮面の画家」として、幻想的な作風が知られている。本展は、アントウェルペン王立美術館、オーステンド市立美術館などが所蔵するアンソールの代表作を含めたわが国で開かれる本格的な回顧展として、20年ぶりの開催であった。

アンソールの芸術を最も特徴づける仮面や骸骨といったグロテスクなモチーフが登場する人間存在を辛辣に風刺した代表作はもとより、故郷の海辺の風景、静物、人物など、写実主義に基づき対象を光の中に捉える優れた感性が伺える青年時代の作品、および、今回の展覧会の大きな特徴として、アンソールが独自の芸術を形成する過程で東洋の影響が指摘されていることを裏付ける、葛飾北斎による絵手本『北斎漫画』を模写した一連の素描など、油彩、版画、素描 144 点が展示された。加えて画家が所有していたカーニバルの仮面などの資料も展示され、初期から晩年に至るアンソールの画業の全貌の紹介のみならず、画家の様式形成の過程・創作の源泉に迫ることができる内容であった。

来館者のアンケートでは、アンソールのような個性の強い幻想的画家を扱った今回の展覧会を高く評価する声も多く、一般に広く受け入れられる心地よいイメージの作品にとどまらず、刺激のある作家・作品の鑑賞を求める根強い要望があるように伺われた。

本展は日本経済新聞、福島民報社、福島テレビ、河北新報文化欄、NHK『新日曜美術館』などで紹介された。

会期：2005 年 7 月 30 日(土)～9 月 4 日(日)

休館日：毎週月曜日

主催：福島県立美術館、日本経済新聞社、福島民報社、福島テレビ

後援：ベルギー王国大使館

協力：日本航空

企画協力：アプトインターナショナル

会場：企画展示室 A-1・2・3、B

観覧料：一般・大学生 1000(800) 高校生 500(400) 円

小・中学生 300(240) 円 * () 内は 20 名以上の団体料金

担当学芸員：久慈伸一、橋本淳也

印刷物：ポスター（B2・B3）、チラシ（A4）、案内ハガキ

展覧会図録（26.4 × 19.4cm 200 頁）

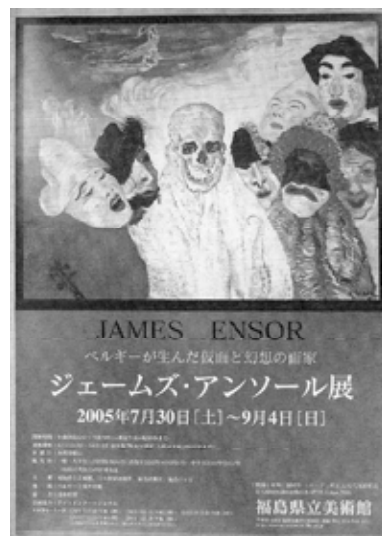
図版：カラー 154 点

本文：「ジェームズ・アンソール概論」

ヘルウィッグ・トッツ氏

（アントウェルペン王立美術館学芸員）

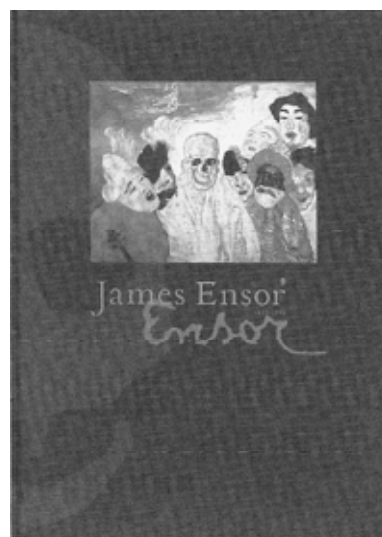
「眺めのいい三つの部屋 - ジェームズ・アンソールがアト



B2 ポスター



B3 ポスター



カタログ表紙

リエの窓から見たオーステンド」
ノルベルト・ホステイン氏
(オーステンド市立美術館館長)
「ジェームズ・アンソールのジャポニスム」
高木陽子氏 (文化女子大学造形学部助教授)
「線・色彩・光」 龍野有子氏 (岡山大学文学部助教授)

□関連事業

・夜間開館：

8月9日(火)～8月14日(日)は 19:00 まで開館 *最終入館 18:30

・ギャラリートーク：

- ① 8月 5日(金) 14:00- 久慈伸一 (当館主任学芸員) 10名
- ② 8月 13日(土) 11:00- 早川博明 (当館学芸課長) 20名
- ③ 8月 19日(金) 14:00- 荒木康子 (当館主任学芸員) 20名
- ④ 8月 27日(土) 11:00- 吉村有子 (当館主任学芸員) 20名
- ⑤ 9月 2日(金) 14:00- 橋本淳也 (当館副主任学芸員) 10名

・ワークショップ「ふしぎな仮面をつくろう！」

日時：8月7日(日)

講師：橋本淳也、久慈伸一

参加者：小学生 16名

□関連記事

・「幻想の世界 アンソール展作品紹介」『福島民報』

- ① 「首吊り死体を奪い合う骸骨たち」 久慈伸一 7月30日
- ② 「悲しみの人」 橋本淳也 7月31日
- ③ 「憲兵たち」 橋本淳也 8月6日
- ④ 「『サロン・デ・サン』における個展のためのポスター」
久慈伸一 8月7日

・「ジェームズ・アンソール展」『河北新報』 久慈伸一 8月6日



展示風景



ギャラリートーク



ワークショップ制作作品

出品リスト

No.	作品名	制作年	材質技法	サイズ (cm)	所蔵
1	釣りのカップル	1873-75 頃	油彩、厚紙	10.5 × 13	オーステンド市立美術館
2	ナポレオン要塞	1876	油彩、厚紙	18 × 24	オーステンド市立美術館
3	オーステンドのカフェ・ティヴォリの庭	1876	油彩、厚紙	18 × 24	オーステンド市立美術館
4	放蕩息子 の 帰還	1877	油彩、板	33 × 41	オーステンド市立美術館
5	防波堤	1878	油彩、カンヴァス	36.3 × 46.6	アントウェルペン王立美術館
6	嵐の後 (虹)	1880	油彩、カンヴァス	52.5 × 62.5	オーステンド市立美術館
7	沼地	1880	油彩、カンヴァス	73.5 × 97.5	トゥルネー美術館
8	エイとニシン	1880	油彩、カンヴァス	80 × 102	アントウェルペン王立美術館
9	扇を持つ婦人	1880	油彩、板に裏打ちした カンヴァス	133 × 83	アントウェルペン王立美術館
10	雪のヴァン・イスゲム通り	1881	油彩、板	32.5 × 26	オーステンド市立美術館
11	待ち合わせ	1882	油彩、カンヴァス	65.5 × 53.2	アントウェルペン王立美術館
12	ウィリー・フィンチの肖像	1882	油彩、カンヴァス	110 × 95	オーステンド市立美術館
13	赤いリンゴ	1883	油彩、カンヴァス	60 × 75	個人蔵
14	オーステンドの大眺望 (オーステンドの屋根)	1884	油彩、カンヴァス	149 × 206	アントウェルペン王立美術館
15	海景、日没	1885	油彩、カンヴァス	114 × 161	オーステンド市立美術館
16	ブリュッセル市庁舎	1885	油彩、カンヴァス	100 × 81	リエージュ市立近現代美術館
17	画架に向かうウィリー・フィンチの肖像	1892	油彩、カンヴァス	50.2 × 31	アントウェルペン王立美術館
18	少年	1880-82	木炭、紙	74 × 35	オーステンド市立美術館
19	オーステンドの女	1882	木炭、コンテ、紙	76 × 57	ロニー・ヴァン・ド・ヴェルド、アントウェルペン、ベルギー
20	自画像	1883	鉛筆、紙	22.5 × 17	ギャラリー・セーゲルス
21	手紙を書く女 (妹)	1883	黒チョーク、紙	21 × 29	オーステンド市立美術館
22	母の肖像と人物像	1880-84	黒鉛筆、紙	21.5 × 17	オーステンド市立美術館
23	眠っている母 (実際は叔母) と人物像	1880-85	黒鉛筆、紙	22 × 17.5	オーステンド市立美術館
24	後ろ向きのウィリー・フィンチの肖像	1880-84	黒鉛筆、紙	21.5 × 17	オーステンド市立美術館
25	山高帽と靴	1880-85	黒鉛筆、紙	22 × 17.5	オーステンド市立美術館
26	妹と油彩のためのスケッチ	1880-85	黒鉛筆、紙	22 × 17	オーステンド市立美術館
27	ヴァン・イスゲム通りと人物 (書き物をする男)	1880-85	黒鉛筆、紙	22 × 17.5	オーステンド市立美術館
28	花柄と足	1880-85	黒鉛筆、紙	21.8 × 27.2	オーステンド市立美術館
29	スケッチ	1884-85	黒鉛筆、紙	22.7 × 17	オーステンド市立美術館
30	眠っている妹と人物像	1885	黒鉛筆、紙	22 × 17.5	オーステンド市立美術館
31	ジャポネズリー	1876	油彩、厚紙	26 × 32.5	個人蔵、ロンドン
32	シノワズリーと団扇と布	1880	油彩、カンヴァス	100 × 78	アントウェルペン王立美術館
33	悲しみの人	1891	油彩、板	21.9 × 16	アントウェルペン王立美術館
34	シノワズリー	1907	油彩、カンヴァス	61.5 × 75	ドント・ダーネンス美術館
35	我が花瓶と花と仮面	1935	油彩、板	27 × 21	協力：パトリック・デロム・ギャラリー、ブリュッセル
36	貝殻、ふくよかな形	1938	油彩、カンヴァス	50 × 61	協力：パトリック・デロム・ギャラリー、ブリュッセル
37	中国風の花瓶と人物像	1880-85	黒鉛筆、紙	22.5 × 27.5	オーステンド市立美術館
38	シノワズリー (中国風? の武者)	1884	コンテ、紙	22.3 × 17.5	アントウェルペン王立美術館
39	シノワズリー (『北斎漫画 五編』第二丁表 (扉)、 第九丁裏、第十二丁表、第十六丁裏、第二十丁裏、 第二十八丁裏～二十九丁表見開き)	1885	コンテ、紙	22.3 × 17.4	アントウェルペン王立美術館
40	シノワズリー (『北斎漫画 五編』第三丁表、天 彦狭知命)	1885	コンテ、紙	22.3 × 17.5	アントウェルペン王立美術館
41	シノワズリー (『北斎漫画 五編』第十九丁表、伊賀局)	1885-86	コンテ、紙	19.1 × 16.7	アントウェルペン王立美術館
42	シノワズリー (『北斎漫画 五編』第二十丁表、 柿本貴僧正)	1885	コンテ、紙	22.3 × 17.3	アントウェルペン王立美術館
43	シノワズリー (『北斎漫画 五編』第二十二丁表、 二十八丁裏)	1885	コンテ、紙	22.3 × 17.5	アントウェルペン王立美術館
44	シノワズリー (『北斎漫画 五編』第二十二丁裏、 葵上または御息所)	1885-86	コンテ、紙	22.3 × 17.5	アントウェルペン王立美術館
45	シノワズリー (『北斎漫画 五編』第二十四丁裏、 文屋康秀)	1885	コンテ、水彩、紙	22.5 × 17.5	アントウェルペン王立美術館
46	シノワズリー (『北斎漫画 五編』第二十五丁表、大塔宮)	1885	コンテ、紙	22.3 × 17.5	アントウェルペン王立美術館
47	シノワズリー (能楽「碇潜 (いかりかづき)」)	1886	墨、紙	22.5 × 17.5	アントウェルペン王立美術館
48	シノワズリー (走る武者)	1885-86	コンテ、紙	22.3 × 17.5	アントウェルペン王立美術館
49	シノワズリー (二羽の小鳥と飛翔する鶴)	1885-86	コンテ、紙	22.6 × 16.9	アントウェルペン王立美術館
50	シノワズリー (鴉)	1885-86	墨、紙	22.6 × 16.9	アントウェルペン王立美術館
51	シノワズリー (鶴と小鳥)	1885-86	墨、紙	22.6 × 16.9	アントウェルペン王立美術館
52	シノワズリー (鷺)	1885-86	コンテ、紙	22.6 × 16.9	アントウェルペン王立美術館
53	アンソールによって装飾された扇	1888	インク、水彩、絹	36 × 63 (全開した場合)	個人蔵 (協力：ロニー・ヴァン・ド・ヴェルド、 アントウェルペン、ベルギー)
54	百鬼夜行	1886	エッチング、和紙	21 × 25.8	オーステンド市立美術館
55	天使と大天使を懲らしめる悪魔たち	1888	エッチング、水彩によ る手彩色、ヴェラム紙	25 × 29.3	オーステンド市立美術館

No.	作品名	制作年	材質技法	サイズ (cm)	所蔵
56	幻影	1889	エッチング、グワッシュと水彩による手彩色、和紙	7.6 × 11.6	個人蔵（協力：ギャラリー・セーゲルス）
57	花飾りの帽子をかぶった自画像	1883制作、 1887-89頃加筆	油彩、カンヴァス	76.5 × 61.5	オーステンド市立美術館
58	楽園から追放されるアダムとイヴ	1887	油彩、カンヴァス	205 × 245	アントウェルペン王立美術館
59	愛の園	1888	油彩、カンヴァス	96 × 112	豊田市美術館
60	漁船	1890	油彩、カンヴァス	65.1 × 71	アントウェルペン王立美術館
61	嵐を沈めるキリスト	1891	油彩、カンヴァス	80 × 100	オーステンド市立美術館
62	首吊り死体を奪い合う骸骨たち	1891	油彩、カンヴァス	59 × 74	アントウェルペン王立美術館
63	甲殻類を眺める仮面	1891	油彩、カンヴァス	32.3 × 40	アントウェルペン王立美術館
64	憲兵たち	1892	油彩、板	43 × 55	オーステンド市立美術館
65	ギュスターヴ・キュリュの肖像	1892	油彩、カンヴァス	24.5 × 18	協力：パトリック・デロム・ギャラリー
66	ソフィー・ヨテコと語り合うエルネスト・ルソー夫妻	1892	油彩、板	12 × 16	個人蔵、ベルギー
67	仮面と死神	1897	油彩、カンヴァス	78.5 × 100	リエージュ市立近現代美術館
68	オーステンドの眺望（オーステンドの屋根）	1901	油彩、カンヴァス	48 × 73	オーステンド市立美術館
69	マリアケルクの眺め（マリアケルクの協会）	1901	油彩、カンヴァス	54 × 67	オーステンド市立美術館
70	ヴァン・イスゲム通りの眺望	1906	油彩、カンヴァス	73 × 50	オーステンド市立美術館
71	死せる母	1915	油彩、カンヴァス	75 × 60	オーステンド市立美術館
72	ピエロと黄色い服の骸骨	1925	油彩、カンヴァス	40 × 50	協力：パトリック・デロム・ギャラリー
73	理想	1924頃	油彩、カンヴァス	68 × 45	個人蔵（協力：ギャラリー・セーゲルス）
74	赤キャベツと仮面	1925-30	油彩、カンヴァス	66 × 82	個人蔵（協力：ギャラリー・セーゲルス）
75	断末魔のキリスト	1931	油彩、カンヴァス	50.5 × 60.3	ドント・ダーネンス美術館
76	オーステンドのカーニバル	1933	油彩、カンヴァス	65 × 80	個人蔵
77	守護悪霊と爵位紋章を伴う J. アンソール男爵	1934	油彩、鉛筆、木製パネル	21.5 × 16	オーステンド市立美術館
78	華麗なる人々	1936	油彩、カンヴァス	60 × 50	個人蔵（協力：ギャラリー・セーゲルス）
79	キリストと病める者たち	1938	油彩、カンヴァス	50 × 60	個人蔵（協力：ギャラリー・セーゲルス）
80	我が家の一隅	1938	油彩、カンヴァス	50 × 38	オーステンド市立美術館
81	花言葉	1938	油彩、カンヴァス	22 × 30	リエージュ市立近現代美術館
82	何もせぬまま笑わせておけ	1939	油彩、板	26 × 31	パトリック・デロム・ギャラリー、ブリュッセル
83	我と我が色彩と我が持物	1939	油彩、板	36 × 27	個人蔵、ベルギー
84	奇妙な音楽家たち	1885	黒鉛筆、紙	21 × 17	ギャラリー・ロニー・ヴァン・ド・ヴェルド、 アントウェルペン、ベルギー
85	家具と人物像	1886-88	黒鉛筆、紙	22 × 21	オーステンド市立美術館
86	ジャンヌ・ダルク	1888	色鉛筆、紙	23 × 31.5	個人蔵（協力：ギャラリー・セーゲルス）
87	神殿から商人たちを追ひ払うキリスト	1888	黒鉛筆、紙	25.5 × 35	ギャラリー・ロニー・ヴァン・ド・ヴェルド、 アントウェルペン、ベルギー
88	ペルシアの刑場	1896	黒鉛筆、色鉛筆、紙	21 × 24.2	協力：パトリック・デロム・ギャラリー、 ブリュッセル
89	自画像	1905	黒鉛筆、紙	17.5 × 16	オーステンド市立美術館
90	メルクリウス	1906	鉛筆、紙	24 × 16	個人蔵（協力：ギャラリー・セーゲルス）
91	真珠色の魚が吐き出したもの	1912	水彩、グワッシュ、色鉛筆、紙	29 × 45.5	個人蔵（協力：ギャラリー・セーゲルス）
92	虹色の魚が吐き出したもの	1912	水彩、グワッシュ、色鉛筆、紙	29 × 45.5	個人蔵（協力：ギャラリー・セーゲルス）
93	私の天女たち（中央に自画像）	1912頃	色チョーク、グワッシュ、インク、紙	28.5 × 19.5	個人蔵
94	天空と海の分離	1912頃	インク、色鉛筆、墨、紙	12 × 14	協力：ロニー・ヴァン・ド・ヴェルド、 ギャラリー・セーゲルス
95	第八天	1912頃	インク、色鉛筆、墨、紙	14 × 12	協力：ロニー・ヴァン・ド・ヴェルド、 ギャラリー・セーゲルス
96	死せる母	1915	鉛筆、色鉛筆、板	24 × 19	個人蔵（協力：ギャラリー・セーゲルス）
97	ランプ明かりの中の自画像	1886	エッチング、和紙	10 × 7	オーステンド市立美術館
98	辱めを受けるキリスト	1886	エッチング、オランダ紙	23 × 15.5	オーステンド市立美術館
99	嵐を鎮めるキリスト	1886	エッチング、グワッシュと水彩による手彩色、和紙	15.3 × 23	個人蔵（協力：ギャラリー・セーゲルス）
100	大聖堂	1886	エッチング、水彩による手彩色、和紙	23.6 × 17.7	個人蔵（協力：ギャラリー・セーゲルス）
101	アルベラの戦いの後、ダリウス王の便を検査するペルシアの名高い博士たち、イストン、プファマトウス、クラコツィエ、トランスムツフェ	1886	エッチング、手彩色、紙	23.7 × 17.8	個人蔵（協力：ギャラリー・セーゲルス）
102	奇妙な都市の占領	1888	エッチング、和紙	17.3 × 23.3	オーステンド市立美術館
103	奇妙な音楽家たち	1888	エッチング、和紙	17.8 × 22.3	オーステンド市立美術館
104	奇妙な昆虫たち	1888	エッチング、和紙	11.4 × 15.4	オーステンド市立美術館
105	奇妙な肖像	1888	エッチング、和紙	13.1 × 9.4	オーステンド市立美術館
106	突風の中の魔法使い	1888	エッチング、和紙	17.9 × 23.8	オーステンド市立美術館
107	頭蓋骨と仮面	1888	エッチング、和紙	9.1 × 12.9	オーステンド市立美術館
108	1960年の自画像	1888	エッチング、和紙	6.4 × 11.4	オーステンド市立美術館
109	暗殺	1888	エッチング、和紙	17.8 × 23.8	オーステンド市立美術館

No.	作品名	制作年	材質技法	サイズ (cm)	所蔵
110	愛の園	1888	エッチング、和紙	11.2 × 7.3	オーステンド市立美術館
111	幽霊の取り憑いた家具	1888	エッチング、和紙	13.5 × 8.8	オーステンド市立美術館
112	キマイラ	1888	エッチング、和紙	9.1 × 6.2	オーステンド市立美術館
113	燭台と花瓶	1888	エッチング、和紙	11.8 × 7.6	オーステンド市立美術館
114	憲兵たち	1888	エッチング、グワッシュと水彩による手彩色、オランダ紙	17.9 × 23.8	個人蔵（協力：ギャラリー・セーゲルス）
115	骸骨になった私（第1ステート）	1889	エッチング、オランダ紙	11.6 × 7.5	オーステンド市立美術館
116	骸骨になった私（第2ステート）	1889	エッチング、オランダ紙	11.6 × 7.5	オーステンド市立美術館
117	暖を取ろうとする骸骨たち	1895	エッチング、ヴェラム紙	13.3 × 9.7	オーステンド市立美術館
118	怒れる仮面	1895	エッチング、和紙	11.6 × 7.6	オーステンド市立美術館
119	風車の下の村祭り	1889	エッチング、色鉛筆と水彩による手彩色、和紙	13.5 × 17.4	個人蔵（協力：ギャラリー・セーゲルス）
120	善き裁判官たち	1894	エッチング、和紙	18 × 23.9	オーステンド市立美術館
121	キリストを冥府に導く悪魔ズィッツとイアノックス	1895	エッチング、和紙	13.3 × 17.2	オーステンド市立美術館
122	悪魔に苦しめられるキリスト	1895	エッチング、和紙	17.2 × 23.5	オーステンド市立美術館
123	悪しき医者たち	1895	エッチング、和紙	17.2 × 24.6	オーステンド市立美術館
124	ベスト王	1895	エッチング、手彩色	9.6 × 11.5	オーステンド市立美術館
125	黄金の拍車の戦い	1895	エッチング、グワッシュと水彩による手彩色、和紙	17.3 × 23.7	オーステンド市立美術館
126	人間の群れを狩り出す死神	1896	エッチング、和紙	23.5 × 17.5	オーステンド市立美術館
127	キリストのブリュッセル入城	1898	エッチング、手彩色、紙	24.8 × 35.5	オーステンド市立美術館
128	ホップ・フロッグの復讐	1898	エッチング、グワッシュと水彩による手彩色、和紙	35 × 24.2	個人蔵（協力：ギャラリー・セーゲルス）
129	「サロン・デ・サン」における個展のためのポスター	1898	リトグラフ、ヴェラム紙	53 × 37.2	オーステンド市立美術館
130	王妃パリスティス	1899	エッチング、和紙	17 × 12.1	オーステンド市立美術館
131	オーステンドの海水浴場	1899	エッチング、和紙	21.3 × 26.8	個人蔵（協力：ギャラリー・セーゲルス）
132	淫欲	1888	エッチング、色鉛筆と水彩による手彩色、和紙	9.2 × 13.1	オーステンド市立美術館
133	怠惰	1902	エッチング、色鉛筆、水彩、グワッシュによる手彩色、和紙	9.6 × 13.6	オーステンド市立美術館
134	憤怒	1903	エッチング、色鉛筆と水彩による手彩色、和紙	9.5 × 14.6	オーステンド市立美術館
135	傲慢	1903	エッチング、色鉛筆と水彩による手彩色、和紙	9.3 × 14.6	オーステンド市立美術館
136	食欲	1903	エッチング、色鉛筆と水彩による手彩色、和紙	9.5 × 14.5	オーステンド市立美術館
137	大食	1903	エッチング、色鉛筆と水彩による手彩色、和紙	9.1 × 14.5	オーステンド市立美術館
138	嫉妬	1903	エッチング、色鉛筆と水彩による手彩色、和紙	9.4 × 14.8	オーステンド市立美術館
139	死によって支配されている七つの大罪	1903	エッチング、色鉛筆と水彩による手彩色、和紙	8.4 × 13.4	オーステンド市立美術館
140	当惑した仮面	1904	エッチング、和紙	7.4 × 11.4	オーステンド市立美術館
141	上も下もいたるところベストだらけ	1904	エッチング、和紙	19.2 × 29.1	オーステンド市立美術館
142	聖家族	1921	リトグラフ、極上局紙	22 × 28	個人蔵
143	貢の銭	1921	リトグラフ、極上局紙	22 × 28	個人蔵
144	艶めかしい死神	1922	リトグラフ	43.5 × 54	オーステンド市立美術館

4. 福島民友新聞創刊 110 周年記念

柳宗悦の民藝と巨匠たち展

柳宗悦の心と眼

柳宗悦（やなぎ・そうえつ 1889-1961）は日本独自の芸術運動ともいえる「民藝」の創始者、推進者として知られている。柳はそれまで顧みられなかった日本の日常的な工芸品や、身近な信仰の対象である仏像などに宿る健やかな美を見だし、この「美」の領域を「民衆の工藝」すなわち「民藝」という言葉によって定義した。

柳の考えの根底には、その物を生み出した社会への関心と、作り出した人々への深い共感から生まれた倫理観があり、その視野の広さと物を追い求める行動力には眼をみはるものがある。こうした「精神」と「実践」という背景をもつ故に、柳は単なる美学者にとどまらず、近代日本を代表する思想家・実践家として現在まで評価されているのである。

この展覧会では、柳宗悦が収集した数々の名品約 90 点と、民藝運動に関わった作家達の作品約 60 点、そして民藝に関する貴重な資料などを併せて紹介した。富本憲吉、バーナード・リーチ、河井寛次郎、濱田庄司、芹沢銈介、棟方志功、黒田辰秋は、柳の理念や感性を共有し得る優れた思想家であり、また同時に造形を通して実践した人々でもあった。彼らの作品を併せて展示することで、「民藝」の軌跡と意味を改めて考えてみる機会になり、多くの鑑賞者にも、個人作家の位置づけについて改めて理解をしていただけた。

「多様な価値観」の容認のもと、実は多くの人が独自の美意識を確立できないでいる現在、柳宗悦の眼と「民藝」運動の軌跡をたどることは、「民藝」の「解釈と理解」という次元を越えて、現在の私たちに必要な美しさとは何かという素朴な実感をもたらしてくれた。

会期：2005 年 9 月 13 日(火)～ 10 月 23 日(日)

休館日：9 月 20 日(火)、26 日(月)、10 月 3 日(月)、11 日(火)、17 日(月)

主催：福島県立美術館、読売新聞東京本社、福島民友新聞社、

美術館連絡協議会、福島中央テレビ

企画協力：E.M.I ネットワーク

監修：(財)日本民藝館

協賛：花王株式会社

会場：企画展示室 A-1・2・3、B

観覧料：一般・大学生 1000(800) 円 高校生 500(400) 円

小・中学生 300(240) 円

* () 内は前売料金および 20 名以上の団体料金

担当学芸員：佐治ゆかり、増渕鏡子

印刷物：ポスター（B2・B3）、チラシ（A4）、案内ハガキ

展覧会図録：「柳宗悦の民藝と巨匠たち展」図録

（2005 年 日本民藝館監修）

出品リスト／用語解説（A4 版 6 頁）



B2 ポスター



B3 ポスター



カタログ表紙

□関連事業

- ・講演会 「等身大の柳宗悦」
講師：松井健氏（東京大学東洋文化研究所教授）
日時：9月25日(日) 14:00-
場所：美術館講堂 入場無料 70名
- ・特別ギャラリートーク
①「宗像窯と民藝『つくり手からの視点』」
講師：宗像利浩氏（陶芸家・会津本郷宗像窯）
日時：10月2日(日) 14:00- 場所：企画展示室 110名
②「相馬 館の下焼を追って」 講師：佐久間清登氏（陶磁史研究家）
日時：10月8日(土) 14:00- 場所：企画展示室 50名
- ・ギャラリートーク
「柳宗悦の心と眼～展示の見所紹介」
講師：佐治ゆかり（当館主任学芸員）
日時：① 9月16日(金) 11:00-12:00 30名
② 10月15日(土) 13:00-14:00 30名
場所：企画展示室
- ・映画会
「兼子－Kaneko」(2004年／カラー 80分)
日時：9月18日(日)
① 10:30- 30名 ② 14:00- 50名
場所：美術館講堂（入場無料）

□関連記事

- ・「柳宗悦の民藝と巨匠たち展1～7」
『福島民友新聞』 9月3日～9日
- ・「柳宗悦展 宗悦の民藝運動に共鳴の7人」
『福島民友新聞』 10月9日
- ・「柳宗悦の心と眼」『読売新聞』 佐治ゆかり
①「朝鮮美術と木喰仏」9月27日
②「日本各地で蒐集」9月28日
③「作家達との交流」9月29日
④「『新たな美』普及」9月30日
- ・「柳宗悦と私1～24」
『福島民友新聞社』 9月15日～10月23日



展示風景



宗像利浩氏ギャラリートーク（10/2）



佐久間清登氏ギャラリートーク（10/8）



出品リスト ※所蔵表記のない資料は日本民藝館所蔵である。

1. 柳宗悦の白樺時代

No.	作家名	作品名	制作年
1	ウィリアム・ブレイク	「ヨブ記」挿絵（複製画）	1825
2	ウィリアム・ブレイク	ダンテ『天国篇』第26歌より（複製画）	1827
3	ウィリアム・ブレイク	「仲保者としてのキリスト」（複製画）	
170	オーギュスト・ロダン	或る小さき影（参考図版）*	1885
	オーギュスト・ロダン	ロダン夫人胸像（参考図版）*	1880-82
	オーギュスト・ロダン	巴里ゴロッツキの首（参考図版）*	1885
102	バーナード・リーチ	素描「書斎の柳宗悦」	1918
160	ウォルト・ホイットマン	『草の葉』第3版	1860-61
161		『白樺』第4巻第7月号	1913
164	柳宗悦・壽岳文章共著	『ブレイクとホヰットマン』第1巻 第1-12号	1931-32

* ロダンの作品名は柳宗悦著述の記載にしたがっている。

2. 李朝工芸と朝鮮民族美術館設立

No.	分野	作品名	制作年
162	書籍	『朝鮮の美術』 柳宗悦著 私家版	1922
4	陶器	李朝染付草花文瓢型瓶（部分）	
5	陶器	李朝鉄砂雲竹文壺	
6	陶器	李朝染付辰砂牡丹文壺	
7	陶器	李朝辰砂芭蕉文壺	
8	陶器	李朝白磁大壺	
9	陶器	李朝搔落鉄差牡丹文扁壺	
10	陶器	李朝鉄絵葉文依壺	
11	陶器	李朝白磁鎚手瓶	
12	陶器	李朝白磁角型祭器	
13	陶器	李朝染付魚文皿	
14	陶器	李朝呉須刷毛引三段重	
15	陶器	李朝染付辰砂魚型水滴	
16	陶器	李朝辰砂双鶴文水滴	
17	陶器	李朝染付家型水滴	
18	木工	李朝螺鈿文字入机	
19	木工	李朝透彫丸文十二角膳	
20	木工	李朝華角貼手箱	
21	木工	李朝竹製印箱	
22	木工	李朝螺鈿花鳥文箱	
23	木工	李朝螺鈿花竹文抽斗箱	
24	木工	李朝真鍮祭器	
25	木工	李朝鉄地鉛象嵌十長生文六角筆筒	
26	木工	李朝銀象嵌宝尽文鉄製蓆篋	
27	木工	李朝輪繫透彫筆筒	
28	木工	李朝石彫水注	
29	絵画	民画「虎鵲図」	
30	絵画	民画「花と鳥 1」	
31	絵画	民画「花と鳥 2」	
32	絵画	刺繍「花鳥図」 八曲一隻屏風	
33	絵画	民画 文字絵「忠」	
34	絵画	民画 文字絵「信」	
35	絵画	民画「文房図」	
36	絵画	民画「寿福文貼交」 八曲一隻屏風	

3. 木喰仏の発見

No.	作家名	作品名	制作年
37	木喰上人	地藏菩薩像	
38	木喰上人	千手千眼観音像	1801
39	木喰上人	不動明王像	1806

4. 柳宗悦の民藝調査と日本民藝館の設立

No.	分野	作品名	制作年
163		『日本民藝美術館設立趣意書』（私家版）	1926
166	書籍	『民と美』 柳宗悦著 靖文社	1948
168	書籍	『民藝四十年』 柳宗悦著 宝文館	1958
40	陶器	悪戸いっちゃん花紋火入（青森県）	
41	陶器	栢岡海鼠釉大片口（秋田県）	
42	陶器	平清水白化粧片口（山形県）	
43	陶器	会津本郷鯉鉢（福島県）	
44	陶器	館の下鉄地海鼠釉打掛甕（福島県）	
45	陶器	益子山水紋土瓶（栃木県）	
46	陶器	飴緑釉流蓋付壺（茨城県）	
47	陶器	美濃笠原鉄釉草文鉢（岐阜県）	
48	陶器	瀬戸山水紋石皿（愛知県）	
49	陶器	信楽黒釉流文壺（滋賀県）	
50	陶器	丹波赤どべ灰被大徳利（兵庫県）	
51	陶器	牛の戸緑黒釉掛分皿（鳥取県）	
52	陶器	萩檜垣文鉢（山口県）	

No.	分野	作品名	制作年
53	陶器	堀越飴釉白流味噌甕（山口県）	
54	陶器	焼締流掛碗（富山県）	
55	陶器	鉄絵緑差松紋大捏鉢（佐賀県）	
56	陶器	有田赤絵椿文瓶（古九谷様式）（佐賀県）	
57	陶器	伊万里赤絵繪垣草花文皿（佐賀県）	
58	陶器	小鹿田流釉大皿（大分県）	
59	陶器	平佐黄釉鉄打燭台（鹿児島県）	
60	陶器	薩摩黒釉牡丹唐草紋甘酒壺（鹿児島県）	
61	陶器	壺屋厨子甕（沖縄県）	
62	木工	かまど面（東北）	
63	木工	樺細工大手筥（秋田県）	
64	木工	大黒自在掛（北陸）	
65	木工	看板 筆屋	
66	木工	鉄金具付櫛帳筆筒	
67	金工	端広鉄瓶（山形県）	
68	金工	木蓋付鉄飯釜	
69	金工	霰鉄湯釜	
70	漆芸	漆絵箔置紅葉紋片口	
71	漆芸	螺鈿丸文散し菓子箱	
72	漆芸	漆相撲絵盆（富山県）	
73	染織・織物	笹文暖簾手描合羽刷木綿（京都府）	
74	染織・織物	打敷 筒描木綿	
75	染織・織物	アイヌ切伏衣裳 オヒョウに木綿（北海道）	
76	染織・織物	紅型風呂敷 苧麻筒描染（沖縄県）	
77	染織・織物	紅型着物 型染木綿水色地葎雁文（沖縄県）	
78	染織・織物	津軽刺子こぎん衣裳 麻藍地に木綿（青森県）	
79	染織・織物	被衣 型染と筒描大麻浅葱地菊大紋松皮菱区切（山形県）	
80	染織・織物	革羽織 鹿革型燻染（東京都）	
81	染織・織物	蓑（秋田県）	
82	染織・織物	背中当 ぼろ布としば（山形県）	
83	絵画	大津絵「弁慶」	
84	絵画	大津絵「鷹匠」	
85	絵画	泥絵「江戸城周辺図」	
86	絵画	泥絵「異人」	

5. 民藝の巨匠たち

No.	作家名	作品名	制作年	所蔵
91	富本憲吉	白磁八角コーヒーセット	1921	富本憲吉記念館
92	富本憲吉	李朝陶器写生巻 全三巻	1922	富本憲吉記念館
93	富本憲吉	鉄釉芍薬模様大壺	1931	富本憲吉記念館
94	富本憲吉	染付芦の芽模様角筥	1934	
95	富本憲吉	色絵福貴文字角筥	1936	
96	富本憲吉	色絵九谷飾皿	1936	個人
97	富本憲吉	色絵更紗紋飾壺	1937	個人
98	富本憲吉	白磁大鉢	1940	個人
99	富本憲吉	鉄描銅彩柳模様大鉢	1946	富本憲吉記念館
100	富本憲吉	色絵染付旅用煎茶器	1948	富本憲吉記念館
101	富本憲吉	染付竹林月夜組皿 5 客	1955	日登美美術館
103	バーナード・リーチ	ガレナ釉筒描獅子文大皿（セント・アイヴィス）	1925	日登美美術館
104	バーナード・リーチ	天目釉柳文壺（セント・アイヴィス）		日登美美術館
105	バーナード・リーチ	鉄絵渡鳥文皿（セント・アイヴィス）		日登美美術館
106	バーナード・リーチ	楽焼ぶどう文鉢		日登美美術館
107	バーナード・リーチ	天目釉抜絵巡礼者文皿（セント・アイヴィス）		日登美美術館
108	バーナード・リーチ	鉄釉抜絵蓋物		日登美美術館
109	バーナード・リーチ	青白磁コーヒーセット		日登美美術館
110	バーナード・リーチ	灰釉刻線飛鳥文耳付扁壺		日登美美術館
111	バーナード・リーチ	鉄絵鹿文花瓶（セント・アイヴィス）		日登美美術館
112	河井寛次郎	青瓷繡花花瓶（鐘溪窯）		個人
113	河井寛次郎	三色扁壺		個人
114	河井寛次郎	呉洲泥刷毛目手壺		個人
115	河井寛次郎	菱花紋扁壺		個人
116	河井寛次郎	黄葉辰砂花紋扁壺		個人
117	河井寛次郎	象嵌鉢		
118	河井寛次郎	呉洲鉄釉三段筥		日登美美術館

No.	作家名	作品名	制作年	所蔵
119	河井寛次郎	青釉菱花紋茶碗		個人
120	河井寛次郎	「壺の図」		個人
121	濱田庄司	飴青釉掛分白格子文大鉢	1970	大阪日本民藝館
122	濱田庄司	塩釉白打掛角瓶	1969	大阪日本民藝館
123	濱田庄司	柿釉抜絵方壺	1969	大阪日本民藝館
124	濱田庄司	飴釉紋押共手土瓶		大阪日本民藝館
125	濱田庄司	掛分釉指描花瓶		個人
126	濱田庄司	白釉紋打黒流描角皿	1969	大阪日本民藝館
127	濱田庄司	地釉赤絵角鉢		日登美術館
128	濱田庄司	柿釉丸紋鉢		日登美術館
129	濱田庄司	琉球窯赤絵茶盃	1972	個人
130	濱田庄司	鉄釉柳文水指（レリーフ：バーナード・リーチ）		日登美術館
131	芹沢銈介	文字入四季文 二曲一隻屏風	1943	
132	芹沢銈介	佐藤春夫「極楽から来た」挿絵 八曲一隻屏風		
133	芹沢銈介	柳文暖簾		
134	芹沢銈介	基督像	1940年代	
135	芹沢銈介	小川紙漉村文地白縮緬着物		
136	棟方志功	板画「大和し美し」	1936	やまと-あ-とみゆ-じあむ
137	棟方志功	板画「鐘溪領祭巴の柵」（全24柵のうち1柵）	1945	やまと-あ-とみゆ-じあむ
138	棟方志功	板画「女人観世音板画卷」 六曲一隻屏風	1949	やまと-あ-とみゆ-じあむ
139	棟方志功	板画「歎異経板画卷」（道祖土領） 六曲一隻屏風	1950	
140	棟方志功	板画「心偈」 言葉：柳宗悦 六曲一隻屏風	1957	
141	棟方志功	板画「歎喜自像板画卷」	1963	やまと-あ-とみゆ-じあむ
142	棟方志功	書「柳仰」（柳宗悦を仰ぐ）		
143	黒田辰秋	溜漆櫛大平椀5客	1942	個人
144	黒田辰秋	黒沃地扇面形卓子	1949	個人
145	黒田辰秋	拭漆透彫文衝立		個人
146	黒田辰秋	朱四稜茶器		個人
147	黒田辰秋	黒沃地四稜茶器		個人
148	黒田辰秋	竹茶杓		個人
149	黒田辰秋	拭漆櫛茶托5客		個人

6. 柳宗悦の茶道

No.	作家名	作品名	制作年	所蔵
150	柳宗悦	書「点テヨ茶ヲ 様ナキマデニ」		
151	柳宗悦	書「一フクメセ 茶衣メサデ」		個人
153		李朝灰釉呉器茶碗（祭器）		
154		宋白磁茶碗		
155		李朝刷毛目茶碗		
156		美濃緑釉茶碗		
157	柳宗悦考案	椅子（長野県松本）		
158	柳宗悦考案	茶道具		
165	柳宗悦著	書籍『茶道を想ふ』 柳宗悦著 私家本	1936	

7. 柳宗悦の仏教と美の浄土

No.	作品名	制作年
87	摺仏「帝釈天図」	
88	拓本「青面金剛図」	
89	扇面阿弥陀聖衆来迎	
90	慈慧大師（元三大師）像	
152	書「無有好醜」（好醜有ること無し）	1955年頃
159	『和讃』教如版	慶長（1596-1615）年間
167	書籍『美の法門』 柳宗悦著 私家本	1949
169	書籍『美の浄土』 柳宗悦著 私家本	1960

5. 爆発する芸術 岡本太郎展

岡本太郎（1911-1996）は、ダイナミックな表現と挑発的な言動により、死後もなお注目を集める前衛芸術家である。本展覧会では、川崎市岡本太郎美術館、岡本太郎記念館の全面的な協力のもと、絵画や立体をはじめとする代表作約 120 点によって、その実像を紹介した。

展示では、エントランスホールに作品『手の椅子』『駄々っ子』に座り記念撮影できるスペースを設けたほか、展示室内でも『梵鐘・歓喜』を鳴らす体験コーナー、アトリエの雰囲気再現した＜TAROの部屋＞を置くなど、岡本太郎の奔放な芸術観を体感できるよう配慮し、好評を得た。

開幕直後の 6 日間は、小・中・高校生が無料で企画展を鑑賞できる「ふくしま教育週間」にあたっており、6 校 600 名あまりが利用した。教育週間終了後も、会期全体にわたって特に小学校の団体鑑賞が相次ぎ、週末にも学生、生徒の観覧が目立つなど、若年層の比率が高かった。

本展開催にあたり、当館と福島テレビで実行委員会を組織し、運営にあたった。主に広報面を福島テレビ、その他を当館が担当して役割分担を図り、スムーズな事業運営を目指した。

広報活動では、9 月中旬から市内プレイガイドやコンビニエンスストアにて前売券を販売、併せてテレビでスポット CM を放映。さらに福島市、福島市教育委員会の後援を得て、J R 福島駅東口に大型看板を設置して誘客に努めた。収益を高めるため、展覧会場での物品販売にも注力し、約 60 点の岡本太郎グッズと書籍を揃えて販売、これも大きな反響があった。

会期：2005 年 11 月 1 日(火)～12 月 11 日(日)

休館日：毎週月曜日、11 月 24 日(木)

主催：福島県立美術館、福島テレビ

共催：福島民報社

後援：福島市、福島市教育委員会、福島県美術協会、福島リビング新聞社

協力：川崎市岡本太郎美術館、岡本太郎記念館

会場：企画展示室 A-1・2・3、B

観覧料：一般・大学生 800(640) 円 高校生 500(400) 円

小・中学生 300(240) 円

* () 内は前売料金および 20 名以上の団体料金

担当学芸員：早川博明、宮武弘

印刷物：ポスター（B2・B3）、チラシ（A4）、案内状

展覧会図録（21 × 19 cm 88 頁）

図版：カラー 114 点

本文：『「芸術・爆発」—岡本太郎の挑発』

酒井哲朗（当館館長）



B2 ポスター



B3 ポスター



カタログ表紙

□関連事業

・講演会「岡本太郎と戦後日本」

講師：瀬木慎一氏（美術評論家、総合美術研究所所長）

日時：11月3日(木) 14:00-

場所：美術館講堂 70名

・ギャラリートーク（各回とも 14:00-）

① 11月5日(土) 大杉浩司氏（川崎市岡本太郎美術館学芸員）50名

② 11月11日(金) 早川博明（当館学芸課長）30名

③ 11月26日(土) 宮武弘（当館主任学芸員）70名

・映画会

①「公式長編記録映画 日本万国博」

（1971年／カラー 173分）

日時：11月13日(日) 10:00- 40名

場所：美術館講堂（入場無料）

②「宇宙人東京に現わる」（1956年／カラー 87分）

日時：11月23日(水) 10:00- / 14:00- 120名（2回合計）

場所：美術館講堂（入場無料）

□関連記事

・「爆発する芸術 岡本太郎展特集」『福島民報』

④「直感に訴える力強さ」早川博明 11月5日

⑤「人間の尊厳問いかけ」早川博明 11月12日

・「爆発する芸術—岡本太郎展」『河北新報』早川博明 11月12日

・「岡本太郎展作品紹介」『福島民報』

①「坐ることを拒否する椅子」早川博明 11月19日

②「縄文土器」宮武弘 11月26日

③「マミ会館模型」宮武弘 12月3日

④「ノン」早川博明 12月4日



瀬木慎一氏講演会（11/3）



大杉浩司氏ギャラリートーク（11/5）



ギャラリートーク（11/11）



2万人入館記念セレモニー（12/8）

出品リスト

No.	作品名	制作年	サイズ	材質技法	所蔵
1	コントロールボアン	1935/54	97.5 × 145	カンヴァス・油彩	東京国立近代美術館
2	憂愁	1947	99 × 64.3	カンヴァス・油彩	草月会
3	夜	1947	130 × 194	カンヴァス・油彩	川崎市岡本太郎美術館
4	まひるの顔	1948	130 × 162	カンヴァス・油彩	川崎市岡本太郎美術館
5	美女と野獣	1949	100 × 80.5	カンヴァス・油彩	川崎市岡本太郎美術館
6	重工業	1949	206 × 265	カンヴァス・油彩	川崎市岡本太郎美術館
7	黒い太陽	1949	91.3 × 117	カンヴァス・油彩	川崎市岡本太郎美術館
8	駄々っ子	1951	91 × 116	カンヴァス・油彩	川崎市岡本太郎美術館
9	樹人	1951	100 × 80.8	カンヴァス・油彩	川崎市岡本太郎美術館
10	足場	1952	100 × 73	カンヴァス・油彩	草月会
11	ドラマ	1958	184.5 × 259.5	カンヴァス・油彩	川崎市岡本太郎美術館
12	夜	1947	21 × 30.4	紙・鉛筆	川崎市岡本太郎美術館
13	美女と野獣	1947	25.2 × 18.2	紙・鉛筆、黒インク	川崎市岡本太郎美術館
14	重工業	1949	24.7 × 35	紙・鉛筆、黒インク	川崎市岡本太郎美術館
15	重工業	1949	35.2 × 24.7	紙・鉛筆、黒インク	川崎市岡本太郎美術館
16	森の掟	1950	25.8 × 36.6	紙・鉛筆、黒インク	川崎市岡本太郎美術館
17	マスク	1959	228 × 182	カンヴァス・油彩	川崎市岡本太郎美術館
18	遊ぶ	1961	182 × 226.5	カンヴァス・油彩	東京国立近代美術館
19	若い闘争	1962	182 × 227	カンヴァス・油彩	川崎市岡本太郎美術館
20	エクセホモ	1963	227 × 162	カンヴァス・油彩	川崎市岡本太郎美術館
21	千手	1965	227 × 182	カンヴァス・油彩	川崎市岡本太郎美術館
22	梵鐘・歓喜	1965	76 × 73 × 73	ブロンズ	岡本太郎記念館
23	光る彫刻	1967	87 × 100 × 100	F R P	川崎市岡本太郎美術館
24	花器無口	1967	10 × 33 × 18.5	陶	川崎市岡本太郎美術館
25	花器歩み	1967	24 × 30 × 19	陶	川崎市岡本太郎美術館
26	四面の壺	1978	28 × 28 × 24	陶	川崎市岡本太郎美術館
27	顔の大壺	1987	28 × 32 × 30	陶	川崎市岡本太郎美術館
28	つどい	1987	27 × 15 × 14.5	陶	川崎市岡本太郎美術館
29	坐ることを拒否する椅子	1963	45 × 40 × 40	陶	川崎市岡本太郎美術館
30	坐ることを拒否する椅子	1963	45 × 40 × 40	陶	川崎市岡本太郎美術館
31	坐ることを拒否する椅子	1963	45 × 40 × 40	陶	川崎市岡本太郎美術館
32	坐ることを拒否する椅子	1963	45 × 40 × 40	陶	川崎市岡本太郎美術館
33	坐ることを拒否する椅子	1963	45 × 40 × 40	陶	川崎市岡本太郎美術館
34	縄文土器	1956		写真	川崎市岡本太郎美術館
35	縄文土器	1974		写真	川崎市岡本太郎美術館
36	縄文土器	1956		写真	川崎市岡本太郎美術館
37	土偶	1956		写真	川崎市岡本太郎美術館
38	土偶	1956		写真	川崎市岡本太郎美術館
39	秋田／駅	1957		写真	川崎市岡本太郎美術館
40	秋田／駅／角巻きの女	1957		写真	川崎市岡本太郎美術館
41	秋田／飯田川の民家・風俗	1957		写真	川崎市岡本太郎美術館
42	秋田／横手かまくら	1957		写真	川崎市岡本太郎美術館
43	秋田／横手／ぼんでん	1957		写真	川崎市岡本太郎美術館
44	秋田／なまはげ	1957		写真	川崎市岡本太郎美術館
45	秋田／男鹿／芹沢／なまはげ	1957		写真	川崎市岡本太郎美術館
46	岩手／花巻温泉／鹿踊り	1957		写真	川崎市岡本太郎美術館
47	岩手／花巻温泉／鹿踊り	1957		写真	川崎市岡本太郎美術館
48	岩手／花巻温泉／鬼剣舞	1957		写真	川崎市岡本太郎美術館
49	岩手／花巻温泉／鬼剣舞	1957		写真	川崎市岡本太郎美術館
50	岩手／花巻温泉／鬼剣舞	1957		写真	川崎市岡本太郎美術館
51	岩手／花巻温泉／鬼剣舞	1957		写真	川崎市岡本太郎美術館
52	沖縄／大宜見村／いるか漁	1959		写真	川崎市岡本太郎美術館
53	沖縄／首里	1959		写真	川崎市岡本太郎美術館
54	沖縄／川平／獅子	1959		写真	川崎市岡本太郎美術館
55	沖縄／糸満／糸満港	1959		写真	川崎市岡本太郎美術館
56	沖縄／久高島のノロ	1959		写真	川崎市岡本太郎美術館
57	沖縄／久高島／イザイホー	1966		写真	川崎市岡本太郎美術館
58	沖縄／久高島／イザイホー	1966		写真	川崎市岡本太郎美術館
59	青森／恐山	1962		写真	川崎市岡本太郎美術館
60	青森／恐山	1962		写真	川崎市岡本太郎美術館
61	青森／恐山／巫女	1962		写真	川崎市岡本太郎美術館
62	青森／川倉／イタコの口よせ	1962		写真	川崎市岡本太郎美術館
63	青森／八戸市／オシラさま	1962		写真	川崎市岡本太郎美術館
64	青森／孫内／淡島さま	1962		写真	川崎市岡本太郎美術館

No.	作品名	制作年	サイズ	材質技法	所蔵
65	青森／金木町／荒馬	1962		写真	川崎市岡本太郎美術館
66	青森／下古川／虫送り	1962		写真	川崎市岡本太郎美術館
67	山形／出羽三山／田麦俣	1962		写真	川崎市岡本太郎美術館
68	山形／出羽三山／羽黒山の松例祭	1962		写真	川崎市岡本太郎美術館
69	明日の神話	1967	132 × 728	カンヴァス・油彩	名古屋市美術館
70	海辺の肖像	1973	130 × 162	カンヴァス・油彩	川崎市岡本太郎美術館
71	記念撮影	1975	193.5 × 145.5	カンヴァス・油彩	川崎市岡本太郎美術館
72	女	1978	162 × 112	カンヴァス・油彩	川崎市岡本太郎美術館
73	眼の立像	1981	145 × 112	カンヴァス・油彩	川崎市岡本太郎美術館
74	炎	1976	65 × 50	紙・リトグラフ	川崎市岡本太郎美術館
75	呼ぶ	1976	65 × 50	紙・リトグラフ	川崎市岡本太郎美術館
76	顔	1976	50 × 39	紙・リトグラフ	川崎市岡本太郎美術館
77	夢	1976	65 × 50	紙・リトグラフ	川崎市岡本太郎美術館
78	リョウラン	1976	65 × 50	紙・リトグラフ	川崎市岡本太郎美術館
79	夢	1980	51.5 × 66	紙・リトグラフ	川崎市岡本太郎美術館
80	愛	1981	43.5 × 56	紙・リトグラフ	川崎市岡本太郎美術館
81	母	1981	43 × 56	紙・リトグラフ	川崎市岡本太郎美術館
82	太陽	1981	43 × 56.5	紙・リトグラフ	川崎市岡本太郎美術館
83	眼と眼	1982	125 × 249	紙・リトグラフ	川崎市岡本太郎美術館
84	若い太陽の塔	1969	135 × 80 × 80	F R P	川崎市岡本太郎美術館
85	太陽の塔	1970	145 × 128 × 50	F R P	川崎市岡本太郎美術館
86	ノン	1970	170 × 120 × 110	F R P	川崎市岡本太郎美術館
87	樹霊 I	1970	250 × 180 × 100	F R P	川崎市岡本太郎美術館
88	海の門	1970	128 × 240 × 105	アルミ	川崎市岡本太郎美術館
89	若い夢	1974	200 × 180 × 180	F R P	川崎市岡本太郎美術館
90	マミ会館模型	1978	100 × 100 × 60	F R P、金属	川崎市岡本太郎美術館
91	飛行船模型	1978	100 × 100 × 60	F R P	川崎市岡本太郎美術館
92	飲む	1978	175 × 133 × 128	F R P	川崎市岡本太郎美術館
93	手—赤	1981	168 × 140 × 70	F R P	川崎市岡本太郎美術館
94	手—青	1981	168 × 120 × 70	F R P	川崎市岡本太郎美術館
95	太陽	1985	130 × 80 × 85	F R P	川崎市岡本太郎美術館
96	呼ぶA	1990	200 × 142 × 60	F R P	川崎市岡本太郎美術館
97	呼ぶB	1990	170 × 140 × 70	F R P	川崎市岡本太郎美術館
98	マスク	1970		F R P	川崎市岡本太郎美術館
99	マスク	1970		F R P	川崎市岡本太郎美術館
100	マスク	1970		F R P	川崎市岡本太郎美術館
101	マスク	1970		F R P	川崎市岡本太郎美術館
102	マスク	1970		F R P	川崎市岡本太郎美術館
103	躍進	1972	79.5 × 167	F R P	川崎市岡本太郎美術館
104	天に舞う	1974	116.5 × 169	F R P	川崎市岡本太郎美術館
105	顔	1952	14.5 × 9.5	陶	川崎市岡本太郎美術館
106	顔の時計	1967	29.3 × 29.3 × 5.8	F R P	川崎市岡本太郎美術館
107	遊び	1967	41 × 205 × 113	合板、金属	川崎市岡本太郎美術館
108	手の椅子	1967	120 × 70 × 90	F R P	川崎市岡本太郎美術館
109	スツール	1967	44 × 53 × 50	アルミ、布	川崎市岡本太郎美術館
110	ほおずえ	1968	122 × 78 × 62	布、金属	川崎市岡本太郎美術館
111	駄々っ子	1969	90 × 160 × 85	F R P	川崎市岡本太郎美術館
112	顔のスピーカー	1971	56 × 46 × 10	布、木、F R P	川崎市岡本太郎美術館
113	顔のグラス	1976	9 × 8 × 8	ガラス	川崎市岡本太郎美術館
114	花ひらく	1977	14.5 × 9.5	陶	川崎市岡本太郎美術館
115	爆発	1981	11.5 × 9.3 × 8.7	陶	川崎市岡本太郎美術館
116	アジア・アフリカ仮面				岡本太郎記念館
117	ロウ人形				岡本太郎記念館

6. 名取洋之助と日本工房

報道写真とグラフィック・デザインの青春時代

1930年代の日本において、報道写真とグラフィック表現に決定的な役割を果たした名取洋之助（1910-1962）と、彼が率いた日本工房の作品を展望する初の大規模展覧会。1931年にドイツで報道写真家となった名取は、33年活動拠点を日本に移し、木村伊兵衛、原弘らとともに日本工房を結成した。翌年春一旦解散するが、新たに第二次日本工房を結成、10月に季刊対外宣伝グラフ誌『NIPPON』を刊行する。『NIPPON』の登場は、日本が国際的なグラフ表現の水準に達したことを示すとともに、山名文夫、河野鷹思、亀倉雄策らのデザイナーや、土門拳、藤本四八などの写真家達の貴重な実践の場ともなった。

展覧会構成は、第1章—報道写真の夜明け（1931-34.3） 第2章—『NIPPON』創刊（1934.4-37.8） 第3章—国策と対外宣伝（1937.9-41.11）

第4章—拡散と消耗（1941.12-45.8）の4章構成とし、エピローグの形で戦後の名取の仕事についても紹介した。展示作品は、日本工房（のち国際報道工芸、国際報道と改称）の手がけた雑誌『NIPPON』をはじめとする81種のほか、掲載誌、制作委託物、写真など600点をこえた。

展覧会は、毎日新聞社との共催形式。特にネガ資料を所蔵する、日本カメラ財団と日本写真家協会に共催を仰いだ。当館が基幹館となり、川崎、足利、長崎へ巡回する。基礎調査は、10年近い歳月を費やし当館担当と白山眞理氏（写真史家、日本カメラ博物館運営委員）により行われ、図録も共編著となった（別体裁で市販もされた）。マスメディアでも特集が組まれ、『NHK 新日曜美術館』『芸術新潮』のほか、カメラ雑誌にも関連記事が掲載されるなど、大きな反響を呼んだ。

会期：2006年2月11日(土)～3月26日(日)

休館日：毎週月曜日、3月22日(水)

主催：福島県立美術館、毎日新聞社、福島民報社、福島テレビ

共催：財団法人日本カメラ財団、社団法人日本写真家協会

協力：財団法人土門拳記念館

協賛：国書刊行会

後援：福島市、福島市教育委員会、福島県写真連盟

会場：企画展示室 A-1・2・3、B

観覧料：一般・大学生 800(640)円 高校生 500(400)円

小・中学生 300(240)円 * () 内は20名以上の団体料金

担当学芸員：堀宜雄／荒木康子

印刷物：ポスター（B2・B3）、チラシ（A4）、案内ハガキ

図録（29.5×22.5cm 176頁）

図版：1000点以上

本文：「日本工房を率いた名取洋之助」

白山眞理（写真史家、日本カメラ博物館運営委員）

コラム執筆：白山眞理、堀宜雄（当館学芸員）、

森仁史（デザイン史家）



B2 ポスター



カタログ表紙

□関連事業

・ギャラリートーク（各回とも 14:00-）

① 2月11日(土)「名取洋之助のめざしたもの」

白山真理（写真史家、日本カメラ博物館） 40名

② 2月19日(日)「日本工房の仕事—『NIPPON』を中心に」

堀宜雄（当館主任学芸員） 20名

③ 2月26日(日)「グラフ雑誌というメディア」

森仁史（デザイン史家、松戸市美術館準備室） 20名

④ 3月5日(日)「1930年代の写真と日本工房」

金子隆一（写真史家、東京都写真美術館調査専門員） 30名

⑤ 3月19日(日)「父・名取洋之助」名取美和（名取洋之助長女） 50名

⑥ 3月26日(日)「土門拳と日本工房」堀宜雄（当館主任学芸員） 40名

□関連記事

・「名取洋之助と日本工房展」『毎日新聞（福島県版）』堀宜雄

①「夢と挫折」2月21日

②「『NIPPON』創刊」2月22日

③「土門拳登場」2月23日

④「五輪と博覧会」2月25日

⑤「映像イメージの競演」3月2日

⑥「従軍写真記録」3月3日

⑦「消耗戦の果てに」3月7日

・「名取洋之助と日本工房展」『河北新報』堀宜雄 2月25日

・「写真・デザインの先駆け 名取洋之助と日本工房展」『福島民報』堀宜雄

㊤「伝説の制作集団」2月26日

㊤「独特のぬくもり」3月4日

㊤「リアリズム創出」3月5日

・「名取洋之助と日本工房展 展示品紹介」『福島民報』堀宜雄

㊤「グラフィック表現と国策宣伝」3月11日

㊤「戦時下のヒーロー沢村に焦点」3月12日

㊤「伝えたかった真の日本」3月18日

・「名取洋之助の NIPPON 時代」『芸術新潮』2006年3月号 pp.116-125

・「70年前のニッポン～名取洋之助と日本工房展から」

『アサヒカメラ』2006年3月号 pp.83-91

・「NC ジャーナル 名取洋之助と日本工房展」

『日本カメラ』2006年4月号 p.5

・「情報羅針盤 名取洋之助と日本工房展」

『フォトコンテスト』2006年4月号 p.147

・「Pathos and Propaganda from Nippon Studio」

『Daily Yomiuri』James Hardy 3月2日

・「ニュース 名取洋之助と日本工房展」『サンデー毎日』3月5日号 p.154

・NHK『新日曜美術館』「アートシーン」（約5分）3月5日放映



展示風景



森仁史氏ギャラリートーク（2/26）



名取美和氏ギャラリートーク（3/19）

出品リスト

分類 番号	作品名 原文タイトル または 発行元	制作年 寸法 (mm)	所蔵 作家名 (材質技法)
1 章：報道写真の夜明け [1931-34.3]			
参考 S001	ライカ III Leica III	1935 年発売 H70 × W140 × D53	日本カメラ博物館
参考 S002	ローライフレックス スタンダード Rolleiflex	1936 年発売 H200 × W95 × D80	日本カメラ博物館
掲載誌 A001	「宝さがし」『ミュンヘナー・イルストリールテ・プレッセ』 'Schatzgräber' "Münchener Illustrierte Presse"	1931 年 6 月 376 × 235	日本カメラ博物館 写真：名取洋之助
掲載誌 A002	「日本の宿屋」『ベルリナー・イルストリールテ・ツァイトウンゲ』 'Hotel in Japan' "Berliner Illustrierte Zeitung"	1932 年 6 月 26 日 378 × 278	個人蔵 写真：名取洋之助 (1932 年撮影)
掲載誌 A003	「日本の住宅」『ベルリナー・イルストリールテ・ツァイトウンゲ』 'Japanische Wohnungen' "Berliner Illustrierte Zeitung"	1932 年 9 月 4 日 378 × 278	川崎市市民ミュージアム 写真：名取洋之助 (1932 年撮影)
掲載紙 A004	「玩具の学校」『婦人画報』 東京社	1934 年 7 月 262 × 188	島田安彦コレクション 写真：名取洋之助 (1932 年撮影)
掲載誌 A005	「相撲」『ベルリナー・イルストリールテ・ツァイトウンゲ』 '120 Stunden Sumo...' "Berliner Illustrierte Zeitung"	1934 年 7 月 7 日 378 × 278	川崎市市民ミュージアム 写真：名取洋之助 (1932 年撮影)
掲載誌 A006	「二人の皇帝」『ベルリナー・イルストリールテ・ツァイトウンゲ』 'Zwei Kaiser' "Berliner Illustrierte Zeitung"	1935 年 5 月 2 日 378 × 278	川崎市市民ミュージアム 写真：名取洋之助 (1935 年撮影)
掲載誌 A007	「空からみた日本」『ベルリナー・イルストリールテ・ツァイトウンゲ』 'Nippon von oben' "Berliner Illustrierte Zeitung"	1935 年 8 月 15 日 378 × 278	川崎市市民ミュージアム 写真：名取洋之助 (1935 年撮影)
掲載誌 A008	「表紙」『光画』2 巻 10 号 光画社	1933 年 10 月 278 × 221	川崎市市民ミュージアム 写真：木村伊兵衛
掲載誌 A008	「外国行通信写真の一部」『光画』2 巻 10 号 光画社	1933 年 10 月 278 × 221	川崎市市民ミュージアム 写真：名取洋之助
掲載誌 A009	「文芸家肖像展」『光画』2 巻 12 号 光画社	1933 年 12 月 278 × 221	個人蔵 写真：木村伊兵衛
掲載誌 A010	『アサヒカメラ読本』（『アサヒカメラ』付録） 148 × 111	1935 年 1 月 148 × 111	島田安彦コレクション 写真：名取洋之助
写真 P0101	＜日本の宿屋＞より 1 点	1932 年 304 × 254	土門拳記念館 名取洋之助
写真 P0201-03	＜日本の住宅＞より 3 点	1932 年 各 304 × 254	土門拳記念館／日本写真家協会 名取洋之助
写真 P0301	＜ライカによる文芸家の肖像＞より 佐藤春夫	1933 年 12 月 287 × 224	横浜美術館 木村伊兵衛
写真 P0302	＜ライカによる文芸家の肖像＞より 高田保	1933 年 12 月 287 × 194	横浜美術館 木村伊兵衛
写真 P0303	＜ライカによる文芸家の肖像＞より 長谷川如是閑	1933 年 12 月 287 × 224	横浜美術館 木村伊兵衛
写真 P0304	＜ライカによる文芸家の肖像＞より 横光利一	1933 年 12 月 287 × 213	横浜美術館 木村伊兵衛
写真資料 p001	報道写真展会場 2 点	1934 年 3 月 122 × 193 127 × 196	特種製紙株式会社 ※ヴィンテージ・プリント
写真資料 p002	報道写真展会場 4 点	1934 年 3 月 各 200 × 200	画像提供：日本カメラ博物館 写真パネル
印刷物 C001	日本工房便箋 1	1933 年 273 × 215	特種製紙株式会社 構成：原弘
印刷物 C002	日本工房パンフレット 1—報道写真に就いて 日本工房	1934 年 3 月 12 日 243 × 192	特種製紙株式会社 構成：原弘／写真：木村伊兵衛、名取洋之助
参考 S003-1	『ディー・ベトヒャーシュトラッセ』創刊号、6 号 'Die Bottcherstrasse'	1928 年 5 月、10 月 353 × 258	個人蔵
参考 S004	「大東京の性格」『中央公論』 中央公論社	1931 年 10 月 212 × 273	個人蔵 写真：堀野正雄
参考 S005	「カメラ・ワークより ダンスホールをみる」『フォトタイムス』 フォトタイムス社	1933 年 2 月 218 × 150	個人蔵 写真：渡辺義雄
参考 S006	「モダン趣味」『婦人画報』 東京社	1934 年 2 月 242 × 190	島田安彦コレクション 構成：河野鷹思
2 章：『NIPPON』創刊 [1934.4-37.8]			
雑誌 M0101	『NIPPON』1 号 日本工房	1934 年 10 月 20 日 370 × 266	武蔵工業大学図書館／特種製紙株式会社／川崎市市民ミュージアム／ 大宅壮一文庫／個人蔵 表紙構成：山名文夫／表紙写真：渡辺義雄
雑誌 M0102	『NIPPON』2 号 日本工房	1935 年 1 月 25 日 372 × 266	武蔵工業大学図書館／特種製紙株式会社／川崎市市民ミュージアム／ 大宅壮一文庫／山鬼文庫／個人蔵 表紙構成：河野鷹思
雑誌 M0103	『NIPPON』3 号 日本工房	1935 年 4 月 20 日 372 × 266	武蔵工業大学図書館／特種製紙株式会社／川崎市市民ミュージアム 表紙構成：山名文夫
雑誌 M0104	『NIPPON』4 号 日本工房	1935 年 7 月 22 日 372 × 266	武蔵工業大学図書館／川崎市市民ミュージアム／大宅壮一文庫／個人蔵 表紙構成：山名文夫
雑誌 M0105	『NIPPON』5 号 日本工房	1935 年 11 月 25 日 372 × 266	武蔵工業大学図書館／特種製紙株式会社／川崎市市民ミュージアム 表紙構成：山名文夫

分類 番号	作品名 原文タイトル または 発行元	制作年 寸法 (mm)	所蔵 作家名 (材質技法)
雑誌 M0106	『NIPPON』6号 日本工房	1936年3月5日 370×265	武蔵工業大学図書館／川崎市市民ミュージアム 表紙構成：山名文夫／表紙写真：名取洋之助
雑誌 M0107	『NIPPON』7号 日本工房	1936年6月4日 372×266	武蔵工業大学図書館／川崎市市民ミュージアム／個人蔵 表紙構成：河野鷹思／表紙写真：名取洋之助
雑誌 M0108	『NIPPON』8号 日本工房	1936年8月10日 370×266	武蔵工業大学図書館／川崎市市民ミュージアム／個人蔵 表紙構成：山名文夫
雑誌 M0109	『NIPPON』9号 日本工房	1936年11月2日 370×266	武蔵工業大学図書館／個人蔵 表紙構成：山名文夫／表紙写真：[土門拳]
雑誌 M0110	『NIPPON』10号 現代日本女性号 日本工房	1937年3月15日 372×266	武蔵工業大学図書館／日本カメラ博物館 表紙構成：河野鷹思
雑誌 M0111	『NIPPON』11号 パリ万国博覧会号 日本工房	1937年5月17日 369×265	武蔵工業大学図書館／川崎市市民ミュージアム／個人蔵 表紙構成：熊田五郎／表紙写真：[土門拳]
雑誌 M0112	『NIPPON』12号 日本教育号 日本工房	1937年7月28日 369×265	武蔵工業大学図書館／川崎市市民ミュージアム／個人蔵 表紙構成：山名文夫
雑誌 M0136	『NIPPON』日本語版 1936年 日本工房	1936年12月20日 372×263	川崎市市民ミュージアム／大宅壮一文庫／個人蔵 表紙構成：熊田五郎／表紙写真：[土門拳]
雑誌 M01A	『NIPPON』1-4号合本 日本工房	1934-35年 372×267	国際交流基金図書館
雑誌 M01B	『NIPPON』5-8号合本 日本工房	1935-36年 370×265×23	国際交流基金図書館／大宅壮一文庫
雑誌 M01C'	『NIPPON』9,14,15,16号合本 日本工房	1936-38年 372×267×24	大宅壮一文庫
雑誌 M01C	『NIPPON』9-12号合本 日本工房	1936-37年 372×267	国際交流基金図書館
雑誌 M01D'	『NIPPON』10-13号合本 日本工房	1937年 372×268	大宅壮一文庫
印刷物 C003	日本工房便箋2	1934年頃 281×216	資生堂企業資料館 構成：山名文夫
印刷物 C004	日本工房便箋3	1935-36年 281×216	資生堂企業資料館 構成：山名文夫
印刷物 C005	日本工房封筒1	1934年 109×272	資生堂企業資料館 構成：山名文夫
印刷物 C006	日本工房封筒2	1934年 109×272	資生堂企業資料館 構成：山名文夫
印刷物 C007	『NIPPON』購読用ハガキ1	1935年頃 140×91	川崎市市民ミュージアム 構成：山名文夫
印刷物 C008	昭和11年年賀状	1935年 141×91	資生堂企業資料館 [構成：山名文夫]
印刷物 C009	『NIPPON』リーフレット	1936年頃 191×134	川崎市市民ミュージアム 構成：熊田五郎／写真：名取洋之助，土門拳
印刷物 C010	『NIPPON』リーフレット	1936年頃 191×134	個人蔵 構成：熊田五郎／写真：名取洋之助，土門拳 [スクラップブック貼込]
印刷物 C011	『NIPPON』購読用ハガキ2	1936年頃 91×140	個人蔵 構成：熊田五郎
印刷物 C012	『NIPPON』購読用ハガキ3	1936年頃 91×140	個人蔵 構成：熊田五郎
印刷物 C013	『NIPPON』ポスター	1934-35年 503×348	資生堂企業資料館 構成：山名文夫
印刷物 C014	昭和12年年賀状	1936年 140×91	個人蔵 構成：熊田五郎
印刷物 C015	クリスマスカード	1936年 133×187	個人蔵 構成：熊田五郎 [スクラップブック貼込]
印刷物 C016	『NIPPON』購読用ハガキ4	1936年頃 91×140	個人蔵 構成：熊田五郎
印刷物 C017	芝浦電気扇ポスター	1936年 756×526	個人蔵 構成：熊田五郎／写真：名取洋之助
印刷物 C018	芝浦製作所カレンダー 1937年6月	1936年 462×378	個人蔵 構成：熊田五郎／写真：土門拳
印刷物 C019	芝浦製作所カレンダー 1937年9月	1936年 462×378	個人蔵 構成：熊田五郎／写真：土門拳
印刷物 C020	鐘紡リーフレット	1935-36年 272×192	資生堂企業資料館 構成：山名文夫
印刷物 C021	鐘紡包装紙	1935-36年 267×189	資生堂企業資料館 構成：熊田五郎
印刷物 C022	鐘紡封筒	1935年頃 119×227	個人蔵 構成：熊田五郎 [スクラップブック貼込]
印刷物 C023	鐘紡封筒	1935年頃 126×176	個人蔵 構成：熊田五郎
印刷物 C024	鐘紡サービスステーション封筒	1935年頃 256×168	個人蔵 構成：熊田五郎

分類 番号	作品名 原文タイトル または 発行元	制作年 寸法 (mm)	所蔵 作家名 (材質技法)
印刷物 C025	鐘紡包装紙	1935 年頃 395 × 269	個人蔵 構成：熊田五郎 [スクラップブック貼込]
印刷物 C026	鐘紡包装紙	1935 年頃 378 × 270	個人蔵 構成：熊田五郎 [スクラップブック貼込]
印刷物 C027	鐘紡ジョーゼツトン夏衣ポスター	1936 年頃 510 × 708	個人蔵 構成：熊田五郎／写真：[土門拳]
印刷物 C028	共同印刷パンフレット	1936 年 341 × 266	個人蔵 構成：熊田五郎
印刷物 C029	小西六印画紙リーフレット	1936-37 年 175 × 175	個人蔵 構成：熊田五郎
出版物 B001	『RECOLLECTIONS』(東京女子高等師範学校卒業アルバム)	1936 年 3 月 252 × 213	土門拳記念館 編集：山名文夫, 熊田五郎／写真：名取洋之助, 土門拳
出版物 B002	『ZUR ERNNENRUNG』(早稲田大学経済学部卒業アルバム)	1936 年 3 月 265 × 365	個人蔵 編集：山名文夫, 熊田五郎／写真：名取洋之助, 土門拳
出版物 B003	『YEAR BOOK 1935-36』(日本陸上競技連盟年鑑)	1936 年 272 × 192	資生堂企業資料館 制作：日本工房／構成：熊田五郎
出版物 B004	名取洋之助『グローセス・ヤーパン=大日本』 "GROSSES JAPAN = DAI NIPPON" カール・シュベヒト社刊	1937 年 274 × 224	個人蔵 装幀：ジグムント・フォン・ウェイヒ
出版物 B005	名取洋之助『グロース・ヤーパン=大日本』 "GROSS-JAPAN = DAI NIPPON" カール・シュベヒト社刊	1942 年 268 × 217	個人蔵 装幀：ジグムント・フォン・ウェイヒ (再版)
資料 D001	サンデー毎日挿画「新しき年のために」	1934 年 1 月 180 × 129	資生堂企業資料館 山名文夫
資料 D002	日本工房封筒原稿	1934 年 109 × 243	資生堂企業資料館 山名文夫
資料 D003	屏絵原画 (『NIPPON』1 号)	1934 年 345 × 249	資生堂企業資料館 山名文夫
資料 D004	山名文夫書簡 (熊田精華宛)	1934 年 10 月 19 日消印 201 × 280	個人蔵 山名文夫
資料 D005	「女性の表情」見出し (『NIPPON』2 号)	1935 年 162 × 193	資生堂企業資料館 山名文夫
資料 D006	「米」見出し (『NIPPON』2 号)	1935 年 58 × 199	資生堂企業資料館 山名文夫
資料 D007	「朝鮮舞踊」見出し (『NIPPON』3 号)	1935 年 162 × 193	資生堂企業資料館 山名文夫
資料 D008	「浦島太郎」印刷原画 (『NIPPON』3 号)	1935 年 368 × 267	資生堂企業資料館 山名文夫
資料 D009	「熱河」「三井」見出し (『NIPPON』4 号)	1935 年 167 × 272	資生堂企業資料館 山名文夫
資料 D010	「桃太郎」下図 (『NIPPON』4 号)	1935 年 370 × 266	資生堂企業資料館 山名文夫
資料 D011	「民族舞踊」「皇軍」見出し (『NIPPON』5 号)	1936 年 173 × 272	資生堂企業資料館 山名文夫
資料 D012	「日本の輸出工業の躍進と見通し」見出し (『NIPPON』5 号)	1936 年 159 × 273	資生堂企業資料館 山名文夫
資料 D013	「郷土玩具」見出し (『NIPPON』6 号)	1936 年 236 × 299	資生堂企業資料館 山名文夫
資料 D014	「今日の日本住宅」「舞踏会」見出し (『NIPPON』5,6 号)	1936 年 154 × 273	資生堂企業資料館 山名文夫
資料 D015	ホテル・シュワルツァ・ボック広告原稿	1936 年頃 118 × 67	資生堂企業資料館 山名文夫
資料 D016	鐘紡レタリング	1934-36 年 134 × 195	資生堂企業資料館 山名文夫
資料 D017	資生堂広告原画 (『NIPPON』7 号)	1936 年 151 × 96	資生堂企業資料館 山名文夫
資料 D018,19	『NIPPON』見出し (台紙 2 枚貼込)	1934-36 年 各 510 × 386	多摩美術大学 山名文夫
資料 D020,21	見出し用アルファベット レタリング清刷	1934 年頃 170 × 220 / 339 × 248	資生堂企業資料館 山名文夫
資料 D022	「オリンピック」見出し (『NIPPON』9 号)	1936 年 95 × 154	資生堂企業資料館 山名文夫
写真 P0301-02	<中禅寺湖のヨットレース> (『NIPPON』1 号) より 2 点	1934 年 304 × 254 / 254 × 304	個人蔵 堀野正雄 ※ヴィンテージ・プリント
写真 P0401-02	<日本の輸出工業の躍進と見通し> (『NIPPON』5 号) より芝浦電気工場 2 点	1935 年 各 304 × 254	土門拳記念館 名取洋之助
写真 P0403-05	<日本の輸出工業の躍進と見通し> (『NIPPON』5 号) より [鉄鋼所] 3 点	1935 年 各 304 × 254	土門拳記念館／日本写真家協会 名取洋之助
写真 P0501-05	<皇軍> (『NIPPON』5 号) より 5 点	1935 年 各 304 × 254	土門拳記念館／日本写真家協会 名取洋之助
写真 P0601-06	<小学校の運動会> (『NIPPON』5 号) より 6 点	1935 年 各 304 × 254	土門拳記念館／日本写真家協会 名取洋之助

分類 番号	作品名 原文タイトル または 発行元	制作年 寸法 (mm)	所蔵 作家名 (材質技法)
写真 P0701-03	「鐘紡の女工」(『NIPPON』5号) より 3点	1935年 各 304 × 254	日本写真家協会 名取洋之助
写真-02 P0801-03	「海辺にて」より 3点	1935年 各 304 × 254	日本写真家協会 名取洋之助
写真-12 P0901-12	<キリスト教徒の村>より 12点	1935年8月 各 304 × 254	日本写真家協会 名取洋之助
写真 P1001	「原節子」	1936年 304 × 254	日本写真家協会 名取洋之助
写真 P1101-2	「飯名手本忠臣蔵」(『NIPPON』7号) より 2点	1936年 各 304 × 254	土門拳記念館 名取洋之助
写真 P1201-2	「陸上選手」より 2点	1936年 各 304 × 254	日本写真家協会 名取洋之助または土門拳
写真 P1301	<弓道>(『NIPPON』7号) より	1936年 304 × 254	土門拳記念館 名取洋之助または土門拳
写真 P1302	<剣道>(『NIPPON』7号) より	1936年 304 × 254	土門拳記念館 名取洋之助または土門拳
写真 P1303	<柔道>(『NIPPON』7号) より	1936年 304 × 254	土門拳記念館 名取洋之助または土門拳
写真 P1401-02	<法隆寺>(『NIPPON』7号) より 2点	1936年 各 304 × 254	日本写真家協会 [名取洋之助]
写真 P1501	<農村花嫁学校>より	1933-36年 304 × 254	日本写真家協会 [名取洋之助]
写真 P1601-04	<朝鮮>より 4点	1936年 各 304 × 254	日本カメラ博物館 [名取洋之助]
写真 P1701-10	<伊豆の週末>(『NIPPON』8号) より 10点	1936年 各 304 × 254	土門拳記念館 土門拳
写真 P1801-07	<浅草>(『NIPPON』8号) より 7点	1936年 各 304 × 254	土門拳記念館 土門拳
写真 P1901	「鶴見造船所」(『NIPPON』9号表紙)	1936年 304 × 254	土門拳記念館 土門拳
写真 P2001-04	<日本の水兵>(『NIPPON』9号) より 4点	1936年 各 304 × 254	土門拳記念館 土門拳
写真 P2101-08	「ベルリン 1936」より 8点	1936年8月 各 304 × 254	日本カメラ博物館 名取洋之助
写真 P2201-12	「アメリカ 1937」より 12点	1937年 各 304 × 254	日本カメラ博物館 名取洋之助
写真資料 p003	「土門拳」	1936年頃 216 × 145	個人蔵 写真：熊田五郎
写真資料 p004	「リーフレット『NIPPON』制作中の熊田五郎」	1936年 146 × 207	個人蔵 土門拳
写真資料 p005	「熊田五郎 (自宅にて)」	1936年頃 239 × 157	個人蔵 土門拳
写真資料 p006	「鐘紡包装紙」	1936年頃 216 × 300	個人蔵 土門拳
写真資料 p007	「マガジンスタンドにて」	1936年頃 254 × 203	日本写真家協会
写真資料 p008-011~16	日本工房コンタクト・ブック 16冊	1933-44年 各 308 × 227	横浜美術館
写真資料 p009	「陸軍兵の撮影」	1939年8月 254 × 203	日本写真家協会 松田正志
写真資料 p010	「鈴木ビル」	1939年11月 254 × 203	日本写真家協会 松田正志
写真資料 p011	「サンフランシスコ万博写真壁画《楽シイ日本》の制作の指示をする亀倉雄策」	1940年4月 254 × 203	日本写真家協会
掲載誌 A011	『ベルリナー・イルストリールテ・ツァイトウング』オリンピック特集号 "Berliner Illustrierte Zeitung Olympic Number"	1936年 368 × 260	個人蔵
掲載誌 A012	『ディー・ノイエ・リーニエ』日本特集号 "Die Neue Linie"	1937年1月号 346 × 260	川崎市市民ミュージアム／国際交流基金図書館
掲載誌 A013	「日本の兵士」『ライフ』表紙 "LIFE" cover photo	1937年1月11日号 360 × 270	個人蔵 写真：名取洋之助
掲載誌 A014	「日本の最高の写真家」『ライフ』 "Speaking of Pictures... These are by a top-notch Japanese Cameraman" "LIFE"	1937年5月10日 360 × 270	個人蔵 写真：名取洋之助
掲載誌 A015	「日本の写真家、ヴァーモントをみる」『ライフ』 "A Japanese Photographer looks at Vermont" "LIFE"	1937年7月19日 360 × 270	個人蔵 写真：名取洋之助
掲載誌 A016	「日本人の見たアメリカ」『ベルリナー・イルストリールテ・ツァイトウング』 "Younosuke Natori; Japan sieht Amerika" "Berliner Illustrierte Zeitung"	1937年8月25日 378 × 278	川崎市市民ミュージアム 写真：名取洋之助
掲載誌 A017	「日本、世界で最も因習的な国民」『ライフ』 "The Japanese ; The World's Most Conventional People" "LIFE"	1937年8月30日 360 × 270	個人蔵 写真：名取洋之助ほか
掲載誌 A018	「メジャーリーグ・ベースボール」『フォーチュン』 "Big League Baseball" "Fortune"	1937年8月 355 × 283	個人蔵 写真：名取洋之助

分類 番号	作品名 原文タイトル または 発行元	制作年 寸法 (mm)	所蔵 作家名 (材質技法)
3 章：国策と対外宣伝 [1937.9-41.11]			
雑誌 M0113	『NIPPON』13号 日本工房	1937年10月1日 369×265	武蔵工業大学図書館／川崎市市民ミュージアム／松戸市教育委員会／個人蔵 表紙構成：山名文夫
雑誌 M0114	『NIPPON』14号 日本工房	1938年2月28日 372×266	武蔵工業大学図書館／川崎市市民ミュージアム／山鬼文庫／個人蔵 表紙構成：河野鷹思 表紙写真：名取洋之助
雑誌 M0115	『NIPPON』15号 日本の手工芸号 日本工房	1938年6月1日 372×267	武蔵工業大学図書館／川崎市市民ミュージアム／山鬼文庫／個人蔵 表紙構成：河野鷹思／表紙写真：[土門拳]
雑誌 M0116	『NIPPON』16号 日本工房	1938年10月20日 372×267	武蔵工業大学図書館／川崎市市民ミュージアム／特種製紙株式会社／山鬼文庫 表紙構成：河野鷹思
雑誌 M0117	『NIPPON』17号 ゴールデンゲート万博号 日本工房	1939年3月18日 372×267	武蔵工大図書館／川崎市市民ミュージアム 表紙構成：河野鷹思
雑誌 M0118	『NIPPON』18号 朝鮮号 国際報道工芸	1939年7月1日 372×267	武蔵工業大学図書館／川崎市市民ミュージアム 表紙構成：高松甚二郎 表紙写真：森堯之
雑誌 M0119	『NIPPON』19号 満洲国特別号 国際報道工芸	1939年10月12日 372×267	武蔵工業大学図書館／川崎市市民ミュージアム／個人蔵 表紙構成：亀倉雄策
雑誌 M0120	『NIPPON』20号 日本精神特集号 国際報道工芸	1939年11月20日 372×267	武蔵工業大学図書館／川崎市市民ミュージアム 表紙構成：高松甚二郎
雑誌 M0121	『NIPPON』21号 国際報道工芸	1940年2月12日 372×267	武蔵工業大学図書館／川崎市市民ミュージアム／個人蔵 表紙構成：板坂勇
雑誌 M0122	『NIPPON』22号 外国との文化交流号 国際報道工芸	1940年5月25日 372×267	武蔵工業大学図書館／川崎市市民ミュージアム 表紙構成：伊神商平
雑誌 M0123	『NIPPON』23号 国際報道工芸	1940年8月25日 372×267	武蔵工業大学図書館／川崎市市民ミュージアム／個人蔵 表紙構成：伊神商平／表紙写真：松田正志
雑誌 M0124	『NIPPON』24号 国際報道工芸	1940年12月20日 372×267	武蔵工業大学図書館／特種製紙株式会社／川崎市市民ミュージアム 表紙構成：亀倉雄策
雑誌 M0125	『NIPPON』25号 日米特集号 国際報道工芸	1941年3月20日 372×267	武蔵工業大学図書館／川崎市市民ミュージアム／個人蔵 表紙構成：伊神商平 表紙画：里見勝蔵
雑誌 M0126	『NIPPON』26号 国際報道工芸	1941年5月30日 364×257	武蔵工業大学図書館／川崎市市民ミュージアム／松戸市教育委員会／個人蔵 表紙構成：伊神商平 表紙画：近藤浩一路
雑誌 M0127	『NIPPON』27号 国際報道工芸	1941年8月30日 363×257	武蔵工業大学図書館／特種製紙株式会社／川崎市市民ミュージアム／大宅壮一文庫／個人蔵 表紙構成：亀倉雄策
雑誌 M0138	『NIPPON』日本語版 1937年 日本工房	1937年12月17日 368×267	特種製紙株式会社／川崎市市民ミュージアム／大宅壮一文庫／個人蔵 表紙構成：河野鷹思
雑誌 M0139	『日本の手仕事』『NIPPON』特別号 "NIPPON - Japanisches Handwerk : Sonderheft der Zeitschrift" 日本工房	1938年4月14日 371×264	特種製紙株式会社／川崎市市民ミュージアム／大宅壮一文庫／個人蔵 表紙構成：河野鷹思 表紙写真：[土門拳]
雑誌 M0140	『NIPPON』日本版 1-1 日本工房	1938年7月25日 368×267	川崎市市民ミュージアム／大宅壮一文庫 表紙構成：河野鷹思
雑誌 M0141	『NIPPON』日本版 1-2 日本工房	1938年12月28日 297×227	個人蔵 表紙構成：河野鷹思 表紙写真：[小柳次一]
雑誌 M0201	『COMMERCE JAPAN』1号 貿易組合中央会（制作：日本工房）	1938年4月10日 348×267	大宅壮一文庫／魚山堂書店 表紙構成：河野鷹思
雑誌 M0202	『COMMERCE JAPAN』2号 貿易組合中央会（制作：日本工房）	1938年10月18日 348×267	大宅壮一文庫／魚山堂書店 表紙構成：T. 木村
雑誌 M0203	『COMMERCE JAPAN』3号 貿易組合中央会（制作：日本工房）	1938年11月30日 348×267	大宅壮一文庫／魚山堂書店
雑誌 M0204	『COMMERCE JAPAN』4号 貿易組合中央会（制作：日本工房）	1938年12月28日 348×267	大宅壮一文庫／魚山堂書店
雑誌 M0205	『COMMERCE JAPAN』5号 貿易組合中央会（制作：日本工房）	1939年4月10日 348×266	川崎市市民ミュージアム／大宅壮一文庫／山鬼文庫／魚山堂書店／個人蔵 表紙構成：岡秀行
雑誌 M0206	『COMMERCE JAPAN』6号 貿易組合中央会（制作：日本工房）	1939年6月30日 350×264	特種製紙株式会社／大宅壮一文庫／山鬼文庫／魚山堂書店
雑誌 M0207	『COMMERCE JAPAN』7号 貿易組合中央会（制作：日本工房）	1939年10月19日 350×267	大宅壮一文庫／山鬼文庫／魚山堂書店
雑誌 M0208	『COMMERCE JAPAN』8号 貿易組合中央会（制作：日本工房）	1939年12月25日 350×267	特種製紙株式会社／大宅壮一文庫／魚山堂書店
雑誌 M0209	『COMMERCE JAPAN』9号 貿易組合中央会（制作：日本工房）	1940年3月28日 352×267	大宅壮一文庫
雑誌 M0210	『COMMERCE JAPAN』10号 貿易組合中央会（制作：日本工房）	1940年10月18日 350×267	特種製紙株式会社
雑誌 M0211	『COMMERCE JAPAN』11号 貿易組合中央会（制作：日本工房）	1940年12月25日 353×265	大宅壮一文庫／日本カメラ博物館
雑誌 M0212	『COMMERCE JAPAN』12号 貿易組合中央会（制作：日本工房）	1941年3月28日 353×265	特種製紙株式会社／日本カメラ博物館／山鬼文庫
雑誌 M0213	『COMMERCE JAPAN』13号 貿易組合中央会（制作：日本工房）	1941年6月25日 353×265	川崎市市民ミュージアム／日本カメラ博物館／山鬼文庫
雑誌 M0214	『COMMERCE JAPAN』14号 貿易組合中央会（制作：日本工房）	1941年6月25日 363×257	大宅壮一文庫／日本カメラ博物館／山鬼文庫
雑誌 M0301	『SHANGHAI』1号 Ching Cong Kan（制作：日本工房）	1938年12月 350×267	大宅壮一文庫 表紙構成：河野鷹思

分類 番号	作品名 原文タイトル または 発行元	制作年 寸法 (mm)	所蔵 作家名 (材質技法)
雑誌 M0302	『SHANGHAI』2号 Ching Cong Kan (制作: 日本工房)	1939年3月 349 × 267	特種製紙株式会社/川崎市市民ミュージアム/大宅壮一文庫 表紙構成: 河野鷹思
雑誌 M0401	『CANTON』1-1号 Oriental Cultural Association (制作: 日本工房)	1939年4月 298 × 225	特種製紙株式会社/大宅壮一文庫/山鬼文庫 表紙構成: 亀倉雄策
雑誌 M0402	『CANTON』1-2号 Oriental Cultural Association (制作: 国際報道工芸)	1939年5月 300 × 224	特種製紙株式会社/大宅壮一文庫/山鬼文庫 表紙構成: 亀倉雄策
雑誌 M0403	『CANTON』1-3号 Oriental Cultural Association (制作: 国際報道工芸)	1939年6月 301 × 224	特種製紙株式会社/大宅壮一文庫/山鬼文庫 表紙構成: 亀倉雄策
雑誌 M0404	『CANTON』1-4号 Oriental Cultural Association (制作: 国際報道工芸)	1939年8月 301 × 224	特種製紙株式会社/川崎市市民ミュージアム 表紙構成: 坂坂勇/表紙写真: 名取洋之助
雑誌 M0404	『CANTON』1-5号 Oriental Cultural Association (制作: 国際報道工芸)	1939年10月 301 × 224	特種製紙株式会社/川崎市市民ミュージアム/山鬼文庫 表紙構成: 亀倉雄策/表紙写真: 名取洋之助
雑誌 M0406	『CANTON』1-6号 Oriental Cultural Association (制作: 国際報道工芸)	1939年12月 297 × 225	特種製紙株式会社/川崎市市民ミュージアム/大宅壮一文庫/山鬼文庫 表紙構成: S. 松下/表紙写真: 藤本四八
雑誌 M0501	『華南画報』1-1号 華南画報社	1939年4月1日 357 × 260	日本カメラ博物館
雑誌 M0504	『華南画報』1-4号 華南画報社	1939年11月1日 357 × 260	日本カメラ博物館
雑誌 M0601	『MANCHOUKUO』1号 マンチュウコウ・フォト・サービス	1940年4月 371 × 267	川崎市市民ミュージアム 表紙構成: 亀倉雄策
雑誌 M0602	『MANCHOUKUO』2号 マンチュウコウ・フォト・サービス	1940年 371 × 267	川崎市市民ミュージアム/大宅壮一文庫 表紙構成: 高松甚二郎
雑誌 M0603	『MANCHOUKUO』3号 マンチュウコウ・フォト・サービス	1940年 371 × 267	川崎市市民ミュージアム 表紙構成: 本津恵三
雑誌 M0604	『MANCHOUKUO』4号 マンチュウコウ・フォト・サービス	1940年 371 × 267	特種製紙株式会社/川崎市市民ミュージアム 表紙構成: 本津恵三
雑誌 M0712	『Eastern Asia』2号 南満洲鉄道 (印刷: 国際報道工芸)	1940年8月31日 346 × 260	特種製紙株式会社
雑誌 M0713	『Eastern Asia』3号 南満洲鉄道 (印刷: 国際報道工芸)	1940年12月15日 346 × 260	島田安彦コレクション/個人蔵
雑誌 M0714	『Eastern Asia』4号 南満洲鉄道 (印刷: 国際報道工芸)	1941年3月27日 346 × 260	大宅壮一文庫
雑誌 M0801	『中華』1号 Chunghwa Publishing Company	1940年 220 × 152	山鬼文庫 [表紙構成: 亀倉雄策]
雑誌 MG0113	『NIPPON』13-16号合本 日本工房	1937-38年 372 × 267	国際交流基金図書館
雑誌 MG0117	『NIPPON』17-20号合本 日本工房	1939年 372 × 267	国際交流基金図書館
雑誌 MG0117	『NIPPON』17-24号合本 国際報道工芸	1939-41年 372 × 267	大宅壮一文庫
雑誌 MG0121	『NIPPON』21-24号合本 国際報道工芸	1940年 372 × 267	国際交流基金図書館
雑誌 MG0201	『NIPPON』『COMMERCE JAPAN』合本 日本工房	1935-39年 372 × 266	特種製紙株式会社
出版物 B006	折り本『日本』 "NIPPON-The Nation in Panorama" 国際文化振興会 (制作: 日本工房)	1938年3月頃 275 × 305	特種製紙株式会社/国際交流基金図書館/個人蔵 構成: 熊田五郎/写真: 名取洋之助、土門拳ほか
出版物 B007	『日本の日用品目録』 "Japanisches GebrauchsGegenstand" 国際文化振興会 (制作: 日本工房)	1938年3月頃 181 × 151	国際交流基金図書館/個人蔵 構成: 亀倉雄策
出版物 B008	嘉治隆一『日本—一つの文化的展開—』 "JAPAN EIN KULTUR:BERBLICK" 国際文化振興会	1938年 220 × 153	国際交流基金図書館
出版物 B009	『シネマ・イヤー・ブック・オブ・ジャパン 1938』 "CINEMA YEAR BOOK OF JAPAN 1938" 国際文化振興会	1938年 304 × 233	国際交流基金図書館
出版物 B010	『スポーツ; KBS フォトシリーズ』 "Sports; KBS Photo Series on Japanese Life and Culture Vol.1" 国際文化振興会	1939年 214 × 182	国際交流基金図書館
出版物 B011	『日本 クローズアップ』 "Japan A Close-up" 国際文化振興会	1940年 241 × 192	国際交流基金図書館
出版物 B011	『日本 クローズアップ』 "Japan Enfocus" 国際文化振興会	1941年 241 × 192	国際交流基金図書館
出版物 B012	『日本の工業美術製品』 "NIPPON INDUSTRIAL ART PRODUCTS" 国際文化振興会	1940年 210 × 212	国際交流基金図書館
出版物 B013	『南支派遣軍』 南支派遣軍報道部会 (制作: 国際報道工芸)	1940年3月 263 × 190	個人蔵 構成: 河野鷹思
出版物 B014	『時代の条件』池島重信編 名取書店	1940年 188 × 130	日本カメラ博物館 装幀: 亀倉雄策
出版物 B015	『周作人苦茶隨筆』周作人 名取書店	1940年 188 × 130	日本カメラ博物館 装幀: 亀倉雄策
出版物 B016	『生活文化の方向』古屋綱武篇 名取書店	1940年 188 × 130	日本カメラ博物館 装幀: 亀倉雄策
出版物 B017	『中支を征く』 中支従軍記念写真帖刊行会 (制作: 国際報道工芸)	1940年12月 262 × 191	個人蔵

分類 番号	作品名 原文タイトル または 発行元	制作年 寸法 (mm)	所蔵 作家名 (材質技法)
出版物 B018	『琉球史料叢書』伊波普猷ほか編 名取書店	1940 年 188 × 130	日本カメラ博物館
出版物 B019	『聖戦記念 中村 (次) 部隊』 南支派遣軍百武部隊 (制作: 国際報道工芸)	1941 年 3 月 263 × 190	個人蔵
出版物 B020	『U ボート』 名取書店	1941 年 5 月 3 日 181 × 128	個人蔵
出版物 B021	『スツウカ 急降下爆撃隊』 名取書店	1941 年 5 月 3 日 182 × 127	個人蔵
出版物 B023	『府藩縣制史』宮武外骨 名取書店	1941 年 224 × 158	個人蔵
出版物 B024	『マンチュウコウ・イラストレイテッド』 "Manchoukuo Illustrated" マンチュウコウ・フォト・サービス	1941 年 260 × 198	日本カメラ博物館
印刷物 C030	折り本『日本』リーフレット 発行: 国際文化振興会	1938 年 3 月頃 140 × 173	個人蔵 構成: 熊田五郎
印刷物 C031	昭和 14 年 年賀状 名取書店	1938 年 141 × 91	武蔵工業大学図書館
資料 D023	亀倉雄策名刺	1938 年頃 56 × 91	資生堂企業資料館 亀倉雄策
写真 P2301-04	＜中国の農民＞ (『NIPPON』14 号) より 4 点	1937-38 年 各 304 × 233	日本写真家協会 名取洋之助
写真 P2401	〔千人針〕 (『NIPPON』13 号)	1937 年 304 × 233	土門拳記念館 土門拳
写真 P2501-02	〔南京戦勝〕 (『NIPPON』14 号) より 2 点	1937 年 各 304 × 233	土門拳記念館 土門拳
写真 P2601-03	〔出征〕 (『NIPPON』14 号) より 3 点	1937-38 年 各 304 × 233	土門拳記念館 土門拳
写真 P2701-06	＜道具としての手＞ (『NIPPON』15 号) より 6 点	1937-38 年 各 304 × 233	土門拳記念館 土門拳
写真 P2801-08	＜赤十字の下に＞より 8 点	1938 年 各 304 × 233	土門拳記念館 土門拳
写真 P2901-05	＜刀鍛冶＞ (『NIPPON』16 号) より 5 点	1938 年 各 304 × 233	日本カメラ博物館 藤本四八
写真 P3001-05	＜防共富士登山隊＞より 5 点	1938 年 各 304 × 233	日本カメラ博物館 土門拳
写真 P3101	〔中支従軍記録〕より 16 点	1938 年 5 月 -11 月	個人蔵
P3102	〔中支従軍記録〕より「徐州戦」	115 × 163	小柳次一
P3103	〔中支従軍記録〕より「徐州戦」	189 × 271	小柳次一
P3104	〔中支従軍記録〕より「徐州戦、蒙城」	225 × 305	小柳次一
P3105	〔中支従軍記録〕より「安慶付近」	126 × 181	小柳次一 ※ヴィンテージ・プリント
P3106	〔中支従軍記録〕より「浦口」	181 × 125	小柳次一 ※ヴィンテージ・プリント
P3107	〔中支従軍記録〕より「浦口」	126 × 182	小柳次一 ※ヴィンテージ・プリント
P3108	〔中支従軍記録〕より「九江」	126 × 182	小柳次一 ※ヴィンテージ・プリント
P3109	〔中支従軍記録〕より「九江」	122 × 181	小柳次一 ※ヴィンテージ・プリント
P3110	〔中支従軍記録〕より「九江」	181 × 126	小柳次一 ※ヴィンテージ・プリント
P3111	〔中支従軍記録〕より「九江付近」	126 × 182	小柳次一 ※ヴィンテージ・プリント
P3112	〔中支従軍記録〕より「九江付近」	126 × 183	小柳次一 ※ヴィンテージ・プリント
P3113	〔中支従軍記録〕より「漢口戦」	126 × 182	小柳次一 ※ヴィンテージ・プリント
P3114	〔中支従軍記録〕より「漢口戦」	105 × 155	小柳次一
P3115	〔中支従軍記録〕より「武漢戦」	225 × 270	小柳次一
P3116	〔中支従軍記録〕より「武漢戦、武昌黃鶴樓」	215 × 305	小柳次一
写真 P3201-05	＜体の弱い子のための学校＞ (『NIPPON』34 号) より 5 点	1943 年 12 月 (掲載) 各 304 × 233	日本写真家協会 松田正志 (撮影 1939 年 11 月)
写真 P3301	＜女性その日その日＞ (『NIPPON』27 号) より 5 点	1940 年	日本写真家協会
P3302	〔八百屋の家族〕	304 × 233	藤本四八 (1940 年 12 月)
P3303	〔授乳〕	304 × 233	松田正志 (1939 年 9 月)
P3304	〔二人の女性〕	304 × 233	松下正夫 (1940 年 7 月)
P3305	〔体操〕	304 × 233	松田正志 (1940 年 3 月)
P3305	〔石けり〕	304 × 233	門奈次郎 (1940 年 9 月)
写真 P3401-02	＜職業野球＞ (『NIPPON』24 号) より 2 点	1940 年 12 月 (掲載) 各 304 × 233	日本写真家協会 松田正志 (撮影 1940 年 5 月)
写真資料 p012	国際文化振興会アルバム		川崎市市民ミュージアム
写真資料 p013	〔河野鷹思と飯島実〕	340 × 270	
写真資料 p014	〔河野鷹思と飯島実〕	1937 年頃 254 × 203	土門拳記念館 ※写真パネル
写真資料 p015.016	〔亀倉雄策と藤本四八〕	1937 年頃 254 × 203	土門拳記念館 ※写真パネル
写真資料 p017-020	密着「朝鮮」より 2 点	1939 年 各 304 × 254	日本カメラ博物館 森堯之
掲載誌 A019	国際文化振興会スクラップブック 4 冊		土門拳写真研究所/個人蔵
掲載誌 A020	「上海事変における中国軍の勝利」『ライフ』 "The Chinese Outfight the Japanese as Shanghai Blazes" "LIFE"	各 336 × 260 1937 年 9 月 13 日 360 × 270	個人蔵 写真: 名取洋之助ほか
掲載誌 A020	「アパッチ族酋長ダクルジー」『ライフ』 'Apache Chief Daklugie' "LIFE"	1937 年 9 月 13 日 360 × 270	個人蔵 写真: 名取洋之助

分類 番号	作品名 原文タイトル または 発行元	制作年 寸法 (mm)	所蔵 作家名 (材質技法)
掲載誌 A021	「パン屋さんの出征」『ライフ』 'The Camera Overseas: A Japanese Baker Goes Forth to War in China' "LIFE"	1937 年 11 月 29 日 360 × 270	個人蔵 写真: [土門拳]
掲載誌 A022	「若い兵士」『ライフ』表紙 "LIFE"	1937 年 12 月 6 日 360 × 270	個人蔵 写真: 名取洋之助
掲載誌 A023	「日本人写真家のみた日中戦争」『ライフ』 'The Camera Overseas: What Chinese War looks like to Japanese Photographer Natori' "LIFE"	1937 年 12 月 20 日 360 × 270	個人蔵 写真: 名取洋之助
掲載誌 A024	「中国の小さな戦闘」『ベルリナー・イルストリーレ・ツァイトウング』 'Kleikrieg in China' "Berliner Illustrierte Zeitung"	1938 年 3 月 10 日 378 × 278	川崎市市民ミュージアム 写真: 名取洋之助
掲載誌 A025	「宇垣大将の休日」『ライフ』 'Japan's Foreign Minister Posed at Home & Ahorse, Asks Help against China' "LIFE"	1938 年 9 月 5 日 360 × 270	個人蔵 写真: 土門拳
掲載誌 A026	『世界ライカ傑作選』 "Leica in Aller Welt"	1938 年 267 × 215	個人蔵 写真: 名取洋之助、土門拳
掲載誌 A027	「赤十字の下輝く白衣」『写真週報』17 号 内閣情報部	1938 年 6 月 8 日 378 × 278	個人蔵 写真: 土門拳
掲載誌 A028	「お山は晴天」『写真週報』25 号 内閣情報部	1938 年 8 月 3 日 378 × 278	個人蔵 写真: 土門拳
掲載誌 A029	「奥伊豆、狩野川」『新風土』 A029	1938 年 8 月号 223 × 152	個人蔵 写真: 土門拳 (撮影 1936 年)
掲載誌 A030	「蒋介石よさらば!」『写真週報』35 号 内閣情報部	1938 年 10 月 12 日 378 × 278	個人蔵 写真: 上海プレスユニオン
掲載誌 A031	「上海明暗二相」『写真週報』49 号 内閣情報部	1939 年 1 月 25 日 378 × 278	個人蔵 写真: 上海プレスユニオン
掲載誌 A032	「平和な春が来た」『写真週報』52 号 内閣情報部	1939 年 2 月 15 日 378 × 278	個人蔵 写真: 上海プレスユニオン
参考 S007	ベルリン国際手工業博覧会パンフレット S007	1938 年 210 × 210	資生堂企業資料館
参考 S008	『国際文化』1-31 号 合本 4 冊 S008 国際文化振興会	1938 年 11 月 -1944 年 6 月 各 215 × 148	国際交流基金図書館
参考 S009	「ニューヨーク万国博覧会、サンフランシスコ万国博覧会パンフレット」 S009	1939 年 217 × 109	資生堂企業資料館

4 章：拡散と消耗 [1941.12-45.8]

雑誌	『NIPPON』28 号	1941 年 12 月 30 日	武蔵工業大学図書館／特種製紙株式会社／川崎市市民ミュージアム／大宅壮一文庫
M0128	国際報道工芸	362 × 257	表紙構成: 亀倉雄策 表紙写真: 土門拳
雑誌	『NIPPON』29 号	1942 年 9 月 20 日	特種製紙株式会社／個人蔵
M0129	国際報道工芸	297 × 210	
雑誌	『NIPPON』30 号	1942 年 11 月 30 日	大宅壮一文庫
M0130	国際報道工芸	297 × 210	表紙画: 宮本三郎
雑誌	『NIPPON』31 号	1943 年 4 月 25 日	大宅壮一文庫
M0131	国際報道	297 × 210	表紙画: 福沢一郎
雑誌	『NIPPON』32 号	1943 年 6 月 25 日	大宅壮一文庫
M0132	国際報道	297 × 210	表紙画: 佐藤敬
雑誌	『NIPPON』33 号	1943 年 9 月 15 日	大宅壮一文庫／山鬼文庫／個人蔵
M0133	国際報道	297 × 210	表紙画: 山名文夫
雑誌	『NIPPON』34 号	1943 年 12 月 20 日	個人蔵
M0134	国際報道	296 × 209	表紙写真: 松田正志
雑誌	『NIPPON』35 号	1944 年 3 月 8 日	山鬼文庫
M0135	国際報道	296 × 209	表紙画: 橋本徹郎
雑誌	『NIPPON』36 号	1944 年 9 月 8 日	大宅壮一文庫
M0136	国際報道	297 × 210	表紙構成: 亀倉雄策／表紙写真: 土門拳
雑誌	『COMMERCE JAPAN』15 号	1941 年 12 月 25 日	川崎市市民ミュージアム／大宅壮一文庫
M0215	貿易組合中央会 (制作: 国際報道工芸)	362 × 257	
雑誌	『COMMERCE JAPAN』16 号	1942 年 3 月 25 日	川崎市市民ミュージアム／日本カメラ博物館
M0216	貿易組合中央会 (制作: 国際報道工芸)	362 × 257	
雑誌	『カウパアブ・タウンオーク』1 号	1941 年 12 月 1 日	川崎市市民ミュージアム／個人蔵
M0901	国際報道工芸	346 × 260	表紙構成: 亀倉雄策
雑誌	『カウパアブ・タウンオーク』2 号	1942 年 1 月 15 日	特種製紙株式会社／川崎市市民ミュージアム
M0902	国際報道工芸	346 × 260	
雑誌	『カウパアブ・タウンオーク』3 号	1942 年 2 月 15 日	日本カメラ博物館
M0903	国際報道工芸	346 × 260	表紙写真: 田村茂
雑誌	『カウパアブ・タウンオーク』6 号	1942 年 5 月 17 日	川崎市市民ミュージアム
M0906	国際報道工芸	346 × 260	
雑誌	『カウパアブ・タウンオーク』7 号	1942 年 6 月 15 日	川崎市市民ミュージアム
M0907	国際報道工芸	346 × 260	
雑誌	『カウパアブ・タウンオーク』12 号	1942 年 12 月 15 日	個人蔵
M0912	国際報道工芸	346 × 260	表紙写真: 松田正志
雑誌	『カウパアブ・タウンオーク』22 号	1943 年 12 月	日本カメラ博物館
M0922	国際報道	346 × 260	表紙写真: 藤本四八
雑誌	『カウパアブ・タウンオーク』24 号	1944 年 4 月	個人蔵
M0924	国際報道	346 × 260	表紙写真: 藤本四八

分類 番号	作品名 原文タイトル または 発行元	制作年 寸法 (mm)	所蔵 作家名 (材質技法)
出版物 B025	『不滅の鴻業 エミール・フォン・ベリンクの生涯』 名取書店	1941 年 12 月 21 日 182 × 127	個人蔵
出版物 B026	『輝く満洲』 "Flourishing Manchoukuo" マンチュウコウ・フォト・サービス	1941 年 12 月 25 日 259 × 188	山鬼文庫／個人蔵
出版物	『ニッポン・フォト・シリーズ 1: 重工業』	1942 年	国際交流基金図書館(英語、仏語、タイ語、ベトナム語、中国語、ビルマ語、インドネシア語版)
B027	"Nippon Photo Series 1: Heavy Industry" 国際文化振興会〔制作：国際報道工芸〕	254 × 182	
出版物	『印度支那』	1942 年 10 月 25 日	早稲田大学図書館／個人蔵
B028	"Connaissance de L'Indochine" 国際文化振興会 (制作：国際報道工芸)	296 × 210	
出版物	『日本の認識』	1943 年 1 月 25 日	魚山堂書店／個人蔵
B029	"Connaissance du Japon" 国際文化振興会 (制作：国際報道)	295 × 182	
出版物	『ニッポン・フォト・シリーズ 2: 国民学校教育』	1943 年	国際交流基金図書館 (英語、仏語、タイ語、ベトナム語、中国語版)
B030	"Nippon Photo Series 2: Elementary Education" 国際文化振興会〔制作：国際報道工芸〕	254 × 182	
出版物	中支派遣祭七三九部隊報道班編集『浙 作戦』	1943 年 4 月 15 日	個人蔵
B031	国際報道中華総局 (印刷：太平出版印刷公司)	253 × 380	
出版物	『南方民族図譜』	1943 年 5 月 25 日	個人蔵
B032	厚生省研究所人口民族部編集 国際報道	264 × 191	
出版物	陸軍省報道部監修『陸軍少年飛行兵』	1943 年 11 月 15 日	個人蔵
B033	帝国教育会出版部発行 (撮影編集：国際報道)	349 × 266	
出版物	『報道写真海軍作戦記録大陸篇』	1944 年 1 月	個人蔵
B034	支那事変記念海軍写真帖刊行会 (制作：国際報道)	261 × 188	
出版物	はらだみつを監修『さくわんしやのはなし』	1944 年 3 月	個人蔵
B035	国際報道	184 × 258	
出版物	『ハナサカチヂイ』(大東亜紙芝居) 16 葉	制作年不詳	個人蔵
B036	国際報道	253 × 359	
写真	<海軍軍楽隊> (『NIPPON』30 号) より 4 点	1942 年 8 月	日本写真家協会
P3501-04		各 304 × 233	写真：藤本四八
写真	<戦時下の市民生活> (『NIPPON』33 号) より 5 点	1943 年 7 月	日本写真家協会
P3601-05		各 304 × 233	写真：藤本四八
写真	[予科練] より 4 点	1944 年	土門拳記念館
P3701-04		各 304 × 233	写真：土門拳
写真	[義烈空挺隊] より 4 点	1945 年 5 月	個人蔵 写真：小柳次一
p3801	「階級章をはずす」	270 × 233	
p3802	「搭乗機内」	97 × 148	※ヴィンテージプリント
p3803	「故郷への敬礼」	192 × 275	※ヴィンテージプリント
p3804	「出撃機を見送る」	176 × 261	
写真資料	『カウパアプ・タウンオーク』2 号表紙	1942 年 1 月 (掲載)	日本写真家協会
p021		254 × 203	松田正志／森堯之 (撮影 1940 年 3 月)
写真資料	『カウパアプ・タウンオーク』4 号表紙	1942 年 3 月	日本写真家協会
p022		304 × 233	松田正志 (撮影 1940 年 3 月)
掲載誌	「日本特集」『フォーチュン』	1944 年 4 月	島田安彦コレクション／個人蔵
A033	"Fortune"	330 × 267	写真：名取洋之助ほか

エピソード 戦後の名取

参考	『週刊サンニクス』	1947-49 年	個人蔵
S010	サンニクスフォトス	各 377 × 266	
参考	『岩波写真文庫』(全 286 巻のうち 20 巻)	1950-58 年	個人蔵
S011	岩波書店	各 261 × 188	
参考	『写真の常識』(フォトライブラリー 1)	1955 年	日本カメラ博物館
S012	慶友社	172 × 104	木村伊兵衛／伊奈信男／名取編
参考	『新しい写真術』(フォトライブラリー 3)	1955 年	日本カメラ博物館
S013	慶友社	175 × 106	名取洋之助著
参考	『組写真の作り方』(フォトライブラリー 7)	1956 年	個人蔵
S014	慶友社	173 × 104	
参考	『麦積山石窟』	1957 年	個人蔵
S015	岩波書店	261 × 188	装幀：河野鷹思
参考	『ロマネスク』	1962 年	個人蔵
S016	慶友社	261 × 188	装幀・レイアウト：名取美和
参考	『写真の読みかた』	1963 年	個人蔵
S017	岩波書店	175 × 106	
参考	『人間・動物・文様』	1963 年	個人蔵
S018	慶友社	305 × 218	装幀：堀内誠一

分類は以下のとおり：

雑誌 M…日本工房が制作した雑誌／印刷物 C…日本工房が制作した印刷物（書籍以外）／出版物 B…日本工房が制作・編集した出版物／写真 P…名取洋之助および日本工房が撮影した写真／写真資料 p／掲載誌 A…名取および日本工房の作品が掲載された出版物／資料 D…自筆の資料／参考 S…参考資料

印刷物＝紙・印刷／写真＝ゼラチン・シルバー・プリント

※なお、『NIPPON』は展示構成のため複製版（国書刊行会発行）を活用した。

普及事業

◆館内解説

当館では、随時要請に応じて、以下のような館内解説を行っている。また、常設展における解説シートの作成、サ
ンデートーク、ギャラリートークなどとの連携により、効果的な美術館ガイダンスをめざしている。

□団体解説

学校教育や公民館等の社会教育活動の活発化に伴い、団体で美術館を訪れる機会も増えている。そのほとんどが館
内の案内を希望するため、学芸員が交替で対応している。通常は、他の展覧会鑑賞者への配慮から、展示室外での解
説を行っている。

内容は、当館の概要、および代表的な収蔵品の解説、常設展ならびに企画展の解説案内が中心である。

4月8日～3月26日の開館期間での団体総数は110件、のべ5,031人、そのうち解説を行った団体数は93件、の
べ4,247人であった。

□質問電話

当館では、展示室の各所に「質問電話」を設置し、展示品や美術全般についての観覧者からの質問に答えている。
学芸員が直接応答するユニークなホットライン・サービスである。

◆鑑賞講座

国内外のさまざまな時代の美術について、多様な視点から作家・作品を解説し、楽しみながら美術への関心を高め
る講座である。

今年度から館長・酒井哲朗による近代日本美術史講座を「館長特別講座」として開講した。

また、美術館の施設や仕事への理解を広げるために美術館入門の講座も開設した。

□館長特別講座 近代の日本美術を語る（事前申込み制・42名参加）

開催日時	テーマ
4月16日(土)	文明開化の光と影 1
5月21日(土)	文明開化の光と影 2
6月18日(土)	近代美術の成立
7月16日(土)	自然主義と浪漫主義 1
8月20日(土)	自然主義と浪漫主義 1
9月17日(土)	生命主義と個性主義 1
10月15日(土)	生命主義と個性主義 2
11月19日(土)	生命主義と個性主義 3
12月17日(土)	生命主義と個性主義 4
1月21日(土)	生命主義と個性主義 5
2月18日(土)	生命主義と個性主義 6
3月18日(土)	生命主義と個性主義 7

□美術館入門（事前申込み制・9名参加）

開催日時	テーマ	担当
10月22日(土)	ワークショップをひらく	久慈伸一
10月29日(土)	展示と保存	伊藤匡
11月 5日(土)	コレクションについて	荒木康子
11月12日(土)	企画展のたちあげ	佐治ゆかり

◆実技教室

実技教室は、実制作の体験を通して、表現の喜びを味わい、鑑賞の一助とする目的で実施されている。子供から大人まで、それぞれの対象に応じたテーマを設け、美術に対する多様な要求に応えるとともに、広く美術に親しむことをねらいとしている。

講座は以下の5種類を行っている。一般初心者を対象とした「実技講座」、美術のさまざまな技法を紹介する「技法講座」、親子で美術に親しむことを目的とした「親と子の美術教室」、小学生を対象とした「わんぱくミュージアム」、気軽に美術に接する機会をねらった「一日創作教室」である。

＜実技講座＞	
①「ドローイングの可能性～描くこと書くこと～」	受講者数 15 名
講師：平林薫（造形作家、名古屋造形芸術大学助教授） 日程：5月21日・22日・28日・29日・6月4日・5日（毎週土、日曜日6回連続） 概要：モンドリアン、ポロックなど抽象的・記号的な作品をわかりやすく解説し、それらをヒントに何種類かの描画材を使って様々な絵画の手法を体験しながら、“描くこと”の可能性を探った。	
②「型染めによるタペストリー」	受講者数 15 名
講師：太宰待子（郡山女子大学短期大学部助教授） 日程：8月27日(土)・9月3日(土)・10日(土)・11日(日)・17日(土)（5回連続） 概要：麻の生地に型染め技法でタペストリーや額絵を制作した。初心者から上級者まで受講者の経験に応じて解説・制作が進められた。	
③「日常品のカタチを組み合わせる彫刻を作る」	受講者数 7 名
講師：江田正盛（彫刻家、新制作協会会員） 日程：11月5日・6日・12日・13日・19日・20日（毎週土、日曜日6回連続） 概要：ペットボトルや空き缶など既成の身近なものを石膏で型どったパーツを立体的に組み合わせ高さ40cm以内程度の大きさの彫刻を作った。	
④「木版画のひろがり」	受講者数 15 名
講師：古谷博子（木版画家） 日程：2月11日・12日・18日・19日・25日・26日（毎週土、日曜日6回連続） 概要：版木を彫って和紙で摺る伝統的技法だけでなく、水性や油性の絵の具を併用したり、ニスや地塗り材などを版木に塗るなど多様な効果をもたらす様々な技法で自由に制作した。	

＜技法講座＞	
①「自然の中の絵画教室」	受講者数 18 名
講師：布施英利（東京芸術大学助教授） 日程：7月9日(土)・10日(日) 概要：自然観察に基づき、光と陰影、空間、構図といった絵画の基本要素を講義と講師の制作したビデオを見たり簡単な制作を通じて学習した。	
②「植物画（ボタニカル・アート）を描く」	受講者数 18 名
講師：滝澤栄利子（女子美術大学アートセミナー講師） 日程：10月1日(土)・2日(日) 概要：植物画（ボタニカル・アート）の歴史の講義をまじえて美術館のまわりの秋の植物を描き、額に入れて完成した。	
③「『体験』をつくる」	受講者数 12 名
講師：景山健（現代美術作家、「藝楽塾」主宰） 日程：12月3日(土)・4日(日) 概要：美術館エントランス脇の芝生に、参加者各自の身長に基づいて本数を決め、用意した割り箸を美術館の緯度と経度の数値から計算した方向と面積を持つ長方形のエリアに各自自由にさして造形し、3月まで展示した。	

＜親子の美術教室＞	
①「絵本をつくろう」	受講者数10組22名
講師：富田牧子（池袋コミュニティ・カレッジ講師） 日程：5月5日(水) 概要：背にカラー段ボールを使ってきれいに製本した絵本に様々な手軽な技法を使って、自由に描き込んでいった。	
②「みんなで作る町」	受講者数11組24名
講師：高橋和真（パッケージクラフト作家） 日程：7月31日(日) 概要：ダンボール製の土地に、いろいろな空き箱の模様や絵柄を生かして作った家を建て、家のまわりには、庭や並木などを自由に作り、最後に参加者全員の土地を合体させて一つの町を完成させた。	
③「羊毛からふしぎな生きものを作ろう！」	受講者数10組24名
講師：石田百合（人形作家） 日程：12月18日(日) 概要：様々な色のやわらかな羊毛を、熱湯と洗濯洗剤を使って手で摩擦しながらフェルト状に成形し、動物や人の顔を自由に作った。	

＜わんぱくミュージアム＞	
①「あか・あお・きいろでつくる～かんたんステンドグラス」	受講者数8名
講師：橋本淳也（当館学芸員） 日程：6月27日(日) 概要：三原色のカラーシートを透明プラスチック板に工夫しながら組み合わせて貼り、簡単なステンドグラスを作った。	
②「デジカメでアニメーションをつくろう！」	受講者数6名
講師：橋本淳也（当館学芸員） 日程：10月23日(日) 概要：アニメーションの仕組みを学び、デジタルカメラを使って各自持参した物をコマ撮りして、短いアニメを作った。	
③「くっつけて作ろう凸・凹絵画」	受講者数6名
講師：久慈伸一（当館学芸員） 日程：3月12日(日) 概要：合成紙粘土で身のまわりの出来事や風景、動物などを自由に作り、板のパネルに木工用ボンドで接着し、アクリル絵の具で彩色してレリーフ状に仕上げた。	

＜一日創作教室＞	
①「合板で作るオブジェ」	受講者数8名
講師：久慈伸一（当館学芸員） 日程：8月21日(日) 概要：人物、仮面、動物、風景その他様々なモチーフを、自由な発想で電動糸のこで切った合板を立体に組み合わせて彩色し、置物や壁掛けなどのオブジェを作った。	
②「感覚の風景を描く」	受講者数9名
講師：橋本淳也（当館学芸員） 日程：1月22日(日) 概要：聴覚、触覚、味覚など視覚以外の感覚を色彩や線などに置き換える実験をしながら、アクリル絵の具で一枚の絵を制作した。	

◆映画会

開催日	上映作品	上映回数	入場者数
9月24日(日)	「兼子 Kaneko」	2回	30名
11月13日(日)	「公式長編記録映画 日本万国博」	1回	50名
11月23日(木)	「宇宙人東京に現わる」	2回	70名
2月19日(日)	「激動の昭和史 沖縄決戦」	2回	40名
			計 190名

◆美術館への年賀状展

新春恒例の事業として、県内の小中学生から寄せられた手作り年賀状をすべてエントランスホールに展示した。

会 期：2006年1月12日(木)～1月31日(火)

応募数：小学生 457枚、中学生 87枚、学年不明その他 19枚
合計 563枚



◆学校連携事業

□美術館・学校教育連携協議会

県内小・中学校の教師と直接話し合う場を設け、学校・美術館をとりまく現状や問題点を情報交換する中で継続的な連携活動が展開できる様な密接な関係を築く目的で実施してきた学校連携協議会。平成15年度より形式を改めて、学校等で教える立場の「先生」を対象として広く参加者を募り、より実践的な普及活動、研究活動を目指して「先生のための美術館入門」を実施している。

今年度は「教師のための優しい美術館ガイドブック『美術館を楽しもう！』」をもとに美術館の利用方法や活動例を紹介し、展覧会の内容と見どころを解説した。また、学校（小・中・高）の立場を越えて、学校・美術館における美術・美術教育に関する幅広い情報交換が行われる機会となっている。

「先生のための美術館入門」

開催日程：第1回 5月14日(土) 「熊谷守一展」

参加教師：4名

第2回 3月5日(土) 「名取洋之助と日本工房展」

参加教師：11名



□鑑賞用補助教材「アート・キューブ」

2004 年度文化庁芸術拠点形成事業の一環として、これまで当館で実施してきた学校連携事業の成果を踏まえ、当館学芸員・郡山市立美術館学芸員と小学校教師らの連携によって開発された。

素材・筆致などの造形要素を体感的に確認できる「絵画キューブ」「素材キューブ」「タッチキューブ」「人形キューブ」「版画キューブ」「カラーキューブ」、ゲーム形式の鑑賞活動が楽しめる「おみくじキューブ」「感覚キューブ」「プレイキューブ」の 9 個の立方体をセットにして「アート・キューブ」と名付け、当館、郡山市立美術館および郡山市立東芳小学校に設置している。

「アート・キューブ」の最大の利点は、作品に触れられない美術館において、実作品を前に「見て・触れて・感じる・考える」活動を可能にする点にある。利用に合わせて、鑑賞用補助教材「アート・キューブ」のガイドブックおよびパンフレットを作成・配布し活用している。

今年度は、学校団体見学時の解説、事前申込み制ワークショップ、企画展開連ワークショップなどの美術館鑑賞活動に活用した。また、教材を介して、学校や他館との連携による実践も実施することができた。

□学校連携共同ワークショップ

普及を目的とした先進的な連携活動として 2003 年度より実施。美術館が作家を招き、担当教師と相談の上、各学校で開催する児童・生徒対象の「出前」講座・ワークショップである。子ども達に作家と触れ合う機会を与え、より多人数（クラス単位、学年単位）で創作活動を行う事が可能となっている。さらに美術館が学校を訪問することで協力関係をより密にし、児童・生徒たちの美術への興味・関心、美術館への来館を促す一方、地理的に美術館を利用しづらい学校への文化事業の還元を図る。

『自分の色、自分のカタチ』 講師：綿引展子（画家）

参加者に事前準備してもらった帆布で出来た 2 重の「袋」に、アクリル絵の具で（1）鏡に映る「外から見える自分」を 1 枚描き、次に（2）鏡を使わずに単色で「自分が思う自分」の 2 枚の自画像を描く。完成したら自画像を「かぶって」、ポラロイドカメラで 2 枚の写真を撮影。2 枚の写真を見比べながら「自分」について考えた事や感想を言葉や文章にまとめた。（大熊中学校は和紙にオイルパステルで制作した。）

『「自分」は固まりきった存在ではありません。柔らかい布で出来た「外から見える自分」と「自分が思う自分」…その間にへこんだり、ふくらんだりしながら「本当のあなたがいる」のです。自分をもっともっと大切に生きて下さい。』…綿引さんからのメッセージに子ども達は静かに耳を傾けていた。『“自分”＝自我について考える』事は、表現の『原点』とも、『永遠のテーマ』とも言える。ワークショップを通して子ども達は、このテーマについて考える機会を得ることが出来た。

- 〔開催校〕
- ・南会津郡舘岩村立舘岩小学校 / 10 月 6 日(木)/小学 1・2 年生 22 名
 - ・学校法人尚志学園尚志高等学校 / 10 月 17 日(月)/高校 2 年生 28 名
 - ・双葉郡大熊町立大熊中学校 / 10 月 18 日(火)/中学 1・2・3 年生 12 名
 - ・郡山市立湖南小学校 / 11 月 4 日(金)/小学 3 年生 25 名



舘岩小学校



尚志高校



大熊中学校



湖南小学校

◆ミュージアム・クリスマス

2004 年度に引き続いて、＜ミュージアム・クリスマス＞を開催した。

12 月 1 日(木)～12 月 25 日(木)まで、エントランスホールにイルミネーションを設置するもので、期間中には合唱コンサートも開催してクリスマスシーズンの演出を行った。

12 月 10 日(土) 13:30- 福島県庁混声合唱団きびたきコンサート

12 月 24 日(土) 13:30- 福島県立橘高等学校合唱団コンサート



◆博物館実習の受け入れ

博物館学芸員資格取得に必要な「博物館実習」について、当館での受講希望の学年を毎年受け入れている。下記のカリキュラムで約一週間、当館学芸員が講義・指導を行った。

実習生：5 大学・1 団体 計 6 名受講

実習日	午前 (9:15-12:00)	午後 (13:00-17:00)
7 月 16 日(土)	博物館実習全般の説明 美術館運営と学芸業務	教育普及事業・特別実践編 (企画展関連事業参加／美術館と学校教育の連携)
7 月 17 日(日)	館施設概要 館内の案内	企画展案内 企画展業務について
7 月 18 日(月)	二次資料、美術情報の収集と整理 教育普及	作品の保存管理 写真撮影実習
7 月 19 日(火)	企画展撤収作業見学	教育普及
7 月 21 日(木)	展示実習Ⅰ (作品の取り扱い)	展示実習Ⅱ (展示実践編)
7 月 22 日(金)	作品収集について	各自実習まとめ

◆館外での活動

講演／講義／委員等

- 喜多方市立美術館美術品収集委員／公募：ふるさとの原風景展」審査委員 早川博明（2001 年度より継続）
- 福島市写真美術館運営委員 早川博明（2003 年度より継続）
- やないづ町立斎藤清美術館運営委員 早川博明（2002 年度より継続）
- 斎藤清画伯顕彰協議会特別監事 早川博明（2003 年度より継続）
- 山形県酒田市黒森歌舞伎調査員 佐治ゆかり（2001 年度より継続）
- 日本ミュージアム・マネジメント学会東北支部監事 伊藤匡
- 全国美術館会議保存研究部会幹事 堀宜雄
- 福島市市民大学講座「国際理解Ⅲ（ヨーロッパ）～ヨーロッパ美術の旅～」講師 吉村有子 12 月 5 日
- 日本カメラ博物館「名取研究会」シンポジウム出席 堀宜雄 12 月 17 日

◆広報活動

- ・美術館案内、展覧会スケジュール、チラシ等を館内で配布
- ・企画展ごとにポスター、チラシ、割引券等を配布
- ・県発行の広報誌に事業案内を掲載
- ・その他、随時広報活動を行った。

□美術館紹介記事

- ・「美術館・博物館 年間ラインアップ・上」『福島民報』4月10日
- ・「観賞用補助機材を開発」『福島民友』5月7日
- ・「《ひと紀行》県立美術館」『読売新聞（県版）』5月26日
- ・「《奥の細道》先生のための美術館入門」『福島民友』5月15日
- ・「ゲーム感覚で美術鑑賞」『毎日新聞（県版）』7月17日
- ・「ゲーム楽しむ感覚 子どもが作品理解」『福島民友』7月21日
- ・「《ふくしま東西南北》県立美術館のサンデートーク」『福島民報（土曜版）』8月27日
- ・「《奥の細道》わんぱくミュージアム」『福島民友』10月24日
- ・「《あぶくま》実技講座」『福島民報』11月6日
- ・「《仕事場から》福島県立美術館」『朝日新聞』11月23日
- ・「県立美術館も鮮やかに彩る」『福島民友』12月9日
- ・「Xマスの歌熱唱 県庁職員らコンサート」『朝日新聞』12月11日
- ・「美術館内に歌声響く」『福島民報』12月13日
- ・「《奥の細道》クリスマス・コンサート」『福島民友』12月25日
- ・「美術館で全国金の合唱」『福島民報』12月26日
- ・「個性あふれる年賀状が人気」『福島民友』1月13日
- ・「《こけし》年賀状展」『福島民報』1月13日
- ・「五感使い筆走らす 心象風景を描く」『福島民報』1月29日
- ・「新しい指導法を理解 県立美術館で教師ら講座」『福島民友』3月7日
- ・「シャンソンを楽しむ 県立美術館でコンサート」『福島民友』3月13日
- ・「凸・凹絵画作り 子どもらが挑戦」『福島民友』3月13日
- ・「音と形の芸術競演 彫刻展示ホールにシャンソンの調べ」『福島民報』3月14日
- ・「県美『友の会』活動多彩」『朝日新聞』3月23日

◆出版発刊

2005 年度刊行物一覧

	出版物名	規格	配布方法	内容
1	年間スケジュール	B5 版・三つ折り	無償	年間事業計画
2	美術館ニュース（年 6 回発行）	A4 版・三つ折り	無償	2 か月ごとの事業紹介
3	2004 年度年報	B5 版・90 頁	無償	事業活動報告
4	企画展図録	企画展ごと 6 種	有償	企画展の記録
5	移動展リーフレット	A3 版・二つ折り	無償	出品作品紹介

◆ホームページ

展覧会や各種事業の紹介のほか、所蔵品の解説等を掲載し、Web 上で利用者に提供している。

アクセス件数：140,099 件（2006 年 3 月 31 日現在）

調査研究

◆調査研究事項

- | | | | |
|---------------|--------------|----------|------------|
| (1)作家調査 | (2)作品調査 | (3)技法調査 | (4)美術史調査 |
| (5)保存関係調査 | (6)教育普及調査 | (7)展覧会調査 | (8)美術館運営調査 |
| (9)県内外の展示施設調査 | (10)美術館利用者動向 | | |

◆重点調査事項

- (1)-1 県関係作家および収蔵作家作品調査

◆企画展アンケート結果

アンケート記入方式：会期中毎日、展示室内に置かれたアンケートに観覧者が任意に記入。
数値：％で示した。1％未満は四捨五入した。

展覧会名	熊谷守一展	New Spirits 福島展	ジェームズ・ アンソール展	柳宗悦の民藝 と巨匠たち展	岡本太郎展	名取洋之助と 日本工房展
会 期 (開催日数)	4/23-6/5 (38日間)	6/18-7/18 (27日間)	7/30-9/4 (31日間)	9/13-10/23 (36日間)	11/1-12/11 (35日間)	2/11-3/26 (37日間)
1- 性別						
女性	62.5	64.5	61.4	68.6	56.3	50.5
男性	37.5	35.5	38.6	31.4	43.7	49.5
2- 年齢						
10 歳未満	1.1	4.1	7.3	5.3	2.7	1.3
10 歳代	13.8	18.7	23.6	6.2	5.4	9.4
20 歳代	8.1	16.7	12.7	7.2	18.5	16.8
30 歳代	9.5	13.6	11.5	7.2	24.9	15.1
40 歳代	10.6	7.5	11.5	10.6	16.8	14.2
50 歳代	25.1	18.0	12.7	24.3	19.2	20.3
60 歳代	23.3	14.6	15.2	25.7	6.7	15.4
70 歳以上	8.5	6.8	5.5	13.4	5.7	7.5
3- 居住地						
県北	28.2	56.6	41.8	49.8	41.4	53.8
県中・県南	13.2	17.4	14.6	17.7	25.0	8.9
会津	3.4	3.9	4.8	6.5	7.2	3.0
浜通り	7.1	5.8	4.2	6.9	6.3	5.2
県外	48.1	16.4	34.6	19.2	20.1	29.2
4- 仕事						
勤めている	30.8	36.6	30.3	29.9	62.3	45.5
自営	9.9	7.2	6.7	10.5	4.2	7.7
主婦・主夫	22.8	13.8	11.0	22.4	14.3	11.7
学生・生徒・児童	11.0	27.5	37.6	12.3	11.4	18.3
就労はしていない	17.9	10.9	7.2	17.6	3.9	11.7
その他	7.6	4.1	7.2	7.3	3.9	5.1
5- 来館交通手段						
公共交通機関	23.6	12.9	19.3	22.8	8.6	19.1
観光バス・レンタカー	3.0	1.3	0.6	0.4	1.0	0.3
タクシー	1.5	0.3	0	0.8	1.0	1.0
自家用車・バイク	61.6	52.7	72.7	67.0	86.1	67.6
自転車・徒歩	9.6	18.8	6.8	7.9	3.3	11.4
その他	0.7	14.1	0.6	1.0	1.7	0.7
6- 来館人数						
1 人	27.9	33.0	52.2	32.0	10.5	34.4
2 人	40.4	31.4	16.3	43.2	49.3	44.4

展覧会名	熊谷守一展	New Spirits 福島展	ジェームズ・ アンソール展	柳宗悦の民藝 と巨匠たち展	岡本太郎展	名取洋之助と 日本工房展
3～5人	24.2	17.1	17.4	19.7	35.5	16.7
6～9人	2.6	7.0	4.3	1.7	2.6	0.7
10人以上	4.9	11.4	9.8	3.5	2.0	3.9
7- 展覧会情報入手方法						
ポスター	12.1	15.4	21.7	15.5	26.1	15.8
美術館ニュース	10.2	9.6	6.0	8.5	4.3	11.2
美術館に来て	8.9	12.6	17.6	4.9	4.3	7.5
県政番組・県の情報誌	1.6	2.0	0.5	1.9	1.9	1.6
テレビの番組	4.1	3.7	3.5	9.5	5.3	9.4
テレビCM	0.3	2.0	4.0	6.1	27.2	3.2
ラジオ	0.3	0.3	0	0.9	0.8	0.6
新聞・地域情報誌	17.8	8.1	13.6	25.7	8.0	11.5
美術雑誌・全国情報誌	3.5	1.4	4.0	1.2	3.2	1.3
当館のホームページ	3.5	1.4	5.0	3.2	4.8	2.8
インターネット	2.5	1.1	2.5	1.4	0	2.4
友人・知人に聞いて	20.4	30.3	15.1	14.8	0.5	20.5
その他	14.6	11.2	5.5	5.4	13.6	11.4
8- 展覧会情報入手場所						
この美術館で	18.5	24.0	29.4	16.6		19.1
他の美術館・博物館で	11.3	3.3	3.5	7.0		3.8
学校で	4.8	15.7	10.0	5.6		8.1
職場で	6.0	13.0	6.5	6.5		12.8
街頭で	2.4	2.3	2.9	3.3		5.2
銀行や病院で	0	1.3	0.6	0.2		1.1
役所や公民館で	6.0	3.3	2.4	5.6		2.7
家で	28.6	24.3	32.3	42.4		33.6
その他	22.2	12.7	12.4	12.8		13.5
9- 展覧会の評価						
たいへんよい	58.4	46.1	29.0	52.3	42.2	34.0
よい	28.3	41.1	43.5	32.8	45.5	47.0
普通	9.7	10.2	22.6	13.2	10.9	17.2
あまりよくない	3.3	2.0	3.7	1.7	1.3	1.5
悪い	0.4	0.7	1.2	0	0	0.3
10- 来館回数						
はじめて	28.2	18.6	25.6	20.7	31.8	22.5
数年に1回	17.7	14.1	14.0	10.8	20.1	12.4
年1-2回程度	22.9	26.6	26.8	31.0	24.7	25.6
年3-5回程度	22.9	30.1	24.4	28.5	21.1	27.9
年6-9回程度	5.6	9.0	5.5	7.0	2.3	8.9
年10回以上	2.6	1.6	3.7	2.1	0	2.6
11- 企画展・常設展以外での当館の利用						
講演会	12.6	10.8	15.2	15.1	8.0	11.0
美術鑑賞講座	5.5	21.6	10.1	12.1	7.2	11.7
ギャラリートーク	19.7	10.8	10.1	11.8	9.6	8.4
映画会	8.7	4.8	11.4	9.2	6.4	12.5
実技講座	2.4	2.4	3.8	2.9	4.0	5.4
レストラン	40.2	46.7	41.8	39.0	50.4	43.6
その他	11.0	3.0	7.6	9.9	14.4	7.4
記入枚数	270	318	165	487	325	600

収 集

◆作品収集

□収集方針

収集の対象は、明治（近代）以降の優れた美術作品とし、美術史の流れを知る上で欠かせない優れた古美術も対象としている。具体的な方針としては、以下の4つを掲げている。

- (a) 福島県の出身もしくはゆかりのある作家、作品
- (b) 日本美術の流れを展望するにふさわしい作品
- (c) 海外の優れた美術
- (d) その他当館の収蔵作品としてふさわしい作品や美術資料

□収蔵作品数一覧（2006年3月31日現在）

種 別	購入点数	受贈点数	移管点数	合 計
海外（絵画・版画・彫刻）	376	10	0	386
日本画	68	77	115	260
洋画	97	126	98	321
版画	172	439	40	651
彫刻	6	5	48	59
工芸	74	36	33	143
書	0	1	36	37
下絵等	34	14	11	59
資料等	0	5	0	5
合計	827 点	713 点	381 点	1,921 点

□ 2005 年度収蔵作品リスト

分野	作家名	作品名	点数	備考
日本画	森田恒友	葛飾野	1	購入
日本画	星野真吾	麻紙による心象（集）	1	購入
日本画	星野真吾	暗色の記憶	1	寄贈
日本画	星野真吾	生きものC	1	寄贈
日本画	星野真吾	生きものD	1	寄贈
日本画	佐藤多持	水芭蕉曼陀羅（た）	1	寄贈
日本画	佐藤多持	水芭蕉曼陀羅（黄 12）	1	寄贈
日本画	佐藤多持	水芭蕉曼陀羅（黄 18）風神	1	寄贈
日本画	佐藤多持	水芭蕉曼陀羅（白 20）	1	寄贈
日本画	佐藤多持	水芭蕉曼陀羅（黄 68）	1	寄贈
版 画	李 禹煥	遺跡地にて	1	購入
版 画	野田哲也	日記 1973 年 10 月 25 日	1	購入
版 画	野田哲也	日記 1974 年 9 月 1 日	1	購入
版 画	野田哲也	日記 1975 年 11 月 12 日（c）	1	購入
版 画	野田哲也	日記 1976 年 8 月 19 日	1	購入
版 画	野田哲也	日記 1976 年 11 月 18 日（c）	1	購入
版 画	野田哲也	日記 1977 年 3 月 3 日（b）	1	購入

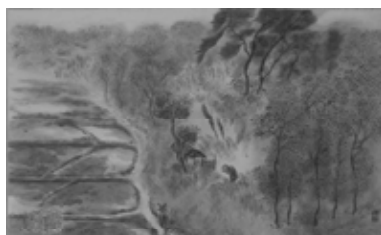
版 画	野田哲也	日記	1977年8月10日	1	購入
版 画	野田哲也	日記	1980年4月27日、厚木	1	購入
版 画	野田哲也	日記	1980年6月25日	1	購入
版 画	野田哲也	日記	1985年2月28日、カナダ、エドモントン	1	購入
版 画	野田哲也	日記	1987年5月30日、柏市亀甲台 2-12-4	1	購入
版 画	野田哲也	日記	1992年2月17日	1	購入
版 画	野田哲也	日記	1994年3月10日	1	購入
版 画	日和崎尊夫	K A L P A X		1	購入
版 画	日和崎尊夫	K A L P A 夜		1	購入
版 画	日和崎尊夫	詩画集『卵』		1	購入
立 体	土谷 武	風 I - d		1	購入
合 計				28 点	

□新収蔵作品一覧

1. 森田恒友（1881-1933）

葛飾野

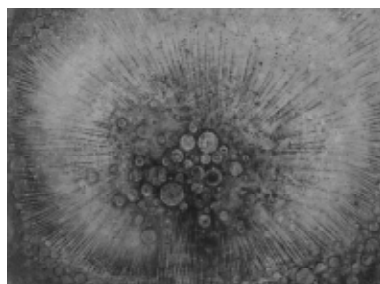
1930 年
紙本墨画淡彩
34.3 × 57.5cm



2. 星野眞吾（1923-1997）

麻紙による心象（集）

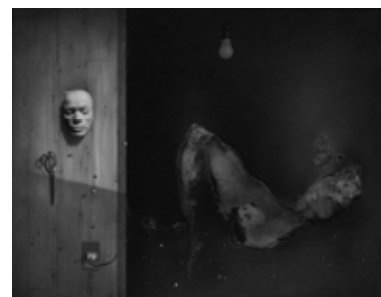
1960 年
紙・岩絵具など
91.0 × 123.0cm



3. 星野眞吾（1923-1997）

暗色の記憶

1979 年
紙・岩絵具など
90.9 × 116.8cm



4. 星野眞吾（1923-1997）

生きもの C

1971 年
紙・インク
36.0 × 16.4cm



5. 星野眞吾（1923-1997）

生きもの D

1971 年
紙・インク
36.0 × 16.4cm



6. 佐藤多持（1919-2004）

水芭蕉曼陀羅（た）

1962 年
紙・墨
130.4 × 89.3cm



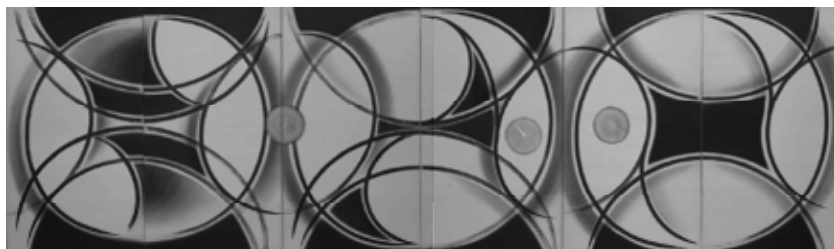
7. 佐藤多持 (1919-2004)

水芭蕉曼陀羅 (黄 12)

1968 年

紙・墨、岩絵具など 六曲一隻

163.0 × 546.0cm



8. 佐藤多持 (1919-2004)

水芭蕉曼陀羅 (黄 18) 風神

1969 年

紙・墨、岩絵具など 二曲一隻

163.0 × 183.0cm



9. 佐藤多持 (1919-2004)

水芭蕉曼陀羅 (白 20)

1972 年

紙・墨、岩絵具など 六曲一隻

163.0 × 546.0cm



10. 佐藤多持 (1919-2004)

水芭蕉曼陀羅 (黄 68)

1983 年

紙・墨、岩絵具など 二曲一隻

163.0 × 183.0cm



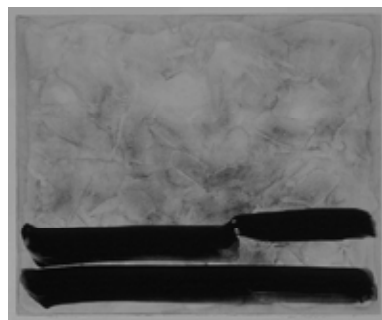
11. 李 禹煥 (1936-)

遺跡地にて

1984 年

紙・リトグラフ (5点組)

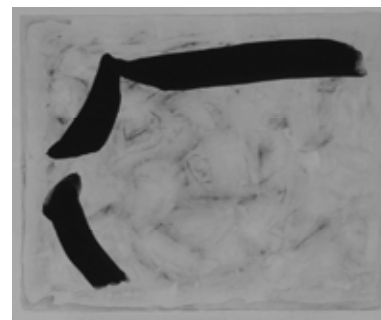
各 67.1 × 82.0cm



11-1



11-2



11-3

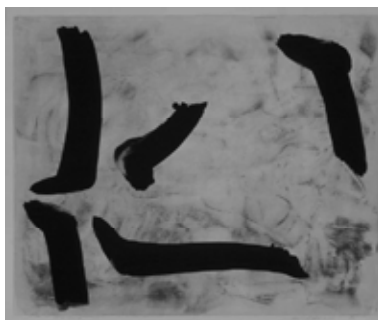
12. 野田哲也 (1940-)

日記 1973年10月25日

1973年
紙・木版、シルクスクリーン
50.6 × 71.2cm



11-4



11-5



13. 野田哲也 (1940-)

日記 1974年9月1日

1974年
紙・リトグラフ
47.0 × 64.0cm



14. 野田哲也 (1940-)

日記 1975年11月12日 (c)

1975年
紙・木版、シルクスクリーン
71.1 × 46.7cm



15. 野田哲也 (1940-)

日記 1976年8月19日

1976年
紙・木版、シルクスクリーン
70.9 × 47.1cm



16. 野田哲也 (1940-)

日記 1976年11月18日 (c)

1976年
紙・木版、シルクスクリーン
44.8 × 64.5cm



17. 野田哲也 (1940-)

日記 1977年3月3日 (b)

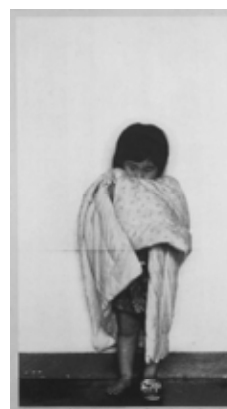
1977年
紙・木版、シルクスクリーン
44.8 × 64.5cm



18. 野田哲也 (1940-)

日記 1977年8月10日

1977年
紙・木版、シルクスクリーン
79.1 × 42.8cm



19. 野田哲也（1940- ）
日記 1980年4月27日、厚木
1980年
紙・木版、シルクスクリーン
44.5 × 64.9cm



20. 野田哲也（1940- ）
日記 1980年6月25日
1980年
紙・木版、シルクスクリーン
83.4 × 42.8cm



21. 野田哲也（1940- ）
日記 1985年2月28日、カナダ、エドモントン
1985年
紙・木版、シルクスクリーン
56.9 × 89.1cm



22. 野田哲也（1940- ）
日記 1987年5月30日、柏市亀甲台 2-12-4
1987年
紙・木版、シルクスクリーン
59.7 × 118.9cm



23. 野田哲也（1940- ）
日記 1992年2月17日
1992年
紙・木版、シルクスクリーン
62.7 × 119.3cm



24. 野田哲也（1940- ）
日記 1994年3月10日
1994年
紙・木版、シルクスクリーン
63.8 × 113.2cm



25. 日和崎尊夫（1941-1992）
KALPA X
1969年
紙・木口木版
24.4 × 22.2cm



26. 日和崎尊夫（1941-1992）
KALPA 夜
1972年
紙・木口木版
33.0 × 27.5cm



27. 日和崎尊夫（1941-1992）
詩画集『卵』
1970年
紙・木口木版
42.0 × 68.5cm（ブックサイズ）



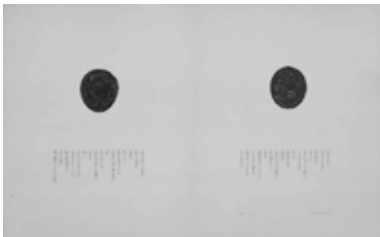
27-1



27-2



27-3



27-4



27-5



27-6



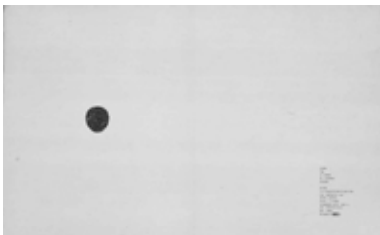
27-7



27-8



27-9



27-10

28. 土谷 武 (1926-2004)

風 l - d

1977 年

軟鋼、ケヤキ

W57.1 × H65.0 × D42.2cm



◆資料収集

□図書資料 (2006 年 3 月 31 日現在)

分類	和書	洋書
辞書・事典・年鑑・図書目録	996 冊	92 冊
画集・美術全集・所蔵品図録	4,137	367
展覧会図録	13,659	311
研究書・技法書	5,066	272
年報・紀要・報告書	3,663	32
美術雑誌	11,068	1,083
その他 (美術教科書など)	1,136	20
小計	39,725 冊	2,177 冊
	総計	41,902 冊

□映像資料 (2006 年 3 月 31 日現在)

種別	数量
自主制作ビデオテープ	42 本
購入・受贈ビデオテープ	66 本
購入・受贈スライドフィルム	11 セット
購入・受贈 CD-ROM/DVD	21 点
16 mm 映画フィルム	4 本

◆保存環境調査の実施

2004年度に引き続き、収蔵庫および展示室等の環境測定および虫菌害の汚染状況調査を行った。仕様は前年度と同等とし、保存収蔵環境の総合的な環境調査を徹底して行うとともに、搬入経路にあたる倉庫、荷解き室、また外部に接している休憩室等についても行った。この報告は、調査者提出の報告書に基づく。

- ・調査者：深山 満、梶原勝吉（ともに㈱関東港業）
 - ・立会いおよび記録：堀 宜雄
 - ・調査実施期間：
 - 1 回目 -6月20日～7月2日（調査実施：6月20,21日 / トラップ設置期間：6月20日～7月2日）
 - 2 回目 -9月26日～10月8日（調査実施：9月26,27日 / トラップ設置期間：9月26日～10月8日）
 - ・調査場所： 計 5,842.7 m²
 - 収蔵庫＝A、B、C、一時保管庫、収蔵庫前室
 - 展示室＝企画（A-1,2,3,B）、常設（A,B,C,D）、休憩室も含む
 - ※収蔵部門、展示部門、研究部門、サービス部門合計
 - ・調査項目：①昆虫生息 ②浮遊菌 ③浮遊塵埃 ④温湿度 ⑤空調風速 ⑥アルカリ性物質 ⑦資料の褪色 ⑧照度 ⑨紫外線
 - ・測定機器：RCS エアーサンプラー（ゲンゼ産業）、クリモマスター Model6511（日本科学工業）、データミニ 3631（日置電機）/Indoor Gas Monitor Model2331（日本科学工業）、カノマックスデジタルダストモニター 3421（日本科学工業）、ミノルタデジタル照度計 T-1（ミノルタ）、紫外線強度計（日置電機）
 - ・使用トラップ：バグトラップ / ステッキシート（有恒薬品工業）
フェロモントラップ（3 種、富士フレーバー）
- 仕様は 2004 年度と変更なし。

1) 昆虫生息調査

- ・調査方法は 2003 年度年報を参照のこと。

●調査箇所 総計 178 箇所×2 回＝296 箇所

- 1- バグトラップ（歩行生昆虫用）108 箇所（収蔵庫 31, 展示室 44）
- 2- ガチョン（メイガ類用） 20 箇所（収蔵庫 5, 展示室 7）
- 3- パニシウム（飛翔性昆虫用） 20 箇所（収蔵庫 5, 展示室 7）
- 4- ニューセリコ（シバンムシ類用）20 箇所（収蔵庫 5, 展示室 7）
- 5- 虫取りモニター（飛翔性昆虫用）10 箇所（収蔵庫 5）

●調査結果

< 1 期 6 月 20 日～7 月 2 日 >

- ・収蔵庫系統…ハエ目 -16（カ 8, チョウバエ 3, ハエ 5）。ほかはガ -2, ゴミムシ -2, ハサミムシ -1。チャタテムシが減少。ハエ目以外は前年度調査より改善された。

- ・展示室系統…タカラダニが大幅に減少、しかしハエ目の激増があり、予断は許さない。

企画展示室…ハエ目 -756（カ 686, チョウバエ 33, ハエ 37）。ガ -30, クモ -11, アリ -6 など。（休憩室も含む）

常設展示室…ガ -24, ハエ目 -16（カ 8, チョウバエ 7, ハエ 1）、タカラダニ -7, チャタテムシ -2, アリ -2, ゴミムシ -2, クモ -3。（休憩室も含む）

- ・その他のエリア…カ -149, ハエ -42, チョウバエ -20, トゲトビムシ -17, タカラダニ -9, クモ -19, アリ -8。いずれも虫害に直結するものではなく、特に殺虫処理は行っていない。

・ハエ目の発生が顕著。進入源は 1 階エントランスと搬入口考えられる。 <2 期 9 月 26 日～10 月 8 日>

チャタテムシが増加。カも相変わらず搬入口近辺に多い。

- ・収蔵庫系統…チャタテムシ 24, カ -1, チョウバエ -1。

・展示室系統

企画展示室…チョウバエ -7, カ -3, チャタテムシ -1 など。（休憩室含む）

常設展示室…チョウバエ -5, カ -6, ガ -2, クモ -2 など。（休憩室含む）

- ・その他のエリア…カ -187, チョウバエ -47, チャタテムシ -15, ガ -4, クモ -3 など。

2) 浮遊菌調査

（採集方法等は 2003 年度年報参照。）

●調査箇所 館内…22 ポイント / 館外…4 ポイント

●調査結果

- ・外気の浮遊菌は建物東側で 1 m³あたり 900 が最大。
- ・館内の最大値は工作修復室で 1 m³あたり 400。特に問題となるレベルではなく、清浄環境といえる。

3) 塵埃調査

(採集方法等は 2003 年度年報参照。)

●調査箇所 40 ポイント

●調査結果

- ・屋外粉塵 …1 回目 0.058 ～ 0.053mg/ m³ 2 回目 0.009 ～ 0.007mg/ m³
- ・数値の高い順では、写真室、展示用具室で 0.015mg/ m³、ほかはすべて 0.014mg/ m³以下、収蔵庫は 0.002mg/ m³以下、展示室でもほとんど 0.004mg/ m³以下。
- ・CO は 0.9ppm 以下、CO₂ は平均 500ppm、最大 670ppm (工作修復室)。

4) 温湿度調査

データロガーにより温湿度変化を測定し、調査時期の変化を把握する。

●調査箇所 収蔵庫…3 ポイント / 展示室…2 ポイント

●調査結果

企画展示室 A	222.5 ～ 24.0℃ (平均 23.2℃)	/18.9 ～ 25.5℃ (平均 19.9℃)
	57.7 ～ 66.5% (平均 62.0%)	/56.9 ～ 64.1% (平均 61.5%)
収蔵庫 B	20.9 ～ 22.6℃ (平均 21.8℃)	/20.9 ～ 22.5℃ (平均 21.7℃)
	57.7 ～ 62.5% (平均 60.2%)	/60.8 ～ 64.2% (平均 61.6%)

5) 空調風速調査

(調査方法等は 2003 年度年報参照。)

●調査箇所 合計 50 ポイント (収蔵庫…10/ 展示室…24)

●調査結果

- ・収蔵庫では 1.81 ～ 0.01m/sec、展示室では 0.33 ～ 0.01m/sec であった。収蔵庫前室が最も高い数値を示している。

6) アルカリ性物質調査

文化財虫害研究所の「環境モニター」をもちい、建物から放出されるアルカリ性物質を把握する。(調査方法等は 2003 年度年報参照。)

●調査箇所 合計 30 ポイント (収蔵庫…8/ 展示室…10)

●調査結果

- < 1 回目> 屋外は酸性環境 (スケール 1.0)。収蔵庫でやや酸性環境 (スケール 1.5)、そのほかは中性環境 (スケール 2.0)。
- < 2 回目> 屋外は酸性環境 (スケール 1.0 ～ 1.5)。収蔵庫でやや酸性から中性環境 (スケール 1.5 ～ 2.0)、そのほかは中性環境 (スケール 2.0)。

※環境モニター試験紙を木製の棚に置かないようにしたため、収蔵庫の酸性環境が改善したようにみえる。

7) 褪色調査

作品資料の褪色については、紫外線だけでなく、可視領域の光についても影響の有無を調べる。

●調査箇所 展示室…5 箇所

●調査方法 ローダミン蛍光染料紙による。詳細は 2003 年度年報参照。

●調査結果

- ・1 回目は色差 1.14 ～ 2.26。2 回目は色差 0.36 ～ 0.66。特に顕著な褪色を示す数値とはいえない。データの今後も引き続き定期的な調査を継続し、その推移を見守る必要がある。

8), 9) 照度・紫外線調査

褪色調査に並行し、紫外線と照度をしらべ、展示収蔵環境の光環境を把握する。

●調査箇所 38 箇所 (収蔵庫…11/ 展示室…21)

●調査方法

- ・館側の指示する地点を紫外線強度計、照度計で測定する。床より 1 m 程度の高さ、床と平行に計器をおいて測定する。
- ・紫外線 (測定波長域) 220 ～ 390nm
- 可視光 (測定波長域) 450 ～ 700nm

●調査結果 (2 回通じて)

収蔵庫…3165 ～ 121lx (3165lx はデータエラーと考えられる)

企画展示室…298 ～ 15.6lx

常設展示室…276 ～ 105lx

- ・紫外線は、収蔵庫・展示室で 0.000 (mW/ cm²)、外光の入る図書コーナーで 0.057 (mW/ cm²)。

付記：

2005 年度は 2003 年度からほとんど仕様変更は行わず、実施時期のみ若干異同が生じたものである。時期や気候が変わるだけでタカラダニやハエ、カなどの発生数が大幅に増減を生じることが確認できた。今後は、こうした B ランクの害虫についての傾向と対策を考えていくべきであろう。チャタテムシは梱包材の持ち込みが減ったことで減少傾向にある。

タカラダニ対策は、DDVP 殺虫剤を経路におくことで侵入を減らすことに成功していると思われる。

◆美術品等の修復

当館では長期的な計画に基づき、毎年定期的な収蔵作品の修復を行い、より良好な状態を維持できるよう務めている。2005年度は、同年収蔵の版画作品の修復、額装作業を行った。

修復者の選定にあたっては、美術作品の修復が高度な専門性と技術を要するため、識者の意見や他館の実績等を加味して選考した修復家による随意契約としている。状態調査と修復仕様の決定は当館学芸員と修復者により進められたが、当該作品は大判の版画作品であるため輸送して作業を託すより、修復者が来館して作業を進めることとした。

修復の作業は逐次記録され、報告書に反映されている。本稿は修復者提出の報告書に基づいている。

- ・修復者：小林嘉樹（小林絵画保存修復工房）、坂本雅美（紙修復）
- ・額新調：飯塚 深（並木木工所）
- ・記 録：堀 宜雄（当館学芸員）

□修復作品と修復概要

	作品名	作家名	作品の状態	修復・額装概要
①	日記シリーズ（計12点）	野田哲也	・支持体は手漉きの和紙。すかしがはいっている。一部取り扱い不注意によるハンドリングクリース（紙シワ）がみられる。画面が大きいため波打ちがみられる。 ・木版とシルクスクリーンの併用技法のため、顔料によっては波打ちが大きくなっているものもある。顔料が裏面にまで達しているものもある。 ・シートのため、現状では作品の取り扱いが難しく、そのままでは簡便に展示できない。	・全体に版画としては大きな作品であるので、軽くて強度のあるペーパーハニカムボード（13mm厚）を台マットとし、窓マット（特種製紙ピュアマット、オフホワイト5mm厚）を置いて通常の額装を行う。台マットは中性紙により作品接着面を覆うものとする。上下左右に均等に和紙ヒンジで固定する。ヒンジの接着はメチルセルロースによる。（→写真A,B） ・額はナラ材の木地縁。低反射アクリルガラス（日本油脂リアルック3mm厚）と裏蓋をつける。裏蓋はアルミ板（カラーエース）におさえ木枠とし、木枠から額にビス止めをする。（→写真C）
②	遺跡地にて（計5点）	李禹煥	・支持体は機械漉きの和紙。画面が大きい割には波打ちはほとんどない。 ・画面部分も状態は良好。 ・シートのため、現状では作品の取り扱いが難しく、そのままでは展示できない。	・野田哲也と同じ額装仕様。ただし窓マット幅は小さくした。
③	KALPA X 他14点	日和崎尊夫	・支持体は手漉きの和紙。すかしがはいっている。波打ちがみられる。 ・シートのため、現状では作品の取り扱いが難しく、そのままでは展示できない。	・窓マットは作らず、台マット（特種製紙ピュアマット、オフホワイト5mm厚）に作品を固定し、作品全体が見えるような額装とする。作品の台マットへの固定は、隠しヒンジで行う。 ・額はナラ材の木地縁。邸反射アクリルガラス（日本油脂リアルック3mm厚）を入れ、作品とガラスの間にへだてを入れる。裏蓋は板に木枠とし、木枠から額にビス止めをする。



A. ペーパーハニカムの台マットと窓マット
（ブックマットに仕上がった）



B. 作品裏面にヒンジをつける
（重しを乗せたところ）



C. 額装作業

管 理

◆美術品の貸出（貸出作品一覧）

No.	作家名	作品名	展覧会名	貸出先	会期
1	村上華岳	早春風景	村上華岳展	京都国立近代美術館 富山県水墨美術館	2005/4.12-5.22 2005/5.28-7.3
2	安井曾太郎	ターブルの上	没後 50 年 安井曾太郎展	宮城県美術館 茨城県近代美術館 三重県立美術館	2005/4.16-6.15 2005/6.11-7.24 2005/8.6-9.25
3	村上善男	市町に釘打ち（四）	北に澄むー村上善男展	川崎市岡本太郎美術館 萬鉄五郎記念美術館 天童市美術館 尼崎市総合文化センター	2006/4.23-7.3 2006/7.9-9.18 2006/9.24-11.6 2006/11.12-12.4
4	伊砂利彦	河津七瀧	「伊砂利彦ー型染の美」展	東京国立近代美術館	2005/4.26-6.26
5	伊砂利彦	道成寺 序			
6	伊砂利彦	道成寺 怨			
7	伊砂利彦	沖繩戦に逝きし人々にさゝげる鎮魂歌			
8	伊砂利彦	海に逝きし人々にさゝげる鎮魂歌			
9	小茂田青樹	薫房	花めぐりー日本画に見る花ー	茨城県天心記念五浦美術館	2005/4.29-6.5
10	加守田章二	灰釉壺（1964年・26.3×26.9×26.9）	20世紀陶芸界の鬼才 加守田章二展	京都国立近代美術館	2005/5.31-7.10
11	加守田章二	灰釉大皿（1966年頃・6.3×45.0×45.0）		山口県立萩美術館・浦上記念館 東京ステーションギャラリー 岩手県立美術館 岐阜県現代陶芸美術館	2005/7.16-9.4 2005/9.10-10.23 2006/6.3-7.17 2006/7.29-10.9
12	熊坂適山	百花の図	「蠣崎波響・熊坂適山」展	桑折町種徳美術館	2005/10.1-10.30
13	蠣崎波響	雉子			
14	蠣崎波響	鍾馗			
15	蠣崎波響	鴛鴦			
16	勝田蕉琴	出城釈迦			
17	平福百穂	赤茄子と芋	移動美術館 近代日本画の名品展	白河市歴史民俗資料館	2005/10.8-11.6
18	今村紫紅	瀬田風景			
19	小茂田青樹	農婦	移動美術館 近代日本画の名品展	白河市歴史民俗資料館	2005/10.8-11.6
20	長野草風	麦踏			
21	酒井三良	田園秋色図			
22	伊東深水	春光			
23	中島清之	胡瓜			
24	尾竹竹坡	蔬菜図			
25	小杉放庵	水荘訪客			
26	湯田玉水	山斎訪客図			
27	速水御舟	晩冬の桜			
28	勝田蕉琴	花鳥屏風			
29	酒井三良	江南春色			
30	猪巻清明	さかだち			
31	角田磐谷	岩上双鳩の図			
32	須田？中	牡丹			
33	太田正弘	北壁			
34	大山忠作	母子像			
35	結城天童	阿武隈川源流			
36	斎藤 清	野仏、田代 (2)			
37	斎藤 清	野仏、田代 (4)			
38	斎藤 清	会津の冬 (8) 川井			
39	斎藤 清	会津の冬 (4) 西会津・下安座			
40	斎藤 清	会津の冬、三島町・滝谷			
41	斎藤 清	会津の冬、高田・落合			
42	斎藤 清	会津の冬、柳津・大野 (4)			
43	斎藤 清	会津の冬、坂下町・気多ノ宮 (1)			
44	斎藤 清	会津の冬、喜多方南町			
45	斎藤 清	会津の冬、柳津駅			
46	酒井三良	松籟	再興日本美術院 90 年記念展	日本橋三越本店新館 7 階ギャラリー	2005/10.18-10.30
47	須田？中	篝火			

運営・組織

◆観覧者数一覧（2006年3月26日現在）

展 覧 会 名		開 期 催 間	有 料												無 料		観覧者 総 計
			個 人				団 体				年間観覧券				有料 合計	無料・ 招待等	
			一般・ 大学生	高校生	小・ 中学生	小計	一般・ 大学生	高校生	小・ 中学生	小 計	一般・ 大学生	高校生	小・ 中学生	小 計			
常 設 展	第 1 期～第 4 期	4.8～3.26 (299 日間)	4,196			4,196	847			847				5,043	4,376	9,419	
	夜間開館 ※内数	8.9～8.14 (6 日間)	(5)			(5)								(5)	(18)	(23)	
	移動美術館 (白河市歴史民俗資料館)	10.8～11.6 (30 日間)													1,848	1,848	
	企画観覧券で常設展を観覧	通 年													14,793	14,793	
	免除者(100/100) 学校教育活動	通 年														0	
	免除者(50/100) 県又は市町村主催	通 年					25			25				25		25	
	無料入館	5.5(こどもの日)													264	264	
	〃	8.21(県民の日)													295	295	
	〃	9.20(敬老の日)													175	175	
	〃	11.3(文化の日)													467	467	
	小中高無料入館(小学生)	通 年													3,193	3,193	
	小中高無料入館(中学生)	通 年													622	622	
	小中高無料入館(高校生)	通 年													1,362	1,362	
	小中高無料入館(準じる者)	通 年													152	152	
小 計			4,196			4,196	872			872				5,068	27,547	32,615	
企 画 展	1 熊谷守一展	4.23～6.5 (38 日間)	4,554	51	151	4,756	703	39	10	752	280		280	5,788	1,827	7,615	
	2 New Spirits 福島展	6.18～7.18 (27 日間)	1,340	46	52	1,438	338		150	488	64	1	1	66	1,992	1,343	3,335
	3 ジェームズ・アンソール展	7.30～9.4 (31 日間)	2,202 (13)	107	261	2,570	63			63	191 (1)		1	192	2,825	1,302 (4)	4,127 (18)
	4 柳宗悦の民藝と巨匠たち展	9.13～10.23 (36 日間)	8,109	59	152	8,320	351	37	120	508	270		3	273	9,101	2,739	11,840
	5 岡本太郎展	11.1～12.11 (35 日間)	14,160	199	1,063	15,422	851	278	576	1,705	232		3	235	17,362	4,614	21,976
	6 名取洋之助と日本工房展	2.11～3.26 (37 日間)	2,066	58	62	2,486	242	251	26	519	113			113	2,818	1,455	4,273
	小 計			32,431	520	1,741	34,692	2,548	605	882	4,035	1,150	1	8	1,159	39,886	13,280
合 計			36,627	520	1,741	38,888	3,420	605	882	4,907	1,150	1	8	1,159	44,954	40,827	85,781

◆ 2005 年度決算内訳

歳入

科目（款・項・目・節）	予算額（千円）
使用料及び手数料	12,891
└ 使用料	12,891
└ 行政財産使用料	1,197
└ 土地使用料	44
└ 建物使用料	1,153
└ 教育使用料	11,694
└ 美術館使用料	11,694
財産収入	3,870
└ 財産売払収入	3,870
└ 物品売払収入	3,870
諸収入	14,469
└ 雑入	14,469
計	31,230

歳出

科目（款・項・目・節）	最終予算額（千円）
教育費	277,372
└ 教育総務費	10,444
└ 事務局費	10,394
└ 報酬	7,344
└ 職員手当（児童手当）	120
└ 共済費	1,088
└ 賃金	1,842
└ 財務管理費	50
└ 交際費	43
└ 使用料及び賃借料	8
└ 社会教育費	266,928
└ 美術館費	266,928
└ 報酬	63
└ 報償費	1,543
└ 旅費	5,197
└ 需用費	95,682
└ 食糧費	237
└ 役務費	12,789
└ 委託料	105,341
└ 使用料及び賃借料	28,129
└ 備品購入費	3,144
└ 負担金・補助及び交付金	15,004
└ 公課費	38
労働費	3,872
└ 雇用対策費	3,872
└ 緊急対策費	3,872
└ 共済費	262
└ 賃金	1,847
└ 委託料	1,764
計	281,244

◆関係法規

A 福島県立美術館条例

(設置)

第1条 博物館法（昭和26年法律第285号）第18条、地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）第30条及び地方自治法（昭和22年法律第67号）第244条第1項の規定に基づき、県民の美術に対する知識及び教養の向上を図るため、福島県立美術館（以下「美術館」という。）を設置する。

(位置)

第2条 美術館は、福島市森合字西養山1番地に置く。

(業務)

第3条 美術館において行う業務は、次のとおりとする。

- 1 美術館及び美術に関する資料を収集し、保管し、及び展示すること。
- 2 美術に関する専門的、技術的な調査研究を行うこと。
- 3 美術に関する講演会、講習会、映写会、研究会等を開催すること。
- 4 前3号に掲げるもののほか、その設置の目的を達成するために必要な業務を行うこと。

(観覧料)

第4条 美術館の展示品（以下「展示品」という。）を観覧しようとする者は、別表に定める額の観覧料を納めなければならない。

(観覧料の免除)

第5条 知事は、公益上の必要があると認めるときは、規則で定めるところにより、観覧料の全部又は一部を免除することができる。

(観覧料不返還の原則)

第6条 既納の観覧料は、返還しない。ただし、規則で定める場合は、その全部又は一部を返還することができる。

(遵守事項)

第7条 美術館を利用する者は、次に掲げる事項を遵守しなければならない。

- 1 美術館の施設若しくは設備、展示品等をき損し、又は汚損しないこと。
- 2 物品を販売し、又は頒布しないこと（教育委員会の許可を受けた場合を除く。）。
- 3 展示品の模写、模造、撮影等を行わないこと（教育委員会の許可を受けた場合を除く。）。
- 4 所定の場所以外において、喫煙および飲食を行わないこと。
- 5 他の利用者に危害又は迷惑を及ぼす行為をしないこと。
- 6 前各号に掲げるもののほか、管理上教育委員会が指示する事項。

(入館の規制等)

第8条 教育委員会は、次の各号のいずれかに該当するものに対し、入館を拒否し、又は退館若しくは退去を命ずることができる。

- 1 前条の規定に違反した者。
- 2 美術館の施設若しくは設備、展示品等をき損し、または汚損するおそれのある者。
- 3 館内の秩序を乱し、又はそのおそれのある者。

(職員)

第9条 美術館に、事務職員、技術職員その他の所用の職員を置く。

(委任)

第10条 この条例に定めるもののほか、美術館の管理その他この条例の施行に関して必要な事項は、教育委員会が定める。

附則 この条例は、昭和59年4月1日から施行する。

附則（平成11年12月24日条例第92号）

この条例は、平成12年4月1日から施行する。

附則（平成15年3月24日条例第52号）

この条例は、平成15年4月1日から施行する。

別表（第4条関係）

区 分	普通観覧料の額 (一人あたり)		特別観覧料の額	年間観覧料の額 (同一人が有効期間内に利用する場合)
	個 人	団 体		
一般（大学生を含む）	260円	210円	その都度知事が定める額	3,600円の範囲内で知事が定める額
高校生及びこれに準ずる者	—	—	その都度知事が定める額	2,160円の範囲内で知事が定める額
中学生及び小学生	—	—	その都度知事が定める額	1,440円の範囲内で知事が定める額

備考

- 1 「普通観覧料」とあるのは常設展の展示品のみを観覧する場合の観覧料をいい、「特別観覧料」とあるのは特別の企画による展示品を観覧する場合（常設展の展示品を併せて観覧する場合を含む。）の観覧料をいい、「年間観覧料」とあるのは年間利用に係る普通観覧料及び特別観覧料をいう。
- 2 「団体」とあるのは、二十人以上の団体をいう。

B 福島県立美術館運営協議会条例

(設置)

第1条 博物館法（昭和26年法律第285号）第20条第1項の規定に基づき、福島県立美術館（以下「美術館」という。）の適正な運営を図るため、福島県立美術館運営協議会（以下「協議会」という。）を置く。

(組織)

第2条 協議会の委員（以下「委員」という。）の定数は、10人以内とする。

(委員の任命及び任期)

第3条 委員は、学校教育及び社会教育の関係者並びに学識経験のある者のうちから、教育委員会が任命する。

2 委員会の任期は、2年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

3 委員は、再任されることができる。

(会長及び副会長)

第4条 協議会に会長及び副会長各1人を置き、委員の互選により定める。

2 会長は、協議会を代表し、会務を総理する。

3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第5条 協議会の会議は、会長が招集する。

2 協議会の会議は、委員の過半数が出席しなければ開くことができない。

3 協議会の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、会長の決するところによる。

(庶務)

第6条 協議会の庶務は、美術館において処理する。

(雑則)

第7条 この条例に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は、会長が協議会に諮って定める。

附則 この条例は、昭和59年4月1日から施行する。

C 福島県立美術館条例に基づく知事の権限を

福島県教育委員会に委任する規則

福島県立美術館条例（昭和59年福島県条例第33号）第5条、第6条ただし書及び別表の規定による知事の権限は、福島県教育委員会に委任する。

附則 この規則は、昭和59年4月1日から施行する。

D 福島県立美術館条例施行規則

(休館日)

第1条 福島県立美術館（以下「美術館」という。）の定期の休館日は、次のとおりとする。

一 月曜日。ただし、その日が祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日（次号において「休日」という。）に当たるときを除く。

二 休日の翌日。ただし、その日が土曜日、日曜日又は休日に当たるときを除く。

三 1月1日から同月4日まで。

四 12月28日から同月31日まで。

2 美術館の長（以下「館長」という。）は、必要があると認めるときは臨時に休館し、又は臨時にかいかんすることができる。

(開館時間)

第2条 美術館の開館時間は、午前9時30分から午後5時までとする。ただし、館長は、必要があるとみとめるときは、これを臨時に変更することができる。

(観覧手続)

第3条 館長は、福島県立美術館条例（昭和59年福島県条例第33号。以下「条例」という。）第4条の規定により観覧料を納入した者（年間観覧料を納入した者（以下「年間観覧者」という。）を除く。）に対し、観覧券（第1号様式）を公布するものとする。

(年間観覧者に係る入館手続)

第3条の2 館長は、年間観覧者に対し年間観覧券（第1号様式の2）を交付するものとし、その有効期間は、年間観覧券を交付した日から最初に到来する3月31日までとする。

2 年間観覧者は、入館する際に有効な年間観覧券を提示するものとする。

3 年間観覧券の利用は、同一人に限るものとする。

(観覧料の免除及びその手続)

第4条 館長は、条例第5条の規定により、次の表の上欄に掲げる場合における普通観覧料について、同表の下欄に掲げる額を免除するものとする。

普通観覧料を免除する場合	免除する額
一 大学生、（これに準ずる者として福島県教育委員会教育長（以下「教育長」という。）が別に定める者を含む。）及びその引率者並びに高校生、中学生及び小学生（これらに準ずる者として教育長が別に定める者を含む。）の引率者が、学校教育に基づく活動として観覧するとき。	条例別表に定める普通観覧料の額の全額
二 県又は市町村が主催する講習会、講座等の活動として観覧するとき。	条例別表に定める普通観覧料の額の百分の五十に相当する額（引率者にあつては全額）
三 国民の祝日に関する法律第二条に定めるこどもの日、敬老の日及び文化の日に観覧するとき。	条例別表に定める普通観覧料の額の全額
四 知事の発行する外国人留学生文化施設等無料観覧証の交付を受けている者が観覧するとき	条例別表に定める普通観覧料の額の全額

五 その他免除することが公益上適当と認めるとき。	教育長が別に定める金額
--------------------------	-------------

2 観覧料の免除を受けようとする者（前項の前の第3号又は第4号のいずれかに該当する場合に観覧料の免除を受けようとする者を除く。）は、前項の表の第1号又は第2号に該当する場合にあつては観覧しようとする日の3日前まで、第5号に該当する場合にあつては10日前までに観覧料免除申請書（第2号様式）を館長に提出し、その承認を受けなければならない。

3 館長は、前項の規定により観覧料の免除を承認したときは、観覧料免除承認書（第3号様式）を交付するものとする。（観覧料の返還）

第5条 館長は、次の各号のいずれかに該当する場合は、それぞれ当該各号に定めるところにより、観覧料の全部又は一部を返還するものとする。

一 観覧しようとする者の責めによらない理由により観覧することができなくなったとき。（観覧しようとする者が年間観覧者であるときを除く。） 全額

二 その他やむを得ない理由があると認めるとき。 教育長が別に定める額

2 観覧料の返還を受けようとする者は、観覧料返還申請書（第4号様式）に観覧料を添えて、館長に提出しなければならない。

(美術品等の特別利用)

第6条 美術館が所蔵し、又は寄託を受けている美術品等を学術上の研究その他のため特に利用しようとする者は、館長の承認を受けなければならない。

(教育長への委任)

第7条 この規則に定めるもののほか、美術館の管理その他この規則の施行に関し必要な事項は、教育長が定める。

附則 この規則は、昭和59年4月1日から施行する。

附則（平成14年3月26日 教育委員会規則第13号）

この規則は、平成14年4月1日から施行する。

附則（平成15年3月24日 教育委員会規則第2号）

この規則は、平成15年4月1日から施行する。

第1号様式（第3条関係）

観覧券 (観覧者の区分) (金額) 福島県立美術館	観覧券 (観覧者の区分) (金額) 福島県立美術館
------------------------------------	------------------------------------

備考 寸法、デザイン等については、その都度定める。

第1号様式の2（第3条の2関係）

年間観覧券	(交付番号) (観覧者の区分) (有効期間)
ご利用に際して	1 福島県立美術館が主催する展覧会のみ有効です。
	2 下記に署名されたご本人以外の方は使用できません。
	3 後購入後の紛失などによる再発行はいたしません。
福島県立美術館	(氏 名) (学校名) (学年) 福島県立美術館

備考 寸法、デザイン等については、その都度定める。

福島県立美術館における美術品等の貸出し及び写真撮影に関する取扱要領

1 趣旨

(1) この要領は、財産の交換・譲与・無償貸付等に関する

条例（昭和 39 年福島県条例第 22 号）第 7 条、福島県財務規則（昭和 39 年福島県条例第 17 号。以下「財務規則」という。）第 156 条、福島県立美術館条例（昭和 59 年福島県条例第 33 号）第 7 条及び福島県立美術館条例施行規則（昭和 59 年福島県教育委員会規則第 12 号）第 7 条の規定により、福島県立美術館（以下「館」という。）が所蔵し、又は寄託を受けている美術品及び美術資料（以下「美術品等」という。）の貸出し及び写真撮影等（以下「撮影」という。）の取り扱いに関する基準及び手続きを定めるものとする。

（2）美術品等が福島県美術品等取得基金（以下「基金」という。）所有のものであるときは、昭和 59 年 12 月 28 日付 59 教財第 513 号、福島県教育庁財務課長通知により、美術品等の貸出しの手続きは館長の依頼により基金管理者が行うものとするが、美術品等の貸出しの基準及び撮影については、この要領を準用するものとする。

2 美術品の貸出し

（1）貸出しの基準

ア 美術品等の貸出しは、国立、公立及び私立の美術館または博物館、報道機関、その他館長が特に必要と認めたものに対して行うものとする。

イ 美術品等の貸出期間は、1 年を超えてはならない。

ウ 美術品等の利用目的及び管理上の理由から貸出しをすることが適当でないと認めるときは、貸出しを行わないものとする。

（2）貸出しの手続き

ア 学芸課は、美術品等の貸出しをする場合には、貸出しを受けようとする者（以下「借受者」という。）から物品借受申請書（財務規則第 102 号様式。以下「申請書」という。）を提出させるものとする。ただし、借受者の利用目的が展覧会の展示である場合には、次の書類を提出させなければならない。

（ア）展覧会の趣旨及び企画内容を明記した書類

（イ）美術品等が寄託を受けているものである場合には、寄託者の貸出しを承認する旨の書類

（ウ）その他必要と認める書類

イ 学芸課は、借受者から申請書の提出を受けたときは、美術品等の利用目的、利用期間及び利用場所等について十分に検討を加え、貸出しの適否を審査するものとする。

ウ 学芸課は、この要領 2 の（2）のイの審査の結果、美術品等の貸出しをすることが適当と認めたときは、物品貸付調書（財務規則第 10 号様式）により当該貸出しについて館長の決裁を受けるとともに、総務課に関係書類を送付するものとする。

エ 総務課は、この要領 2 の（2）のウの書類の送付を受けたときは、速やかに福島県教育庁生涯学習領域（以下「生涯学習領域」という。）に対し美術品等の貸出しについて必要な措置の請求（別紙様式第 1 号）をしなければならない。

オ この要領 2 の（2）のアからエまでの規定は、美術品等が基金所有のものである場合に準用する。

（3）貸出しの決定

ア 総務課は、生涯学習領域から美術品等の貸出しについて必要な措置が完了した旨の通知を受けたときは速やかに学芸課に対して、その旨連絡するとともに関係書類を送付するものとする。

イ 学芸課は、この要領 2 の（3）のアの通知を受けたときは借受者に対して、貸出し承認の通知（別紙様式第 2 号）をするものとする。

ウ 美術品等が基金所有のものであるときは、当該美術品等の貸出しの決定及び借受者に対する貸出し承認の通知は、基金管理者が行うものとする。

エ 美術品等の貸出しは、無料とする。

（4）貸出しの条件

美術品等の貸出しをする場合には、次の条件を付すものとする。

ア 美術品等は利用目的以外の用途に利用しないこと。

イ 美術品等の利用権を第 3 者に譲渡しないこと。

ウ 美術品等は常に善良な管理者の注意をもって管理保管すること。

エ 美術品等の棄損・亡失等が生じた場合は、速やかにその旨を館に報告し、その指示により損害を賠償し、又はこれを原状に回復すること。

オ 美術品等の輸送、その他貸出しに要する経費は、借受者が負担すること。

カ 図録作成等のため美術品等の写真撮影をする場合は、この要領 3 により別途手続を行うこと。

キ 美術品等の搬出または搬入に対して借受者は責任者を立会させること。

ク その他必要と認めること。

（5）美術品等の引渡し

ア 館長（物品管理者）は、美術品等の貸出しを実行するときは、当該美術品等の現状を確認し、総務課長（物品取扱員）に対し、貸付物品払出通知書（財務規則第 102 号様式）により、その引渡しを指示するものとする。

イ 総務課長（物品取扱員）は、館長（物品管理者）から貸出し美術品等の引渡しの指示を受けたときは、借受者に対して当該美術品等の受領を証する書面と引換えに、これを引渡すものとする。

ウ 総務課長（物品取扱員）は、美術品等を引渡したときには物品貸付台帳（財務規則第 140 号様式）に所定の事項を記載し整理するものとする。

エ 美術品等の引渡し場所は原則として館とする。

（6）美術品等の貸付引受け

この要領 2 の（5）のアからエまでの規定は、貸出しを行った美術品等が返納された場合の受入れの手続きについて準用する。この場合「美術品等の貸出しを実行」とあるのは「貸出しを行った美術品等を引受け」と、「貸付物品払出通知書」とあるのは「貸付物品受入通知書」と、「引渡し」とあるのは「引受け」とそれぞれ読み替えるものとする。

3 美術品等の撮影

（1）撮影承認の基準

ア 美術品等の撮影は国立、公立及び私立の美術館または博物館、報道機関、出版社、その他館長が特に必要と認めたものに対して承認するものとする。

イ 撮影により損傷を生ずるおそれがある美術品等は撮影を認めないものとする。

ウ 撮影の時期が美術品等の管理上、適当でないと認められる場合は、その時期を変更し、若しくは撮影を認めないものとする。

（2）撮影承認の手続

ア 学芸課は、美術品等の撮影の承認をする場合には、撮影を希望する者（以下「撮影者」という。）から美術品等撮影承認願（別紙様式第 3 号。以下「承認願」という。）を提出させるものとする。

イ 美術品等が寄託を受けているものである場合には、寄託者の撮影を承認する旨の書類を承認願に添付させるものとする。

ウ 学芸課は、撮影者から承認願の提出を受けたときは、撮影の目的、場所、時期、対象美術品等について十分に検討を加え、承認の適否を審査するものとする。

エ 学芸課は、この要領 3 の（2）のウの審査の結果、美術品等の撮影を承認することが適当と認めたときは、当該撮影の承認について館長の決裁を受けるものとする。

オ 美術品等の撮影料は無料とする。

（3）撮影承認の通知

学芸課は、この要領 3 の（2）のエにより撮影承認の決定をしたときは、撮影者に対して撮影承認の通知（別紙様式第 4 号）をするものとする。

（４）撮影の条件

美術品等の撮影を承認する場合には、次の条件を付すものとする。

ア 美術品等の撮影は館の職員の指示に基づいて行うこと。

イ 撮影により美術品等を損傷させないこと。

ウ 撮影した写真等は、撮影承認を受けた目的以外に使用しないこと。

エ 撮影の目的が著作権法の適用を受けることとなるときは、必要に応じ、あらかじめ著作権者の了承を得ること。

オ 撮影承認を受けた美術品等の写真を出版物に掲載したときは、当該出版物を館に提出すること。

カ その他必要と認めること。

（５）補則

ア 撮影の場所は、原則として館とする。

イ 撮影が美術品等の管理上適当でないと認めるときは、館が所有する原版の使用を認めるものとする。

ウ 過去に撮影した写真等の撮影承認の目的外使用については、この要領の適用を受けるものとする。

エ 館所有の原版を複写して使用する場合は、当該複写版をすべて提出することとする。

オ 館所有の原版を使用する際、誤って損傷、亡失させたときは、再撮影に係わる実費を当該申請者に請求することができるものとする。

４ 適用

この要領は昭和 60 年 2 月 9 日から適用する。

（平成 9 年 9 福美第 65 号により一部改正）

福島県立美術館美術作品等寄託要領

（趣旨）

１ この要領は、福島県立美術館（以下「館」という。）における美術作品および美術資料（以下「美術品等」という。）の寄託に関し、必要な事項を定めるものとする。

（寄託の申し出）

２ 福島県立美術館館長（以下「館長」という。）は、美術品等の所有者に依頼して寄託を受けようとする場合には、寄託同意書（別記様式第 1 号）によって所有者の同意を得なければならない。

（２）館長の依頼によらないで美術品等の寄託をしようとする者は、寄託申請書（別記様式第 2 号）を館長に提出し、その承認を受けなければならない。

（受託）

３ 館長は、所有者の合意、もしくは所有者からの申込みのあった美術品等の寄託が館の事業のため必要であると認めたときは、これを無償で受託することができる。

（受け入れおよび返還）

４ 館長は、所有者から帰宅された美術品等を受領したときは、所有者に対して受託証書（別記様式第 3 号）を交付するものとする。

（２）所有者は寄託した美術品等（以下「寄託品」という。）の返還を受けようとするとき、返還を受けようとする日の一ヶ月以上前に返還申請書（別記様式第 4 号）を館長に提出しなければならない。

（３）館長は、この要領 4 の（２）により、所有者に対して寄託品の返還をしようとするときは、受託証書と引き換えに、これを所有者に返還するものとする。

（４）寄託品の返還を受けようとする者が所有者の代理人であるときは、委任状その他これを証する書面を館長に提出しなければならない。

（寄託期限）

５ 美術品等の寄託期間（以下「寄託期間」という。）は 2 年とする。ただし、特別な理由があるとき、館長はこの期間を短縮することができる。

（寄託期間の更新）

６ 館長は所有者の得て寄託期間を更新することができる。

（２）寄託期間の経過後、所有者から寄託品の返還の請求がない場合は、寄託期間を更新したものとする。

（３）館長は、この要領 6 の（１）および（２）により寄託期間を更新したときは、所有者に対し更新した受託証書を交付するものとする。

（所有者の変更等）

７ 売買、相続等により寄託品の所有者に変更があったとき、または所有者の氏名、名称もしくは住所等に変更があったときは、所有者（所有者が変更した場合は変更後の所有者）は、所有権の移転その他氏名、名称等を証する書類を受託証書に添えて館長に提出し、受託証書の書き換えを受けなければならない。

（受託証書の再交付）

８ 所有者は、受託証書を亡失し、または著しく破損したときは、これらの事実を証するにたる書類（破損の場合は、その受託証書）を添えて、速やかに館長に受託証書の再交付を申請しなければならない。

（寄託品輸送経費等の負担）

９ 所有者は寄託品の搬入または返還に要する経費等を負担するものとする。ただし、館長が特にその必要がないと認めた場合は、この限りでない。

（寄託品の展示等）

10 館は、寄託品について、展示、研究および撮影等を行い、その結果を公刊することができる。

（２）館職員以外の者がこの要領 10 の（１）の行為をしようとするときは、「福島県立美術館における美術品等の貸出しおよび写真撮影等に関する取扱要領」に定めるところにより、所定の手続きを経なければならない。

（寄託品の保存）

11 館長は、寄託品の保存管理およびその取扱いについては、館に所蔵する美術品に準じて行う。

（２）館は、寄託品を亡失し、または損傷した場合は、その補償をするものとする。ただし、天災、その他不可抗力による場合は、この限りでない。

（その他）

12 この要領に定めるもののほか、美術品等の寄託に関し必要な事項は、館長が定める。

この要領は、昭和 60 年 4 月 1 日より施行する。

◆施設・整備

建築の概要

設計 大高建築設計事務所

施工 鹿島建設株式会社仙台市店（建築・外観）

敷地面積 60,500m²建築面積 6,471.5m²延床面積 9,680.7m²

建物構造 鉄筋コンクリート造（一部S造・2階建）

総工費 約49億円（本体、外構含む）

設備の概要

電気設備

1- 受変電設備：受電力 1,100W

2- 動力設備

3- 電灯・コンセント・照明（調光設備：各展示室、調光装置：講堂・講義室各1台）

4- 自家発電機設備

5- 避雷針

6- 電気時計

7- 火災報知設備

8- 防火扉・防煙設備

9- 拡声設備

10- インターホン設備

11- ITV 設備

12- 防犯設備

13- ビデオ設備

14- 蓄電池設備

15- 電話設備

空気調和設備

1- 熱源設備：

展示室・収蔵庫系統＝空気熱源スクルーヒートポンプ、120RT＋熱回収ヒートポンプ30RT 組合せ制御方式、冷水槽 300m³、温水槽 250m³

一般系統：図書館系統＝灯油だき冷温水発生器 150RT 2台

2- 空調設備：単一ダクト方式

展示室4系統、収蔵庫3系統、ケース内4系統、一般系統7系統（一部フロアコイル併用）

3- 換気設備：50系統

4- 排煙設備：機械排煙6系統

5- 床暖房：2系統

6- 自動制御設備：中央監視盤、温湿度監視盤

給排水衛生設備

1- 熱源：都市ガス（厨房・実習室・工作修復室）／他は全て電器煮沸器を使用

2- 消化系：ハロン消火設備（収蔵庫3系統：共用機械室）／消火栓設備（消火ポンプ1台、屋内消火栓14台、動力ポンプ1台）

3- 燻蒸設備：ガスによる殺虫滅菌剤で燻蒸後吸着装置通過、規定濃度以下にして大気放出

4- 給水：受水槽 45t（加圧給水）／直結給水

5- 排水：屋内は汚水・雑排水の分流式（外部で合流後、市下水道公共マスに接続）

昇降機設備

1- 乗用エレベーター：油圧式、750kg11名乗り1台

2- 荷物用エレベーター：油圧式、最大積載量 3t1台

3- 乗用エレベーター：油圧式、600kg9名乗り1台

内部仕上の概要

1- エントランスホール

床：御影石バーナー仕上げ（一部長尺塩ビシート張）

壁：栓練付石綿ケイカル板

天井：栓練付石綿ケイカル板

その他：一部床暖房設備

2- 収蔵庫

床：パーケットブロック、ぶな素地

壁：米杉、矢羽根板張

天井：米杉、本実目透張

その他：収納棚、絵画収納ラック

3- 企画展示室

床：長尺塩ビシート張

壁：合板捨張の上に準不燃合板、特注クロス張

天井：栓練付パネル

その他：大型可動壁（幅 8,770mm×高 3,770mm、11枚）

固定ケース前可動壁：（幅 1,600mm×高 4,050mm、延長約 72m）

固定ケース：（A-2、A-3、B：総延長 72.3m）

4- 常設展示室

床：タフテッドループカーペット

壁：常設 A- 栓練付ケイカル板

常設 B- 大理石空積、水磨き仕上げ

常設 C・D：くるみ練付ケイカル板

天井：常設 A- 栓練付パネル

常設 B・C・D- くるみ練付パネル

その他：固定ケース（常設 A、16.2m）

5- 講堂

床：タイルループカーペット

壁：くるみ練付石綿ケイカル板

天井：ビニールクロス張

その他：座席数：246（うち車椅子席 4）／ステージ：幅 12m×奥行 3.2m

6- 講義室

床：タイルカーペット

壁：くるみ練付石綿ケイカル板

天井：岩綿吸音板

7- 実習室

床：エポキシ系塗床

壁：モルタル金ゴテ VP

天井：岩綿吸音板

8- 軽食喫茶室

床：長尺塩ビシート張

壁：くるみ練付パネル、粒状岩綿吸音材（一部）

その他：テーブル 44席

9- その他

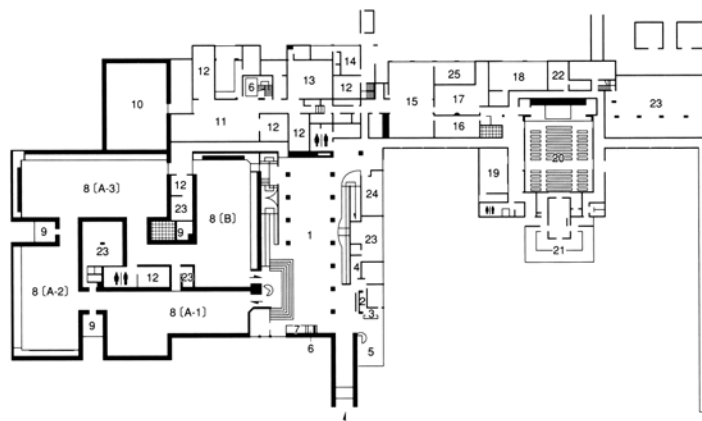
搬出入口：ホイストクレーン 2.8t／テーブルリフター

写真室：電動スクリーン

◆施設配置図

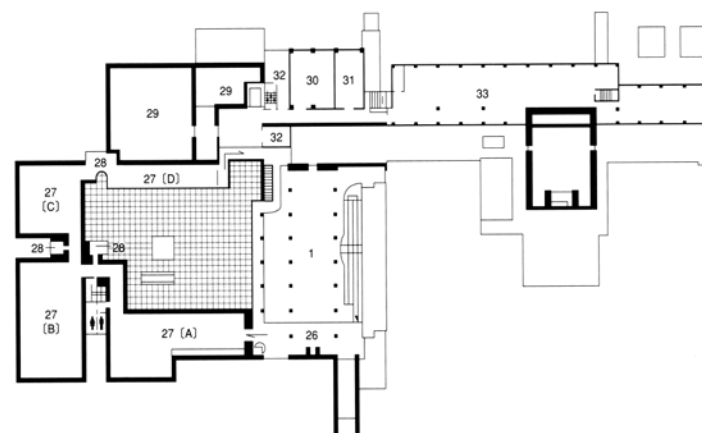
1 階

- | | |
|--------------|-----------|
| 1. エントランスホール | 14. 写真室 |
| 2. 受付案内 | 15. 警備室 |
| 3. ブックショップ | 16. 事務室 |
| 4. ロッカー室 | 17. 応接室 |
| 5. 図書コーナー | 18. 研究図書室 |
| 6. エレベーター | 19. 実習室 |
| 7. ビデオコーナー | 20. 講義室 |
| 8. 企画展示室 | 21. 講堂 |
| 9. 休憩室 | 22. 軽食喫茶室 |
| 10. 授乳室・救護室 | 23. 中央監視室 |
| 11. 収蔵庫 A | 24. 機械室 |
| 12. 荷解梱包室 | 25. 館長室 |
| 13. 倉庫 | 26. 副館長室 |



2 階

- | |
|-------------|
| 27. ロビー |
| 28. 常設展示室 |
| 29. 休憩室 |
| 30. 収蔵庫 B・C |
| 31. 工作修復室 |
| 32. 会議室 |
| 33. 倉庫 |
| 34. 機械室 |



◆部門別専有面積（* は県立図書館と共用）

サービス部門		1223.8m ²
エントランスホール		817.3m ²
受付案内	(ホールに含む)	
ブックショップ	(ホールに含む)	
ロッカー室	(ホールに含む)	
図書コーナー	(ホールに含む)	
ロビー		202.1m ²
*軽食喫茶室		179.0m ²
授乳室・救護室		25.4m ²
展示部門		3064.4m ²
企画展示室 A (A-1,2,3)		1380.8m ²
企画展示室 B		431.1m ²
	(企画展示室合計)	1811.9m ²
常設展示室 A		403.1m ²
常設展示室 B		359.1m ²
常設展示室 C		143.8m ²
常設展示室 D		132.8m ²
	(常設展示室合計)	1038.8m ²
展示用具室		141.2m ²
展示用具室 2		72.5m ²
収蔵部門		1365.3m ²
収蔵庫 A		280.2m ²
収蔵庫 B		368.7m ²
収蔵庫 C		105.1m ²
一時保管庫		51.8m ²
収蔵庫前室		57.6m ²
搬出入口		65.7m ²
荷解梱包室		188.8m ²
梱包倉庫		77.7m ²

荷扱人控室	29.6m ²
燻蒸室	33.3m ²
工作修復室	106.8m ²

普及部門		654.6m ²
*講堂		498.6m ²
講義室		73.9m ²
実習室 (準備室含む)		82.1m ²

研究部門	187.2m ²
研究図書室	88.7m ²
写真室	98.5m ²

管理部門		1832.7m ²
応接室		48.0m ²
副館長室		34.0m ²
事務室 (総務課・学芸課)		174.0m ²
会議室		73.3m ²
館長室		43.2m ²
事務機械室		16.0m ²
警備室		54.7m ²
更衣室		8.7m ²
受付控室		15.4m ²
給湯室		4.4m ²
倉庫		33.0m ²
*機械室		1266.4m ²
車庫		61.6m ²

その他 (化粧室・廊下・階段等)	1330.8m ²
------------------	----------------------

◆福島県立美術館友の会 活動報告

美術を愛好する人達が集い、会員相互の親睦を深めるとともに、美術館活動に協力することを目的とした福島県立美術館友の会が2003年4月に発足した。3年目を迎えた今年は、会員による様々な自主活動が展開された。

○熊谷守一展 特別ギャラリートークとティーパーティー

企画展開催に際して、熊谷樗氏（守一長女）による作家および作品解説を行った。展示室内でのトークの後、友の会会員を対象に、熊谷氏を囲んでティーパーティーを開催した。35名が参加し、和やかなひとときを過ごした。

日時：4月23日(土) 14:00-16:00

場所：企画展示室及びレストラン

内容：14:00- ギャラリートーク（講師：熊谷樗氏）

15:00- 講師を囲んでティーパーティー

○第4回研修旅行

第4回目の研修旅行としてバスで宮城県美術館と岩出山町感覚ミュージアムを訪れた。宮城県美術館では「安井曾太郎展」を、岩出山町感覚ミュージアムでは体験型のユニークな常設展示を観覧。晴天の下、充実した一日となった。18名参加。

日時：5月15日(日)

場所：宮城県美術館、岩出山町感覚ミュージアム 他

○第3回福島県立美術館友の会総会

日時：5月22日(日) 13:00-

場所：講堂

議事：2004年度事業及び事務報告

2004年度収支決算報告／平成16年度監査報告

2005年度事業計画（案）

2005年度収支予算（案）

役員改選

○「New Spirits 福島展」作家を囲む会

企画展開催に際して、展覧会出品作家によるギャラリートーク及びパーティーを行った。各作家による展示室内でのギャラリートークの後、3人の作家を囲んでパーティーを開催した。50名以上が参加し、和やかなひとときを過ごした。

日時：6月18日(土) 17:00-19:00

場所：企画展示室及びエントランスホール

内容：17:00- ギャラリートーク（講師：鴻崎正武氏、高橋克之氏、小林浩氏）

17:45- 講師を囲んでパーティー

○福島県立美術館友の会「会報」第3号発行

第3号の友の会会報誌発行

日時：2005年8月

内容：活動報告と予定／美術館を知ろう！企画展編／アンケート結果報告／総会報告と表紙について

○第5回研修旅行

第5回目の研修旅行としてバスで茨城県近代美術館と天心記念館五浦美術館などを訪れた。茨城県近代美術館では「片岡球子展」、五浦では旧天心邸、六角堂周辺の散策、天心記念五浦美術館では近代日本美術の発展に大きく貢献した美術院初期の作家達の作品が展示されていた。遠距離のため鑑賞時間に余裕がない面はあったが、見応えのある充実した内容であった。40名参加。

日時：10月16日(日)

場所：茨城県近代美術館、天心記念五浦美術館 他

○「柳宗悦の民藝と巨匠たち展」特別ギャラリートークと茶話会

企画展示室で、展覧会企画学芸員による友の会会員のためのギャラリートークを開催。その後、講義室にて茶話会を開催し、会員同士の交流を深めた。約50名参加。

日時：10月22日(土) 14:00-16:00

場所：会議室、企画展示室、講義室

講師：佐治ゆかり（当館主任学芸員）

○美術館教養講座「ルーブルとパリの美術館を楽しむ」

多くの美術ファンに人気の高いルーブル美術館を初めとするパリの美術館に焦点をあてた美術教養講座を開催した。友の会会員と学芸員・外来講師の交流も兼ね、パリや美術にちなんだ内容で肩の凝らない楽しい講座となった。毎回50名以上の参加者があり、人気の高い講座である。

第1回：11月20日(日) 14:00-16:00

第2回：1月29日(日) 14:00-16:00

第3回：3月12日(日) 14:00-15:30

○実技講座

美術館で開発した鑑賞用補助教材〈ART CUBE〉を利用して、展示室内で作品鑑賞を行った。通常の鑑賞方法だけでは気付かない様々な動機付けによって、各作品の新しい魅力を発見できた。約10名参加。

日時：1月28日(土) 13:30-15:30

講師：橋本淳也（当館副主任学芸員）

内容：「ART CUBE で楽しむ展覧会」

○福島県立美術館友の会「会報」第4号発行

第4号の友の会会報誌発行

日時：2006年2月

内容：活動報告／エッセイ特集／御案内と表紙について

○「名取洋之助と日本工房展」特別ギャラリートークと茶話会

企画展示室で、展覧会企画学芸員による友の会会員のためのギャラリートークを開催。その後、講義室にて茶話会を開催し、会員同士の交流を深めた。約15名参加。

日時：2月25日(土) 14:00-16:00

場所：企画展示室、講義室

講師：堀宜雄（当館主任学芸員）

○ミュージアム・コンサートとパーティー

友の会・美術館・協会の共催で第3回美術館教養講座「ルーブルとパリの美術館を楽しむ」関連事業及び会員相互の親睦会と新年度会員募集を目的としたミュージアム・コンサート、パーティーを開催した。約100名の聴衆、約50名のパーティー参加者を得て、盛会であった。

日時：3月12日(日) 16:00～19:00

内容：第1部 コンサート

場所：エントランスホール

演奏：貝山幸子、白土庸介

演目：シャンソン（愛の賛歌他）、ギターソロ演奏、青葉城恋唄 他

第2部 パーティー

場所：エントランスホール

コンサートの奏者、友の会会員、美術館員間の親睦会

◆福島県立美術館協力会 活動報告

社会の変化とともに美術館の役割や美術館に対する県民の意識もまた変化しており、単に鑑賞するだけの施設でなく、県民がより豊かな生活を送るための学習の場、いわゆる生涯学習時代の文化拠点、憩いの場としての役割が美術館には求められるようになってきている。

こうした趨勢を踏まえて、多くの県民が広く美術に親しみ、美術を楽しむことができる機会を提供することにより、本県美術文化の振興と心豊かな県民の育成に寄与することを目的に「福島県立美術館協力会」が設立され、2004年6月7日付けで特定非営利活動法人（NPO 法人）として認証を受けた。

2006年3月31日現在の会員数は28名（団体12件、個人16名）である。

○協力会の主な活動

- ・美術についての教養を高め、美術を楽しむための活動（美術に関する講演会、講座、研修旅行、コンサート等）
- ・実制作の体験を通して、表現の喜びを味わい、美術に親しむための活動（実技講座、ワークショップ等）

○特典

- ・会員証の交付
- ・企画展、常設展の優待
- ・展覧会図録の配布
- ・美術館ニュース等の送付
- ・企画展内覧会への招待
- ・協力会各種事業への招待 など

○2005年度の事業活動

6月18日	展覧会レセプションの開催
12月 1日～25日	ミュージアムクリスマスの開催
3月12日	ミュージアムコンサートの開催

◆委員会等・組織図

□美術館運営協議会

1. 委員名簿

氏名	所属	任期
久保恵美子	福島県中学校教育委員会美術部会	2003.1.1-
小原 節子	福島県高等学校研究会美術工芸部会	2003.1.1-
高城 俊春	財団法人福島県文化振興事業団理事長	2005.1.1-
栗津 則雄	いわき市立草野心平記念文学館館長	2003.1.1-
西村 榮悟	福島県美術家連盟会長	1997.1.1-
田口信太郎	日本放送協会福島放送局長	2003.7.12-
湯浅 孝子	財団法人湯浅報恩会理事長	1997.1.1-
雪山 行二	横浜美術館館長	2003.1.1-
辻 みどり	福島大学行政政策学類教授	2005.1.1-
阿部 泰宏	株式会社福島フォーラム支配人	2003.1.1-

2. 協議会の開催

日時：2006 年 2 月 23 日(休) 10:30-12:00

会場：美術館会議室

議事：1) 平成 17 年度事業実績の概要について

2) 平成 18 年度予算の概要

3) 平成 18 年度事業計画の概要について

4) 福島県立美術館の運営等について

□収集評価委員会

1. 委員名簿

氏名	所属	任期
村田 哲朗	郡山女子大学短期大学部教授	1996.11.21-
真室 佳武	東京都美術館長	1996.11.21-
尾崎 正明	東京国立近代美術館副館長	2003.12.1-
長谷川三郎	宮城県美術館長	2005.12.1-
山梨 俊夫	神奈川県立近代美術館長	2005.12.1-

2. 委員会の開催

日時：2006 年 2 月 1 日(休) 14:00-15:30

会場：美術館応接室

議事：1) 平成 16 年度収集作品の報告

2) 平成 17 年度購入候補作品について

□他館との連携

1. 加盟団体

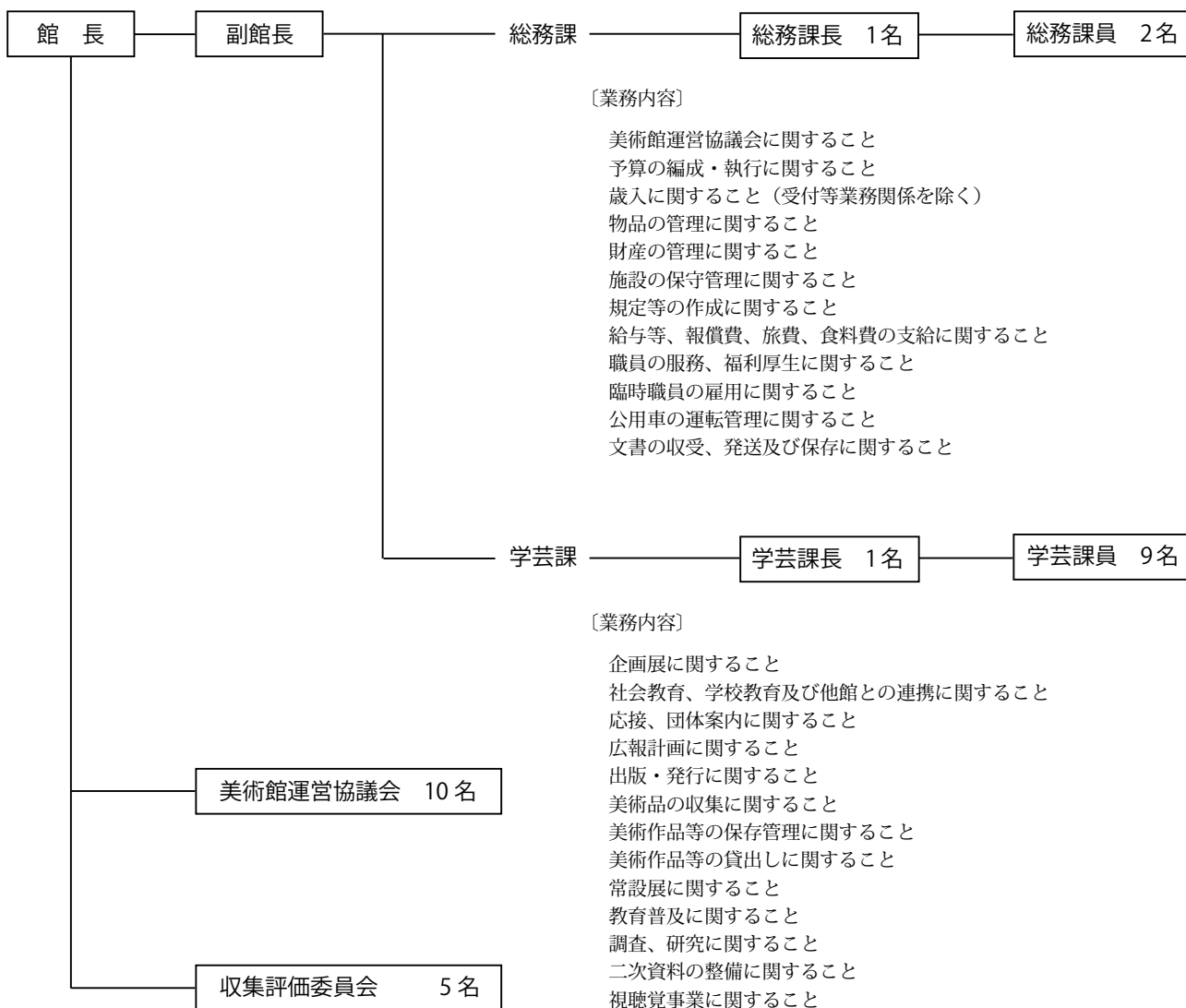
全国美術館会議（理事）、美術館連絡協議会（理事）、日本博物館協会（会員）、日本博物館協会東北支部（監事）、東北地区博物館協会（監事）、東北美術館会議（会員）、福島県博物館連絡協議会（理事）

2. 公務視察等の受入れ

- | | |
|------------------|-------------------|
| 1) 公務視察受入 | 2 件（福岡県議会文教委員会ほか） |
| 2) アンケート回答・調査協力等 | 5 件 |
| 3) 体験学習 | 1 件（福島市立松陵中学校） |

□組織図・職員名簿

1. 組織図



2. 職員名簿（2006年3月31日現在）

館長	酒井 哲朗	(2000.4.1-)
副館長	川田 明	(2005.4.1-2006.3.31)
総務課長	中山 兼一	(2004.4.1-)
総務課 主査	渡辺 憲雄	(2005.4.1-)
総務課 主査	早坂 亜紀	(2003.4.1-)
学芸課長	早川 博明	(文化施設整備室 1980.4.1-2006.3.31)
学芸課 主任学芸員	久慈 伸一	(文化施設整備室 1982.4.1-)
学芸課 同	伊藤 匡	(文化施設整備室 1983.4.1-)
学芸課 同	佐治 ゆかり	(1984.4.1-)
学芸課 同	荒木 康子	(1990.4.1-)
学芸課 同	堀 宜雄	(1989.4.1-)
学芸課 同	吉村 有子	(1990.7.1-)
学芸課 同	宮武 弘	(1992.4.1-)
学芸課 同	増渕 鏡子	(1993.4.1-)
学芸課 副主任学芸員	橋本 淳也	(2005.4.1-)

□利用案内

1. 開館時間 9:30 ～ 17:00（最終入館は 16:30 まで）
※夜間開館を行うことがあります。
2. 休館日 1) 月曜日（祝祭日をのぞく）
2) 祝祭日の翌日（土日をはのぞく）
3) 年末年始（12/28 ～ 1/4）
3. 観覧料 1) 常設展 一般・大学生 260 円（210 円）
高校生以下 無料
※（ ）内は 20 名以上の団体料金
2) 企画展 その都度料金が変わります。
※企画展の料金で常設展もご覧になれます。
※企画展のみの観覧券は発行していません。
※ふくしま教育週間（11/1 ～ 7）中は、小・中・高校生は企画展料金も無料。
※身体障害者手帳・療育手帳・精神障害者保険福祉手帳をお持ちの方は企画展料金が無料（付き添いの方も無料）
4. 常設展無料 1) 子供の日（5/5）、県民の日（8/21）、敬老の日（9 月第 3 月曜）、文化の日（11/3）
2) 身体障害者手帳・療育手帳・精神障害者保険福祉手帳をお持ちの方（付き添いの方も無料）
3) 小・中・高校生（団体の場合、引率者も無料）
5. 常設展減額免除 常設展料金無料 ・大学生が、学校活動の一環で観覧するとき
常設展料金半額 ・公民館や公共団体が主催する講習会、講座等の活動として観覧するとき
※事前申請が必要です。いずれも引率者無料となります。
6. 年間観覧券 常設展・企画展ともに一年間何度でも入館可（年度ごとに料金は異なります）

□交通案内

1. J R 福島駅（東口）より 電車 福島交通飯坂線「美術館図書館前駅下車」下車、徒歩 3 分
バス 9 番バス乗り場より、福島交通市内循環 2 コース「県立美術館入口」下車、徒歩 4 分
タクシー 約 5 分
2. 自家用車で 東北自動車道・福島飯坂 I C より約 15 分、福島西 I C より約 20 分
※駐車場 150 台収容

福島県立美術館年報 平成17年度・2005

2006 年 12 月 21 日 発行

編集・発行 福島県立美術館
〒960-8003 福島市森合字西養山 1 番地
Tel. 024-531-5511
Fax. 024-531-0447
HP <http://www.art-museum.fks.ed.jp>

印刷 キング印刷株式会社

